

0057332-000

特 2 6 3 - 2 9 2

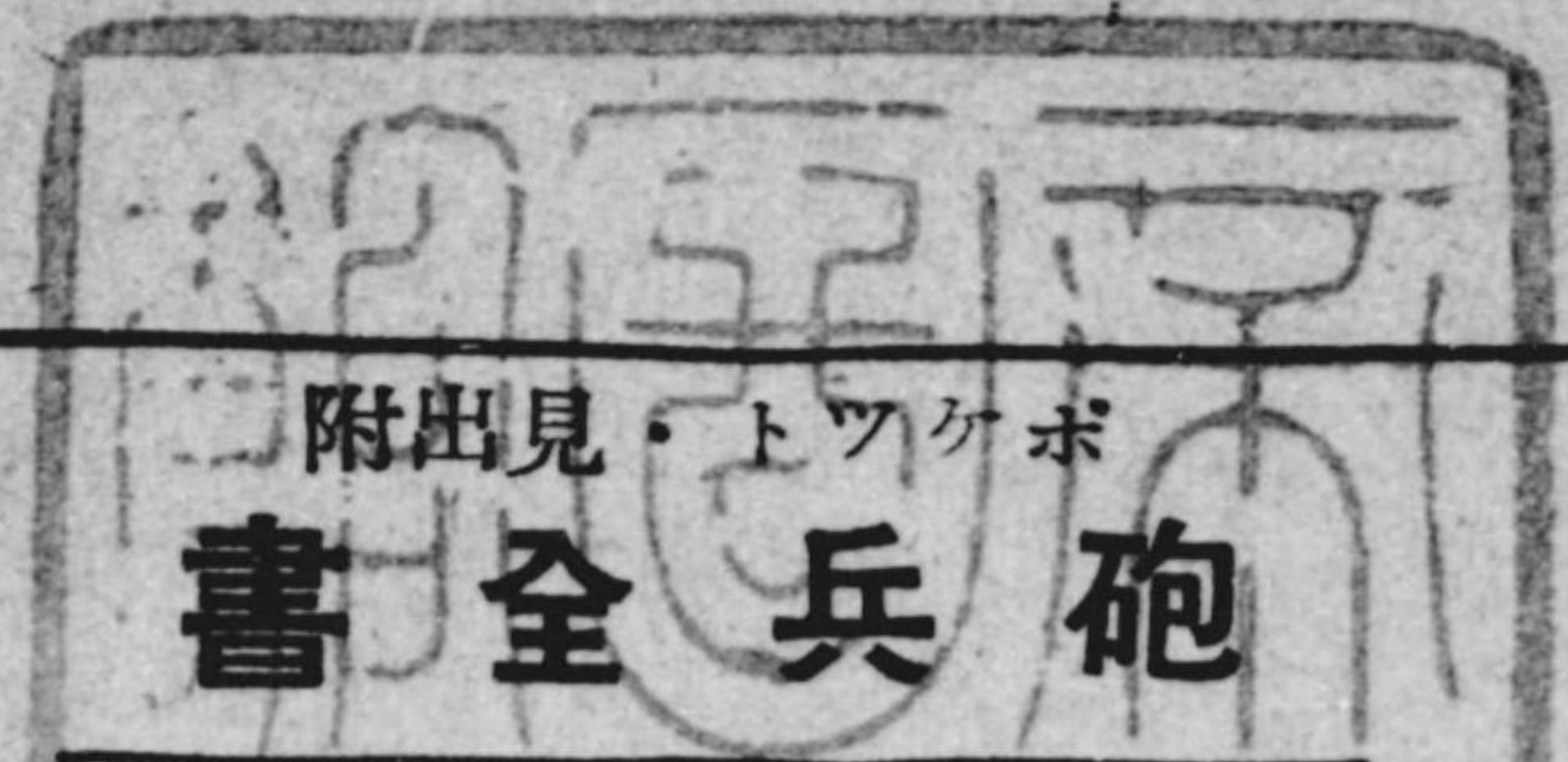
砲兵全書

尚兵館

改版
昭和 1 3

AJF

特263
296



附出見・上ツケホ

砲兵全書

- ① 砲兵操典
- ② 砲兵射擊教範
- ③ 作戰要務令綱領、總則及第一部
- ④ 野戰築城教範
- ⑤ 野戰築城教育規定
- ⑥ 瓦斯防護教範草案
- ⑦ 軍隊內務書
- ⑧ 衛戍勤務令
- ⑨ 陸軍禮式禮式附錄
- ⑩ 陸軍刑法
- ⑪ 陸軍懲罰令
- ⑫ 陸軍軍隊符號

行發・館兵尚・京東

勅語
朕多年ノ經驗殊ニ最近軍事ノ進
運ニ鑑ミ茲ニ砲兵操典ヲ改訂ス
益々研鑽應用其宜シキヲ得以テ
改正ノ本色ヲ發揮セムコトヲ勉
ムヘシ

朕砲兵操典ヲ改定シ之カ施行ヲ
命ス

御名御璽

昭和四年二月六日

陸軍大臣 白川 義則

軍令陸第二號

砲兵操典

砲操

砲兵操典目次

綱領	一
總則	二
徒步教練	三
通則	四
第一章 各個教練	五
不動ノ姿勢	六
右(左)向及後向	七
行進	八
第二章 中隊教練	九
編成及隊形	一〇
整頓	一一
右(左)向及後向	一二
行進	一三
方向變換	一四
解散及集合	一五
野戰砲兵	一六
第一篇 分隊教練	一七

通則	一八
第一章 基本	一九
第一節 野、騎、山砲	二〇
第一款 編成、隊形及分隊長以下ノ定位	二一
第二款 運動	二二
野、騎砲	二三
繫駕及脫駕	二四
下馬及乘馬	二五
行進	二六
乘車及下車	二七
放列布置及撤去	二八
山砲	二九
繫駕、脫駕、馱載及卸下	三〇
行進及旋回	三一
放列布置及撤去	三二
第三款 射擊	三三
射擊用意及解除	三四
射向附與	三五
彈藥及信管ノ準備	三六

砲兵

射角附與及信管測合	六二
裝填	六三
發射	六四
諸元ノ變更	六五
散布	六六
掃射	六七
表尺照準	六八
諸元ノ保留及使用	六九
射擊ノ中止、再興及停止	七〇
第二節 十五榴	七一
第一款 編成、隊形及分隊	七二
長(彈藥車長)以下	七三
ノ定位	七四
第二款 運動	七五
繫駕及脫駕	七六
下馬及乘馬	七七
行進	七八
乘車及下車	七九
放列布置及撤去	八〇
第三款 射擊	八一
射擊	八二

射擊用意及解除	八九
裝填及照準	九〇
發射	九一
諸元ノ變更	九二
散布	九三
諸元ノ保留及使用	九四
射擊ノ中止、再興及停止	九五
第三節 十加	九六
第一款 編成及分隊長(彈藥車長)以下ノ定位	九七
第二款 運動	九八
始動及運轉停止	九九
牽引自動車ノ接續及離脫	一〇〇
行進	一〇一
乘車及下車	一〇二
射擊位置及途上位置	一〇三
放列布置及撤去	一〇四
第三款 射擊	一〇五
射擊用意及解除	一〇六
射向附與	一〇七
射擊	一〇八
射擊	一〇九
射擊	一一〇
射擊	一一一
射擊	一一二
射擊	一一三
射擊	一一四

彈藥及信管ノ準備	二二七
射角附與及信管測合	二二八
裝填	二三〇
發射	二三一
諸元ノ變更	二三三
散布	二三四
掃射	二三五
諸元ノ保留及使用	二三六
射擊ノ中止、再興及停止	二三七
第二章 戰	二三七
要則	二三七
第一節 陣地占領及撤去	二三八
第二節 射擊	二三三
第三節 戰間兵卒一般ノ心得	二三七
第二篇 中隊教練	二二九
通則	二二九
第一章 編成及隊形	二二九
第二章 運動	二二九
要則	二二九

砲廠進入及退去	二五二
整頓	二五二
行進	二五二
間隔ノ開閉、方向變換及隊形變換	二五二
放列布置及撤去	二五二
第三章 陣地偵察	二五二
第四章 陣地占領	二五二
要則	二五二
第一節 射擊諸元ノ決定、敵情搜索、射彈觀測及連絡ノ施設	二五二
第二節 陣地進入及陣地設備	二五二
第五章 射擊	二五二
要則	二五二
第一節 射擊操作	二五二
第二節 射擊指揮	二五二
第六章 陣地變換	二五二
第七章 人馬、材料及彈藥ノ補充	二五二

第三篇 大隊教練	一九四
通則	一九四
第一章 集合隊形	一九四
第二章 陣地偵察	一九五
第三章 展開	一九七
第四章 射擊指揮	二〇一
第五章 陣地變換	二〇四
第六章 人馬、材料及彈藥ノ整備、補充	二〇五
第四篇 聯隊及聯隊以上ノ教練	二〇六
重砲兵第一篇乃至第四篇省略	二〇七
戰間原則	二〇七
第一篇 野戰砲兵及攻城重砲兵	二〇七
通則	二〇七
第一章 軍隊區分、任務及戰間區域	二一〇
第二章 陣地偵察及展開	二二三
第三章 連絡	二二九
第四章 測地及氣象	二三三
第五章 情報	二三四

第六章 射擊指揮	二三八
第一節 射擊指揮ノ要則	二三八
第二節 各種目標ニ對スル射擊	二三三
第七章 陣地變換	二四六
第八章 人馬、材料及彈藥ノ整備、補充	二四八
砲兵操典附錄	二五一
其一 敬禮及觀兵ノ制式並刀及喇叭ノ取扱法	二五一
要則	二五一
捧銃	二五二
頭右(左)	二五二
觀兵ノ制式	二五三
刀及喇叭ノ取扱法	二五三
其二 小銃ノ使用及戰間法	二五三
其三 拳銃ノ使用法	二五五
其四 機關銃ノ使用法	二六九
其五 三八式野砲ノ使用法	二七〇

附 附 表 第一第二省略

- 第一 野砲兵聯隊
- 其二 騎砲兵大隊
- 其三 山砲兵聯隊
- 其四 野戰重砲兵(十五榴)聯隊
- 其五 野戰重砲兵(十加)聯隊
- 其六 重砲兵聯隊 省略
- 第二 分列式ノ隊形
- 其一 野、山砲兵聯隊及騎砲兵大隊
- 其二 野戰重砲兵(十五榴)聯隊
- 其三 野戰重砲兵(十加)聯隊

砲兵操典目次終

砲兵操典

綱 領

軍ノ主眼ノ一般ノ戰目ノ要
 戰ノ目的ノ要
 念必勝ノ信
 軍紀
 獨斷專行

第一 軍ノ主トスルトコロハ戰團ナリ故ニ百事皆戰團以テ基準トスヘシ而シテ戰團一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒殲滅シテ迅速ニ戰捷ヲ獲得スルニ在リ

第二 戰捷ノ要ハ有形無形上ノ各種戰團要素ヲ綜合シテ敵ニ優ル威力ヲ要點ニ集中發揮セシムルニ在リ

第三 訓練精到ニシテ必勝ノ信念堅ク軍紀至嚴ニシテ攻撃精神充溢セル軍隊ハ能ク物質的威力ヲ凌駕シテ戰捷ヲ完ウシ得ルモノトス

第四 必勝ノ信念ハ主トシテ軍ノ光輝アル歴史ニ根源シ周到ナル訓練ヲ以テ之ヲ培養シ卓越ナル指揮統帥ヲ以テ之ヲ充實ス

第五 赫々タル傳統ヲ有スル國軍ハ愈々忠君愛國ノ精神ヲ砥礪シ益々訓練ノ精熟ヲ重ネ戰團慘烈ノ極所ニ至ルモ上下相信倚シ毅然トシテ必勝ノ確信ヲ持セサルヘカラス

第六 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ戰線幾十里ニ互リ到ル處境遇ヲ異ニシ且諸種ノ任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊ヲシテ上將帥ヨリ下一卒ニ至ルマテ脈絡一貫克ク一定ノ方針ニ從ヒ衆心一致ノ行動ニ就カシメ得ルモノ即チ軍紀ナリ而シテ軍紀ノ要素ハ服從ニ在リ全軍ノ將卒ヲシテ至誠上長ニ服從シ其命令ヲ遵守スルヲ以テ第二ノ天性ト成サシムルヲ要ス

第七 凡ソ兵戰ノ事タル獨斷ヲ要スルモノ頗ル多シ然レトモ獨斷ハ其精神ニ

於テハ決シテ服從ト相反スルモノニアラス常ニ上官ノ意圖ヲ明察シ大局ヲ判
 斷シテ狀況ノ變化ニ應シ自ラ其目的ヲ達シ得ヘキ最良ノ方法ヲ選ビ以テ機宜
 ヲ制セサルヘカラス
第六 軍隊ハ常ニ攻撃精神充溢シ志氣旺盛ナラサルヘカラス
第六 攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ヨリ發スル軍人精神ノ精華ニシテ鞏固ナル軍隊志
 氣ノ表徴ナリ武技之ニ依リテ精ヲ致シ教練之ニ依リテ光ヲ放チ戰鬪之ニ依リ
 テ捷ヲ奏ス蓋シ勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且攻撃精
 神ニ富メル軍隊ハ克ク寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノナレハナリ
第七 協同一致ハ戰鬪ノ目的ヲ達スル爲極メテ重要ナリ兵種ヲ論セス上下ヲ
 問ハス戮力協心全軍一體ノ實ヲ舉ケ始メテ戰鬪ノ成果ヲ期シ得ヘク全般ノ情
 勢ヲ考察シ各々其職責ヲ重シ一意任務ノ遂行ニ努力スルハ即チ協同一致ノ
 趣旨ニ合スルモノナリ而シテ諸兵種ノ協同ハ歩兵ヲシテ其目的ヲ達成セシム
 ルヲ主眼トシ之ヲ行フヲ本義トス
第八 戰鬪ハ輓近著シク複雜艱強ノ性質ヲ帶ヒ且資材ノ充實、補給ノ圓滑ハ
 必スシモ常ニ之ヲ望ムヘカラス故ニ軍隊ハ堅忍不拔克ク困苦缺乏ニ堪ヘ難局
 ヲ打開シ戰捷ノ一途ニ邁進スルヲ要ス
第九 敵ノ意表ニ出ツルハ機ヲ制シ勝ヲ得ルノ要道ナリ故ニ旺盛ナル企圖心
 ト追隨ヲ許ササル創意ト神速ナル機動トヲ以テ敵ニ臨ミ常ニ主動ノ位置ニ立
 チ全軍相戒メテ嚴ニ我力軍ノ企圖ヲ秘匿シ疾風迅雷敵ヲシテ之ニ對應スルノ
 策無カラシムルコト緊要ナリ

指揮官ト
第十 指揮官ハ軍隊指揮ノ中樞ニシテ又其團結ノ核心ナリ故ニ常時部下ト苦
 樂ヲ俱ニシ率先躬行軍隊ノ儀表トシテ其尊信ヲ受ケ劍電彈雨ノ間ニ立チ勇猛
 沈著部下ヲシテ仰キテ富嶽ノ重キヲ感セシメサルヘカラス
 爲ササルト遲疑スルトハ指揮官ノ最モ戒ムヘキトコロトス是此兩者ノ軍隊ヲ
 危殆ニ陥ラシムルコト其方法ヲ誤ルヨリモ更ニ甚シキモノアレハナリ
第十一 砲兵ノ本領ハ威力強大ニシテ機動迅速ナル火力ニ依リ戰鬪ノ骨幹ヲ
 成形成シテ敵ヲ壓倒震駭シ友軍ノ志氣ヲ鼓舞作興シ以テ全軍戰捷ノ途ヲ拓キ或
 ハ敵艦ヲ擊滅シテ其企圖ヲ破摧スルニ在リ
 野戰砲兵及攻城重砲兵ハ他兵種特ニ歩兵ト協同シ又要塞重砲兵ハ通常海軍ト
 協同シテ戰鬪スヘキモノトス故ニ砲兵ハ他兵種若ハ海軍ノ性能及戰鬪法ヲ熟
 知シ終始一心同體ノ信念ヲ以テ緊密ナル精神的連鎖ヲ確保シ協同ノ實ヲ舉ケ
 其本領ヲ發揮スルヲ要ス
 砲兵ハ常ニ其戰鬪力ヲ充實スル爲兵器ヲ尊重シ彈藥ヲ節用シ馬匹ヲ愛護スル
 コト緊要ナリ
第十二 戰鬪ニ於テハ百事簡單ニシテ且精練ナルモノ能ク成功ヲ期シ得ヘシ
 典令ハ此趣旨ニ基キ軍隊訓練上主要ナル原則、法則及制式ヲ示スモノニシテ
 之ヲ運用ノ妙ハ人ニ存ス固ヨリ妄ニ典則ニ乖クヘカラス又之ニ拘泥スルコト
 ナク常ニ工夫ヲ積ミ創意ニ勉メ以テ其實效ヲ揚ケサルヘカラス

砲兵ノ本
運用ノ妙

的教練ノ目

第一 教練ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ諸制式及諸法則ニ習熟セシムルト同時ニ軍紀嚴正ニシテ精神鞏固ナル軍隊ヲ練成シ以テ戰鬪百般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

動作ノ熟達、武技ノ巧妙固ヨリ可ナリト雖精神充實セサルトキハ實戰ニ於テ其眞價ヲ發揮シ難シ故ニ教練ヲ實施スルニ方リテハ常ニ思フ實戰ニ致シ能ク軍人ノ本分ヲ自覺シ服從ノ本義ニ基キ誠意奮勵スルコト緊要ナリ

第二 中隊長以上ノ諸隊長ハ操典ヲ遵守シテ部下ヲ教育シ教練ノ目的ヲ達スヘキ責任ヲ有ス故ニ自ラ適切ナル教育ノ手段、方法ヲ選定スヘシ然レトモ妄ニ細密ナル事項ヲ規定シ制式、法則ノ内容ヲ複雜ナラシムルヲ許サス

上官ハ絶エス部下教練ノ實施ヲ監督シテ其進歩ヲ圖ルヘシ之カ爲唯外形ノミニ著意スルコトナク深ク其内容ヲ審ニスルコト緊要ナリ

第三 操典ノ制式及法則ニハ戰鬪ノ要求ニ從ヒ訓練ノ目的ニ應ジ輕重アルノミナラス各制式、各法則中ニモ自ラ主客ノ部分アリ故ニ諸隊長ハ能ク之ヲ判別シ訓練ノ度ヲ適當ニ定メ以テ其本末ヲ誤ラサルコトニ留意セサルヘカラス

第四 戰鬪ノ基礎タル諸教練ハ中隊ニ於テ之ヲ完了スルモノトス

大隊以上ニ在リテハ主トシテ諸般ノ戰況ニ於ケル統一指揮並各部隊ノ協同動作ヲ訓練スルモノトス

野戰砲兵ニ在リテハ他兵種特ニ步兵及他ノ砲兵ト、重砲兵ニ在リテハ他ノ砲兵及他兵種又ハ海軍ト連合スル教練ハ特ニ緊要ナリ故ニ勉メテ機會ヲ求メ之

射擊ノ緊要ノ行

第五 射擊ハ砲兵ノ爲最モ緊要ナリ故ニ之ニ關スル教練ハ特ニ留意シテ實施シ且實射ト相俟チテ其完成ヲ期スヘキモノトス

第六 砲兵ハ夜間ノ行動ニ熟達セサルヘカラス故ニ屢々夜間ノ教練ヲ行ヒ各指揮官ヲシテ困難ナル指揮掌握ニ慣レシムルト共ニ軍隊ヲシテ各種ノ狀況特ニ地形ニ於テ混雜スルコトナク靜肅且成ルヘク速ニ豫期ノ地點ニ到達シテ戰鬪準備ヲ整ヘ戰鬪ヲ實行シ得シムル如ク訓練スルヲ緊要トス

第七 命令、通報及報告ノ迅速確實ナル傳達ハ軍隊指揮ニ缺クヘカラス要素ニシテ又各部隊ノ協同動作ノ爲必須ノ要件ナリ故ニ各指揮官ハ絶エス連絡ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ困難ナル狀況ニ於テモ諸種ノ手段ヲ盡シテ其實施ヲ敏活且確實ナラシムル如ク演練スルヲ必要トス

第八 戰場ニ在リテハ上空及地上又ハ海上ノ敵ニ對シ我カ企圖及行動ヲ秘匿スルコト特ニ緊要ナリ故ニ教練ノ實施ニ方リテハ蔭影ヲ利用スル遮蔽、偽裝若ハ偽行動等ニ依リ其目的ヲ達スル如ク訓練スルヲ必要トス

第九 砲兵ハ敵ノ瓦斯攻撃ヲ受ケ或ハ撒毒地域ニ遭遇スルモ洗滌ナク戰鬪ヲ遂行シ得サルヘカラス之カ爲晝夜ヲ問ハス瓦斯ニ對スル搜索、警戒及防護並防護ヲ施セル場合ノ動作ニ習熟セシムルコト緊要ナリ

第十 戰場ニ於ケル迅速確實ナル彈藥ノ補充ハ砲兵ノ戰鬪力ヲ保持増進スル爲緊要ナルヲ以テ適宜此演習ヲ實施スルヲ要ス

第十一 兵器ノ取扱、保存ノ良否ハ砲兵ノ戰鬪力ニ影響スルコト極メテ大ナ

命令通報
報告ノ傳達
乃至陣兵
企圖行動
ノ秘匿
瓦斯攻撃
對スル
動作
彈藥補充
兵器

馬匹	人馬材料ノ缺損	諸演習ノ併行	教練ノ順序	教練ノ目
發揚スルニ遺憾ナキヲ期スヘシ	第十二 馬匹ノ能力ハ野戰砲兵ノ戰鬪力ニ至大ノ影響ヲ及スノミナラス兵卒教育ノ進歩ニ甚大ナル關係ヲ有ス故ニ幹部以下能ク馬匹ヲ調教保育シ且愛護ヲ加ヘ以テ必要ニ際シ其最大能力ヲ發揮セシムルヲ要ス	第十四 教練ト共ニ諸教範ニ規定セル諸演習ヲ併セ行ヒ以テ幹部以下ヲシテト緊要ナリ	第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖荷モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス	動モスレハ形式ニ陥リ終ニ戰鬪ニ適セサルニ至ルヘシ 第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス
第十三 教練ニ際シテハ人馬ノ材料等ノ缺損セル場合ニ於テモ幹部及兵卒ノ適切ナル協同ト應急處置トニ依リ遺憾ナク戰鬪ヲ遂行シ得ル如ク訓練スルコト緊要ナリ	第十三 教練ニ際シテハ人馬ノ材料等ノ缺損セル場合ニ於テモ幹部及兵卒ノ適切ナル協同ト應急處置トニ依リ遺憾ナク戰鬪ヲ遂行シ得ル如ク訓練スルコト緊要ナリ	第十四 教練ト共ニ諸教範ニ規定セル諸演習ヲ併セ行ヒ以テ幹部以下ヲシテト緊要ナリ	第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖荷モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス	第十八 兵卒ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラシムルモノトス
第十四 教練ト共ニ諸教範ニ規定セル諸演習ヲ併セ行ヒ以テ幹部以下ヲシテト緊要ナリ	第十四 教練ト共ニ諸教範ニ規定セル諸演習ヲ併セ行ヒ以テ幹部以下ヲシテト緊要ナリ	第十四 教練ト共ニ諸教範ニ規定セル諸演習ヲ併セ行ヒ以テ幹部以下ヲシテト緊要ナリ	第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖荷モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス	第十九 就中戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ現地ニ就キ實施ノ要領ヲ攻究シ周到ナル準備ヲ整ヘ且其動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシメ絶エス潑刺タル企圖心ノ養成ニ留意スルコト緊要ナリ
第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖荷モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス	第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖荷モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス	第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖荷モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス	第十六 基礎ノ教練ヲ行フニ際シテハ兵卒ニ其目的及精神ヲ説明シ其心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ否スンハ教練ハ	第二十 教練ヲ行フニハ異ナリタル地形ニ於テ各種ノ動作ヲ演練スルコト緊要ナリ然レトモ實際ニ在リテハ土地ノ制限ヲ受クルコト多キヲ以テ巧ニ之ヲ利用シテ克ク教練ノ目的ヲ達スルコトニ留意セサルヘカラス
第十六 基礎ノ教練ヲ行フニ際シテハ兵卒ニ其目的及精神ヲ説明シ其心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ否スンハ教練ハ	第十六 基礎ノ教練ヲ行フニ際シテハ兵卒ニ其目的及精神ヲ説明シ其心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ否スンハ教練ハ	第十六 基礎ノ教練ヲ行フニ際シテハ兵卒ニ其目的及精神ヲ説明シ其心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ否スンハ教練ハ	第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス
第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	第十八 兵卒ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラシムルモノトス	第二十二 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ實戰ノ光景及感想ヲ現スコトニ

戰況ヲ設	想定	動作	各異ノ地形各異ノ地	的教練ト目	練教育ト熟	密教育ノ綿	教育ノ綿
第二十二 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ實戰ノ光景及感想ヲ現スコトニ	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス	第二十 教練ヲ行フニハ異ナリタル地形ニ於テ各種ノ動作ヲ演練スルコト緊要ナリ然レトモ實際ニ在リテハ土地ノ制限ヲ受クルコト多キヲ以テ巧ニ之ヲ利用シテ克ク教練ノ目的ヲ達スルコトニ留意セサルヘカラス	第十九 就中戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ現地ニ就キ實施ノ要領ヲ攻究シ周到ナル準備ヲ整ヘ且其動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシメ絶エス潑刺タル企圖心ノ養成ニ留意スルコト緊要ナリ	第十八 兵卒ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラシムルモノトス	第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	動モスレハ形式ニ陥リ終ニ戰鬪ニ適セサルニ至ルヘシ
第二十二 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ實戰ノ光景及感想ヲ現スコトニ	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス	第二十 教練ヲ行フニハ異ナリタル地形ニ於テ各種ノ動作ヲ演練スルコト緊要ナリ然レトモ實際ニ在リテハ土地ノ制限ヲ受クルコト多キヲ以テ巧ニ之ヲ利用シテ克ク教練ノ目的ヲ達スルコトニ留意セサルヘカラス	第十九 就中戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ現地ニ就キ實施ノ要領ヲ攻究シ周到ナル準備ヲ整ヘ且其動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシメ絶エス潑刺タル企圖心ノ養成ニ留意スルコト緊要ナリ	第十八 兵卒ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラシムルモノトス	第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	動モスレハ形式ニ陥リ終ニ戰鬪ニ適セサルニ至ルヘシ
第二十二 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ實戰ノ光景及感想ヲ現スコトニ	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス	第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰鬪スル場合ヲ考慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得且常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス	第二十 教練ヲ行フニハ異ナリタル地形ニ於テ各種ノ動作ヲ演練スルコト緊要ナリ然レトモ實際ニ在リテハ土地ノ制限ヲ受クルコト多キヲ以テ巧ニ之ヲ利用シテ克ク教練ノ目的ヲ達スルコトニ留意セサルヘカラス	第十九 就中戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ現地ニ就キ實施ノ要領ヲ攻究シ周到ナル準備ヲ整ヘ且其動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシメ絶エス潑刺タル企圖心ノ養成ニ留意スルコト緊要ナリ	第十八 兵卒ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラシムルモノトス	第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及スヲ可トス	動モスレハ形式ニ陥リ終ニ戰鬪ニ適セサルニ至ルヘシ

ケル教練 勉メ幹部以下ノ動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシムルコト緊要ナリ之方爲審判官ヲ設ケ適時ニ彼我ノ狀況特ニ射擊效力ヲ通告セシムルヲ可トス

第二十三 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ目的ニ應ジ少數ノ人馬及若干ノ擬砲火、爆包、標旗或ハ標的等ヲ以テ敵及友軍ノ狀態ヲ表ハシ又ハ實員部隊ヲ對抗セシムルヲ可トス

第二十四 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ方リ若動作ノ適當ナラサルモノアラハ單ニ注意ヲ與フルニ止ムルコトナク爲シ得レハ之ヲ復行スル等各種ノ手段ヲ盡シ以テ其成果ヲ收メサルヘカラス

第二十五 砲兵ハ機能良好ナル兵器、材料ヲ以テ教練ヲ實施スルコト特ニ緊要ナリ是其機能ノ良否ハ教育ノ成果ニ影響スルコト大ナレハナリ

第二十六 幹部ハ特ニ其態度、服裝ヲ正シクシ常ニ自ラ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スヘシ是幹部ノ率先躬行ハ兵卒ニ精神上多大ノ感響ヲ與フルモノナレハナリ

幹部ノ説明ニハ勉メテ平易ナル詞ヲ用フルコト必要ナリ

第二十七 教練間兵卒ハ各自各異ノ動作ヲ爲ササルヘカラサル場合多シ故ニ幹部ハ特ニ監督ヲ嚴シ常ニ軍紀ノ緊肅ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

第二十八 指揮官ハ教練ニ於テモ實戰ニ在リテ取ルヘキ姿勢ト位置トヲ選ヒテ部下ヲ指揮スルコトニ慣ルルコト必要ナリ

上級指揮官ハ教練上必要アルトキハ其欲スルトコロニ從ヒ姿勢ト位置トヲ選フコトヲ得又下級指揮官ニモ此ノ如キ自由ヲ許スコトアリ

平時ノ願 第二十九 教練ニ際シ平時ノ願慮上時トシテ實際ト異ナル處置、動作ヲ爲サシメサルヲ得サルコトアリ此場合ニ於テハ指揮官ハ要スレハ部下ニ其理由ヲ説明スヘシ又工事等ヲ實施シ得サルトキト雖其計畫ヲ立案シ且之方準備作業ハ勉メテ之ヲ實行スヘシ

第三十 指揮官ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ能ク部下ヲ囑リテ水火ヲモ敢テ辭セサラシムヘキモノナルヲ以テ堅確ナル決意、嚴肅ナル態度ヲ以テ下スヘシ而シテ號令ハ明快ナル音調ト適切ナル節度トヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス之方爲ニハ勉メテ號令詞ヲ用フルヲ便トス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ於テハ豫令ト動令トノ間ニ適當ノ時間ヲ存シ且豫令ハ明瞭ニ動令ハ最モ快活ニ發唱シ其音調ハ教練ノ種類ニ應ジ長短緩急宜シキヲ得サルヘカラス操典中豫令ハ行書シテ區別ス

第三十一 指揮官ハ狀況ニ依リ記號若ハ號音ヲ以テ號令及命令ニ代ヘ又連絡ノ爲記號ヲ用フルコトアリ而シテ記號ハ手、刀、旗、火光、信號彈及音響等ヲ以テ行フモノトス

第三十二 數ニ關スル號令及報告ハ特ニ明瞭ニ發唱シ誤謬ヲ生セシメサルヲ要ス之方爲方向及高低ノ諸分畫、信管修正分畫、信管分畫ニシテ十位數ニ續カサルモノ及十以下ニ屬スルモノハ一ツ、二ツ、三ツ、四ツ、五ツ、六ツ、七ツ、八ツ、九ツ、十ツ唱ヘ其他ハ總テ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

號令命令 記號及號音 數字ノ唱 へ方

馬動歩調者
 第三十三 諸教練ニ於テ車輛若ハ駄馬ト共ニ運動スル徒歩者ハ歩調ヲ取ルコトナク且歩ヲ揃フルヲ要セス
 第三十四 野戰砲兵ノ諸教練ニ於テ砲手(山砲ヲ除ク)ノ背囊ハ車輛ニ積載スルモノトス
 第三十五 野戰砲兵ノ諸教練ニ於ケル間隔トハ併列セル車輛若ハ馬ノ中心ト中心トノ隔リヲ謂ヒ距離トハ先行セル車輛若ハ馬ノ後端ト後端セル車輛若ハ馬ノ前部トノ隔リヲ謂フ
 第三十六 砲車ニ前車ヲ接續(山砲輾桿ヲ裝)シタルトキハ前後左右ノ稱呼ハ砲口ヨリ砲尾ニ面シテ之ヲ稱ヘ前車(山砲輾桿)ヲ離脱シタルトキハ之ニ反ス
 其他ノ車輛ニ在リテハ後車ノ車軸ヨリ車尾銀ノ方ニ面シテ之ヲ稱フ
 車輛ノ中心線ニ近キ方ヲ内方之ニ反スル方ヲ外方ト稱ス
 第三十七 本操典ニ於テハ四年式十五糧榴彈砲ヲ十五糧、十四年式十糧加農ヲ十加、四五式二十四糧榴彈砲ヲ二十四糧、四五式十五糧加農ヲ十五加、三式八十二糧榴彈砲ヲ十二糧、三八式十糧加農ヲ三加、二十八糧榴彈砲ヲ二十八加、二十四糧加農ヲ二十四加、斯加式十二糧速射加農ヲ十二速加ト稱ス
 第三十八 戰闘原則第一篇ニハ主トシテ野戰ニ於ケル野戰砲兵及攻城重砲兵ノ戰闘原則ヲ、第二篇ニハ要塞海正面ノ防禦ニ於ケル要塞重砲兵ノ戰闘原則ヲ記述ス

徒歩教練ノ目的
 第三十九 徒歩教練ノ目的ハ特ニ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ諸教練ノ基礎ヲ作ルニ在リ而シテ各假教練ニ於テハ兵卒ヲ訓練シテ姿勢ヲ嚴正ニシ動作ヲ確實ナラシメ中隊教練ニ於テハ中隊ヲシテ中隊長ノ號令ニ從ヒ其意圖ノ如ク規定ノ動作ヲ實行シ得ルニ至ラシムルヲ要ス
 第四十 徒歩教練ハ教育ノ各期ニ互リ常ニ機會ヲ捉ヘテ嚴格ニ之ヲ實施シ其目的ヲ達スルコトニ勉ムルヲ要ス
 第四十一 中隊教練ヲ準備スル爲若千伍、小隊ヲ以テ第二章ノ規定ニ從ヒ教練ヲ行フニハ號令中「中隊」ノ語ヲ「分隊」、「小隊」ニ換フ
 第一章 各個教練
 第四十二 不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ軍人精神内ニ充溢シ外嚴肅端正ナラサルヘカラス
 不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 氣ヲ著ク

騎兵集(旅)團内ニ於ケル騎砲兵ノ戰闘ニ關シテハ本操典ニ據ルノ外主トシテ騎兵操典ニ據ルモノトス
 要塞戰ニ於ケル砲兵ノ戰闘ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外本操典ニ據ルモノトス

徒歩 通則

カカト
 兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝
 ハ凝ラスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸ハシ且少シク
 前ニ傾ケ兩肩ヲ稍、後ロニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ、掌ヲ股ニ
 接シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ竝ヘ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ頸及頭ヲ真直ニ保
 チ口ヲ閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス

休メ
 第四十三 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

先ツ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其場ニ立チテ休憩ス
 休憩中ト雖許可ナク話スコトヲ禁ス

右(左)向及後向
 第四十四 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度右(左)ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケ
 テ同線上ニ揃フ

後向
 第四十五 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 廻はれ 右

右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後
 ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ケ

行進
 第四十六 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス
 第四十七 速歩ノ一步ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五糎ヲ、其速度ハ一分時間
 ニ百十四歩ヲ基準トス
 速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五糎ノ所ニ脚ヲ伸ハシツツ踏ミ
 著ケ同時ニ概ネ、脚ヲ伸ハシ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著ケルト同
 時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セル如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行
 進ヲ續ケ頭ヲ真直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル

第四十八 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止レ
 後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止ル

第四十九 行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足
 ヨリ新方向ニ行進ス

第五十 行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 廻はれ右前へ 進メ

歩調止メ

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ
續キテ行進ス
第五十一 歩調止メ 速步行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニテ姿勢ヲ崩スコトナク行進
再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駢歩

第五十二 駢歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ約八十五糎トシ其速度ハ一分時
間ニ約百七十歩トス
駢步行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

豫令ニテ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスルト共ニ左手ニテ劍鞘ヲ握
ル
動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約
八十五糎ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミ
ヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ兩臂ヲ自然ニ振り續キテ行進ス
「分隊 止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足
ヲ引キ著ケテ止リ右手ヲ下ロスト共ニ劍鞘ヲ放ツ

駢步行進ヨリ速步行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
ハヤシ
速歩 進メ
二歩前進シタル後速歩ニ移リ右手ヲ下ロスト共ニ劍鞘ヲ放チ續キテ行進ス

第二章 中隊教練

編成

第五十三 中隊ハ通常之ヲ二小隊ニ分チ小隊ニハ第一、第二ノ番號ヲ附ス
小隊ハ概ネ兵卒身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列シテ橫隊ヲ作ル而シテ其前
後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ兵員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺
伍ト謂フ

後列兵ハ前列兵ノ背(背囊ヲ負フトキハ背囊)ヨリ胸マテニ八十五糎ノ距離ヲ
取リテ正シク前列兵ニ重リ同方向ニ位置ス
各兵卒ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク左隣兵ノ右臂ニ
觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス
小隊ノ兩翼ニ各一翼下士ヲ置ク
第五十四 中隊ノ隊形ハ橫隊及側面縱隊トス

第五十五 橫隊ノ隊形第一圖ノ如シ

中隊ノ隊形
橫隊ノ隊形

側面縱隊

整頓要領



頭翼下士ノ外側ニ接シテ位置シ中隊長ハ先頭小隊長ノ外側ニ歩ノ所ニ位置ス

第五十七 整頓完全ナルトキ各兵卒ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取り頭ヲ右(左)ニ廻ハストキ右(左)ノ眼ヲ以テ其右(左)隣兵ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視

特務曹長、曹長、喇叭手ハ第一小隊、看護卒ハ第二小隊ニ在リテ奇數伍ニ重リ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス此列ヲ押伍列ト謂フ

下士以上ニ過員アルトキハ高級先任ノ順序ニ第二小隊ノ押伍列ニ位置シ奇數伍ニ重ル

時宜ニ依リ中隊長ハ押伍列ニ在ル者ノ位置ヲ適宜變更スルコトヲ得

第五十六 側面縱隊ハ橫隊ヲ側面ニ向ケタルモノニシテ通常四列トス又時宜ニ依リ三(二)列ト爲スコトアリ此場合ニ於ケル各兵ノ距離ハ四列ノ場合ニ同シ

側面縱隊ニ在リテハ押伍列ニ在ル者ハ各、其伍ニ列ヒ小隊長ハ其先

整頓法

右(左)向

第五十九 橫隊ニ在ル中隊右(左)向ヲ爲セハ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數

「準」ノ動令ニテ中隊ハ前進シ最後ノ一步ヲ縮メテ整頓線ノ少シク後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク但翼下士及前後列兵ハ左手ヲ腰ニ當テ射ヲ側方ニ張リ後列及押伍列ニ在ル者ハ先ツ正シク前方ノ兵卒ニ重リテ距離ヲ取り次ニ右(左)ノ方ニ整頓ス

整頓翼ノ下士ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ下士ヲ目標トシ先ツ己ニ近キ二、三兵卒ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ下士ハ要スレハ己ニ近キ二、三兵卒ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

「直」ノ號令ニテ中隊ハ頭ヲ正面ニ復シ翼下士及前後列兵ハ左手ヲ下ロス其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)」準ハ、直レ」ノ號令ヲ下ス

右(左)向及後向

右(左)向ハ準ハ

各小隊ノ翼下士ハ前進シ中隊長ハ其位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

第五十八 橫隊ニ在ル中隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第五十七 整頓完全ナルトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトヲ得ルモ入トス

兵卒整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス特ニ足ノ位置正シカラサルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラスシテ其害自己ニ止ラス必ス隣兵ニ及フモノトス

後向 行進 足踏 踏替

兵)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四兵卒相列ヒ小隊長、翼下士及押伍列ニ在ル者ハ各、其位置ニ在リテ右(左)向ヲ爲シ第五十六ニ定メタル位置ニ就キ側面縦隊トナル
側面縦隊ニ在ル中隊左(右)向ヲ爲セハ伍ヲ解キ小隊長、翼下士及押伍列ニ在ル者ハ各、其位置ニ在リテ左(右)向ヲ爲シ第五十五ニ定メタル位置ニ就キ横隊トナリ各自右(左)ノ方ニ整頓ス
第六十 横隊ニ在ル中隊後向ヲ爲セハ翼下士及缺伍ハ前列ニ就ク

第六十一 行進ハ側面縦隊ニ於テノミ之ヲ行ヒ先頭ニ在ル下士ヲ嚮導トス
中隊長ハ號令ヲ下スニ先タチ要スレハ嚮導ノ行進目標ヲ示スモノトス
中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ眞直若ハ示サレタル目標ニ向ヒ行進シ舊正面ノ方ニ在ル兵卒及下士ハ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ其他ノ兵卒及押伍列ニ在ル者ハ舊正面ノ方ニ準ヒ前方ノ者ニ重リテ行進ス
若距離ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復ス
足踏ヲ爲スニハ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交ト兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ルモノトス
若歩ノ違ヒタルトキハ踏替ヲ爲ス踏替ヲ爲スニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ前ノ足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ片足ニテニ歩行進ス足踏間ニ在リテハ駈歩

步調止メ 中隊停止 右(左)向 止レ 方向變換 解散

間ノ方法ニ準ス
第六十二 「步調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必スシモ歩ヲ揃フルヲ要セス
第六十三 中隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
中隊ハ停止シ動クコトナシ

第六十四 側面縦隊ニ在リテ行進シアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
第六十五 側面縦隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス
中隊ハ停止シ第五十九ニ從ヒ横隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス

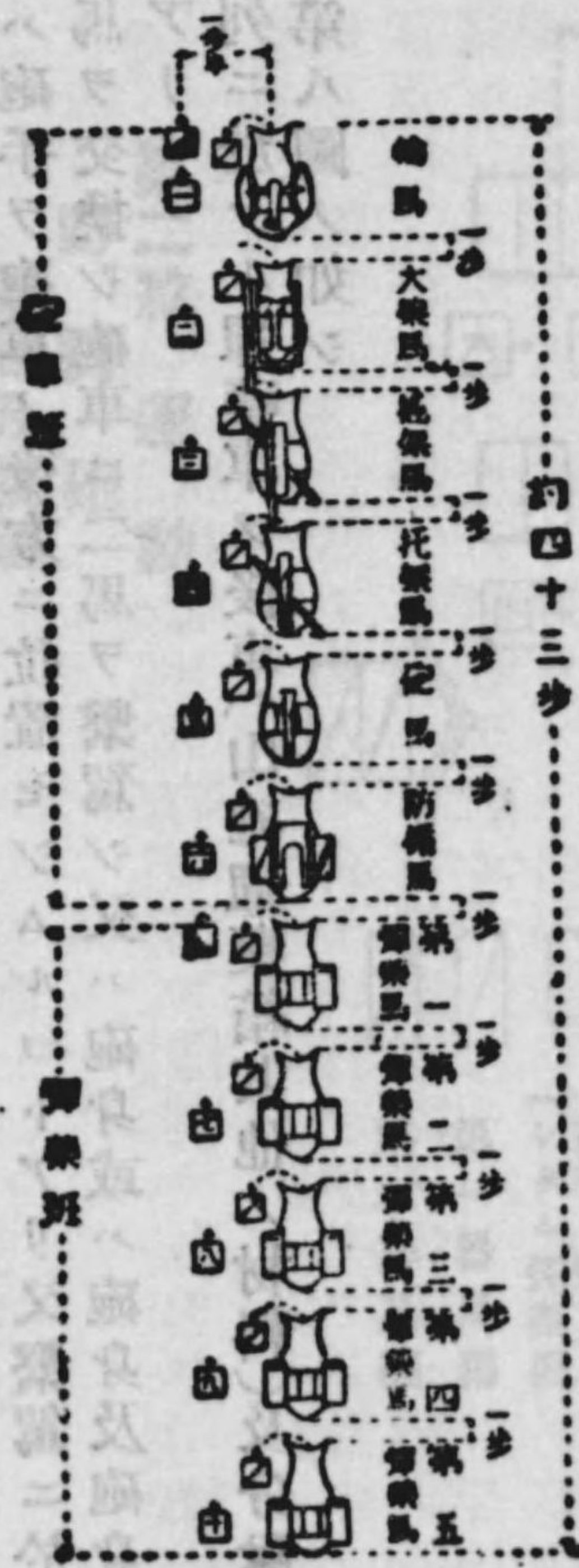
第六十五 側面縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル兵卒ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル兵卒ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

第六十六 中隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
解散及集合
第六十七 中隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第六十七 中隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 第一小隊ノ右翼下士ハ速ニ中隊長ノ前ニ來リ中隊ハ其左方ニ橫隊トナリ各兵
 卒ハ番號ノ順序ニ從ヒ整頓ス
 野戰砲兵 第一篇 分隊教練
 第六十八 分隊教練ノ目的ハ分隊長以下ヲ訓練シテ如何ナル狀況ニ於テモ互
 ニ相一致シ毫モ滯滞ナク確實敏捷ニ動作シ得ルニ至ラシメ以テ中隊教練ノ確
 乎タル基礎ヲ作ルニ在リ
 第六十九 分隊教練ハ先ツ主トシテ兵卒ニ對シ基本ノ動作ヲ教育シ其進歩ニ
 伴ヒ分隊長以下ヲシテ各種ノ狀況ニ應スル動作ニ習熟セシムルモノトス
 兵卒ニ對シテハ先ツ取者(十加自動車手)ト砲手トノ動作ヲ各別ニ教育シ其連
 繫ヲ要スルモノハ適宜之ヲ合シテ教育スルモノトス
 第七十 運動ハ先ツ平易ナル地形ニ於テ基礎ノ動作ヲ教育シ漸次各種ノ狀況
 特ニ地形ニ於テ演練シ且野、騎、山砲及十五榴ニ在リテハ馬ノ能力ヲ發達增
 進セシムルヲ要ス
 射擊ハ先ツ部分的ニ教育シテ操作ノ正確ヲ圖リ漸次之ヲ綜合シ且適宜各種ノ
 狀況特ニ地形ニ於テ演練スルヲ要ス
 第七十一 夜間ノ教練ハ基本ノ教練ノ時期ヨリ之ヲ實施シ特ニ不齊地ノ行
 進、放列布置及撤去ニ於ケル取者(十加自動車手)及砲手ノ連繫、射擊間ニ於
 ケル砲手ノ協同動作並分隊長ノ部下ノ掌握ニ習熟セシメ分隊長以下ヲシテ確
 實靜肅ニ動作シ得ルニ至ラシムルヲ要ス
 第七十二 放列ニ在ル者ハ其操作ニ便ナル低キ姿勢(此姿勢ヲ折敷ト謂フ)ヲ
 取ル之ヲ起タシムルニハ「起テ」ト令シ再ヒ折敷ヲ爲サシムルニハ「折敷」ト令
 ス
 射擊操作中位置ノ移動ハ勉メテ迅速ナルヲ要ス而シテ操作終レハ定位ニ就ク
 第七十三 分隊長及砲側ニ位置スル砲手ハ其耳ヲ保護スル爲射擊開始ニ先タ
 チ綿ヲ寬ク耳孔ニ裝ス

折敷
 耳ノ保護
 野分三
 砲手番號
 第一章 基本
 第一節 野、騎、山砲
 第一款 編成、隊形及分隊長以下ノ定位
 第七十四 野、騎砲ノ砲手ニハ一番ヨリ九番(騎砲十一番)ニ至ル番號ヲ附シ
 騎砲ノ八番乃至十一番ヲ手馬兵ト謂フ又取者ニハ前、中、後馬取者、輓馬ニ
 ハ前、中、後馬ノ名稱ヲ附シ且取者ノ乗ル馬ヲ服馬ト謂ヒ其手馬ヲ驢馬ト謂
 フ
 山砲ノ砲手ニハ一番ヨリ十番ニ至ル番號ヲ附シ取者ニハ輪、大架、搖架、托
 架、砲、防楯、第一乃至第五彈藥馬取者、馱馬ニハ輪、大架、搖架、托架、

圖六第
砲山
載駄



分隊長
砲班長
砲手
取者

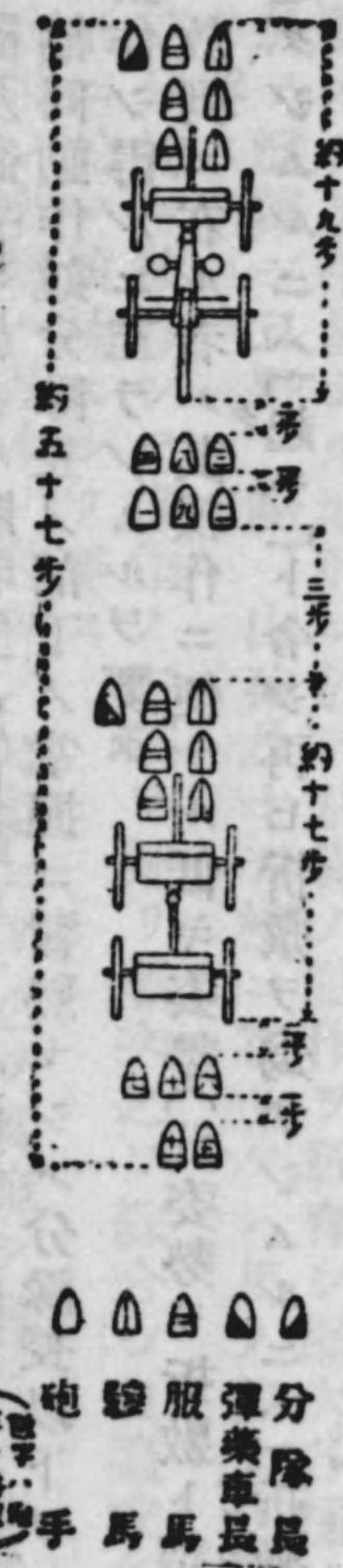
圖五第
砲山
駕繫



形分
隊ノ
隊

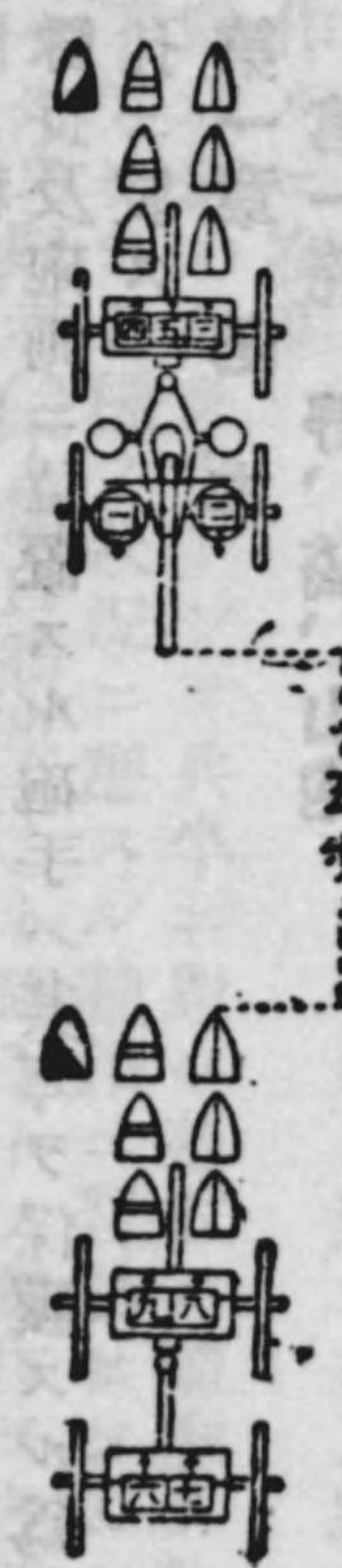
砲、防楯、第一乃至第五彈藥馬ノ名稱ヲ附ス
第七十五
分隊ノ隊形第二乃至第六圖ノ如シ

圖四第
砲騎



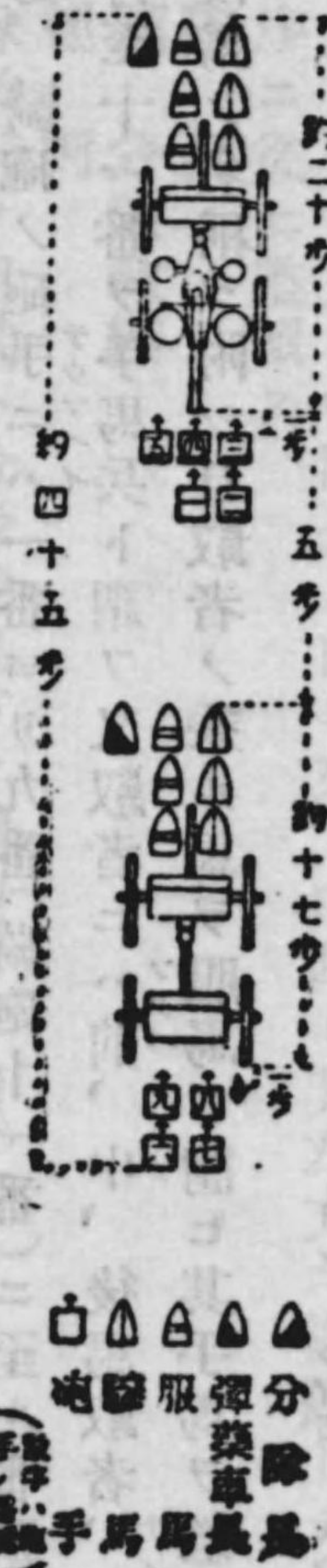
分隊長
砲班長
砲手
馬手

圖三第
砲野
車乘



分隊長
砲班長
砲手
馬手

圖二第
砲野
車下

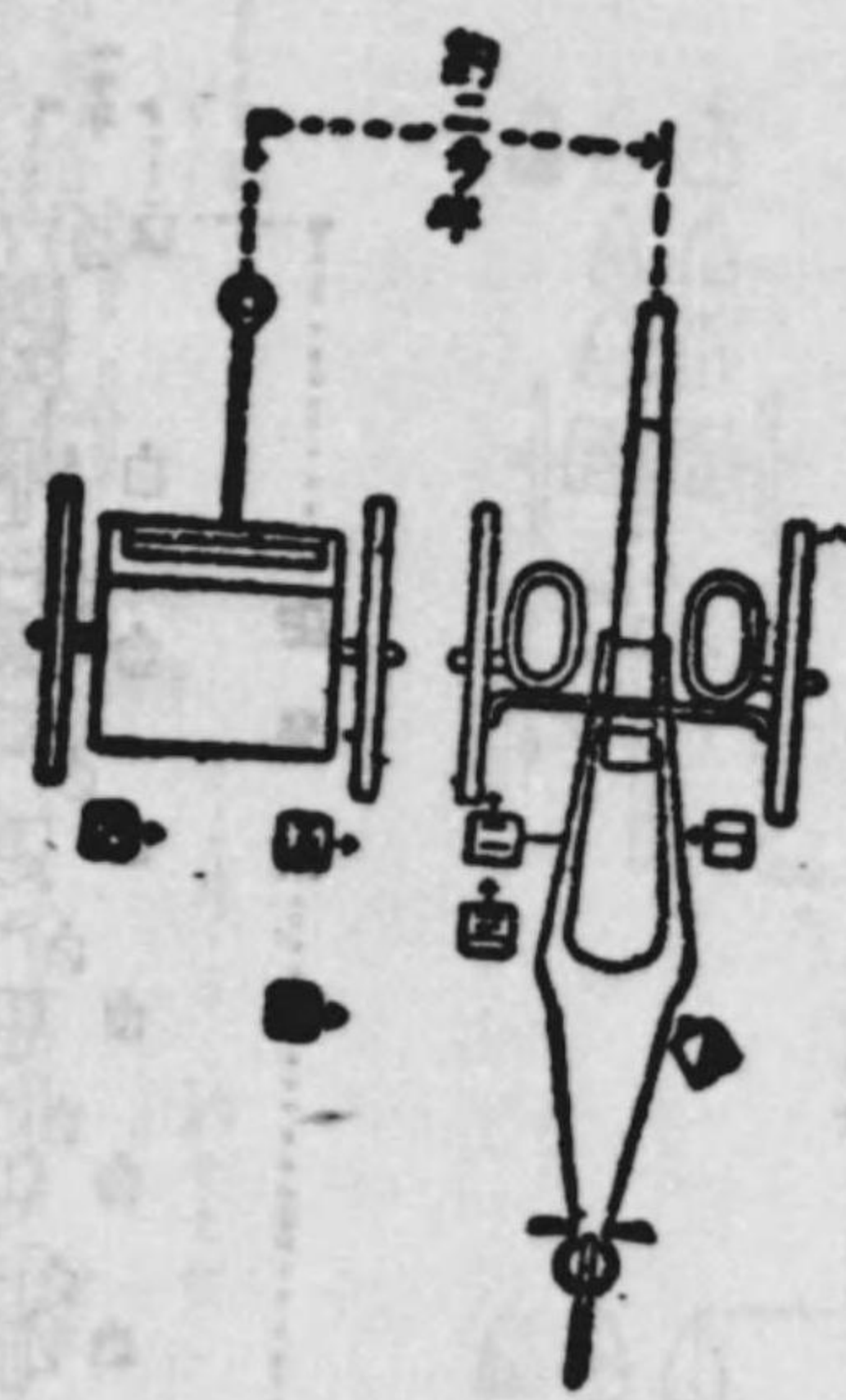


山砲ノ特
例
後車及分
隊長定位

第七十六 山砲ノ繋駕及駄載ノ隊形ニ於テ要スレハ砲手及馭者ヲ駄馬ノ右側又ハ前方ニ或ハ砲手ヲ砲車ノ後方ニ位置セシムルコトアリ又繋駕ニ於テハ砲車ヲ軌曳スル馬ヲ交換シ砲車ニ二馬ヲ繋駕シ又ハ砲身或ハ砲身及砲身托架ヲ駄載スルコトアリ

第七十七 放列ニ於ケル彈藥車ノ後車(山砲彈藥箱其他ノ材料)及分隊長以下ノ定位第七、第八圖ノ如シ

第七圖 野(騎)彈



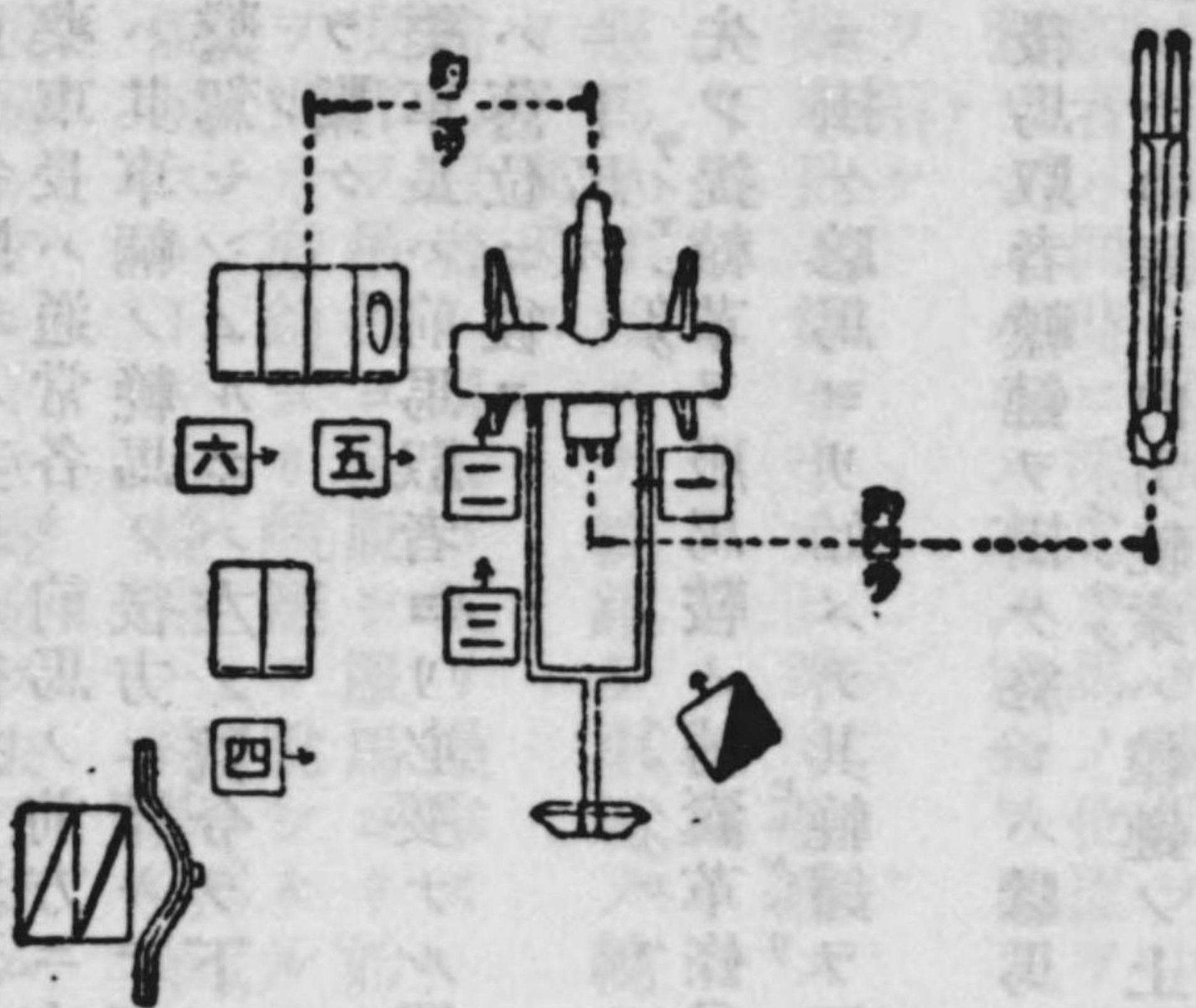
分隊長

砲廠ニ就

第七十八

馬ヲ砲廠ニ就カシムルニハ砲車ノ軌馬ヲ先ニシ前、中、後馬ノ順

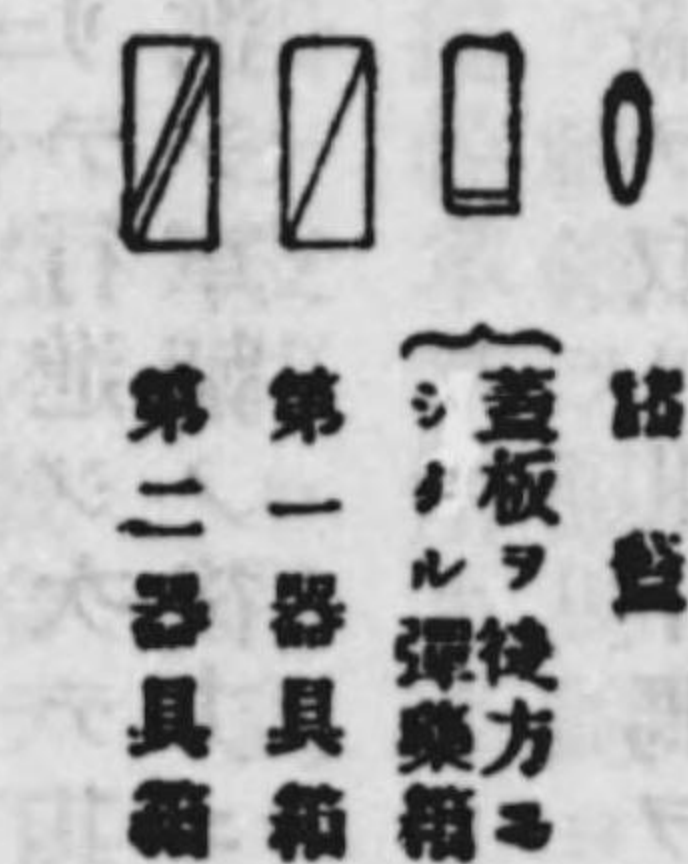
第八圖 山砲



第二款 運動

野、騎、砲

繋駕及脱駕



蓋板ヲ校力ニシテ
第一器具箱
第二器具箱

ケ
緊駕

序ニ各馬一步ノ距離ヲ以テ砲廠ニ導キ其先頭略ト砲車ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス

砲廠ニ就ケ

前馬馭者ハ轆桿ノ方向ニ入り轆桿端ヨリ約七步ヲ隔テテ止リ中、後馬馭者ハ之ニ隨ヒテ止リ各馭者ハ其馬ヲ後退シ緊駕ノ位置ニ就カシム

分隊長及彈藥車長ハ通常各、前馬ノ前方ニ在リテ行進シ次テ其左側ニ到ル騎砲ノ砲手ハ其車輛ノ轆馬ノ後方ニ續キテ行進シ車輛ノ後方ニ到ル

第七十九

緊駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ繫ケ

分隊長及彈藥車長ハ前馬馭者ヨリ必要ナル間隔ヲ取り其下馬ヲ容易ナラシメ馭者乘馬セハ舊位ニ復ス

馭者ハ同時ニ下馬ス

後馬馭者ハ先ツ提轆革ヲ服馬鞍ノ縛囊革條(鞍囊ナキトキハ鞍囊駐銀)ニ結ヒ轆鏈ヲ擔鈎ニ掛ケ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ服馬鈎ニ掛ケ然ル後支桿ヲ吊鈎ニ掛ケ

中馬馭者ハ後馬馭者轆鏈ヲ掛ケ終レハ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ後馬ノ轆革鈎ニ掛ケ而シテ中馬ノ内方轆索ハ轆鏈ノ上ヲ通過セシム

脱駕

前馬馭者ハ中馬馭者ト同法ニ依リ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鈎銀ニ掛ケ操作終レハ馭者ハ同時ニ乘馬シ馬ノ位置ヲ正シ輕ク轆索ヲ張ル

第八十

脱駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ解ケ

分隊長及彈藥車長ハ第七十九ニ準シ動作ス馭者ハ同時ニ下馬ス

前馬馭者ハ服馬ヨリ始メテ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鈎銀ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ轆索ヲ束ネ終リテ乘馬ス

中馬馭者ハ前馬馭者ト同法ニ依リ操作ス

後馬馭者ハ支桿ヲ吊鈎ヨリ脱シ服馬ヨリ始メテ轆鎖ヲ服馬鈎ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ之ヲ束ネ擔鈎ヨリ轆鏈ヲ脱シタル後提轆革ヲ解キ終リテ乘馬ス

後馬ノミヲ脱駕スルトキハ轆索ハ袴革鈎革ニ掛ケ支桿ハ吊鈎ヨリ脱スルコトナシ

砲廠去レ

第八十一 脱駕シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ハ砲廠ヲ去レ

砲車ノ前馬馭者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馭者ハ一步ノ距離ヲ保チ之ニ隨フ

分隊長、彈藥車長及騎砲ノ砲手ハ第七十八ノ要領ニ依リ行進ス

下馬及乘馬

下(乘)馬

第八十二 下(乘)馬セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊長及彈藥車長ハ下(乘)馬シ馭者及騎砲ノ砲手ハ同時ニ下(乘)馬ス但下馬ニ際シ分隊長及彈藥車長ハ前馬馭者ヨリ、騎砲ノ砲手ハ手馬兵ヨリ其下馬ヲ爲スニ必要ナル間隔ヲ取り乘馬セハ舊位ニ復ス

行進

直行進

停止

第八十三 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米(騎砲百米)、速歩二百二十米、駈歩三百十米(騎砲三百二十米)ヲ基準トス
以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得而シテ速歩ヲ永ク持續スルトキハ其速度ヲ約百九十米ニ縮ムルヲ可トス
第八十四 常(速)歩ニテ直行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前(速)歩ニテ進ム

分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ彈藥車長ハ分隊長ニ隨ヒ同時ニ前進ス
前馬馭者ハ分隊長又ハ彈藥車長ニ準ヒ中、後馬馭者ハ前方ノ馭者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル

第八十五 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊長及彈藥車長ハ漸次ニ停止ス

步度伸縮

步度變換

右(左)向

後向

後馬馭者ハ漸次ニ控制シテ車輛ヲ止メ前、中馬馭者ハ後馬馭者ノ控制ト相俟テ漸次ニ停止ス但前馬馭者ハ分隊長又ハ彈藥車長ニ準ヒテ止ル
第八十六 步度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
常(速)歩(駈)歩 進メ
漸次ニ所命ノ步度ニ移ル
第八十七 常(速)歩(駈)歩 行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
步度ヲ伸ハセ
或ハ

步度ヲ縮メ
徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム
正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
常(速)歩(駈)歩 進メ
徐ロニ正規ノ速度ニ復ス

第八十八 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)向ニ進メ
砲車ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ彈藥車ハ之ニ隨フ

右(左)向ニ際シ前馬馭者ハ其内方馬ヲ步度ノ基準トシ約十五歩ノ半徑ヲ以テ弧ヲ畫カシム中、後馬馭者ハ各馬協同輓曳ヲ爲シ得ル如ク輪線上ヲ通過ス
第八十九 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駐劔上ケ
乗下車
乗車

第八十八ノ要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス
此運動ハ駈歩ヲ以テ行フコトナシ
第九十 制轉機ヲ使用スルニハ五番及九番(騎砲四番及七番)ハ轉把ヲ廻ハシ
テ之ヲ緊メ又ハ緩ム
第九十一 野砲ノ駐劔ハ不齊地ヲ通過セントスルトキ上ケシムルモノトス
駐劔ヲ上(下)クルニハ後馬馱者ハ提轅革ノ提把ヲ執リ轅桿ヲ上ケ四番「宜シ」
ト唱フレハ之ヲ放ツ
四番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ照準棍樞軸轉把ヲ廻ハシ三番ハ吊桿ヲ樞軸ヨリ脱シ共ニ
架尾銀ヲ鋼鈕ヨリ脱シ駐劔ヲ上(下)方ニ廻ハシ架尾銀ヲ鋼鈕ニ嵌メ四番ハ鋼
鈕栓ヲ挿シ「宜シ」ト唱ヘ次テ三番ハ吊桿ヲ樞軸ニ嵌メ四番ハ駐劔ヲ照準棍樞
軸轉把ニ掛ク
乗車及下車
第九十二 野砲ノ乗車及下車ハ停止間ニ於テ行フモノトス要スレハ常歩行進
間ニ於テモ之ヲ行フコトアリ
第九十三 乗車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
乗車

下車
放列布置
放列布置
放列布置

砲手ハ銃劔ヲ體ノ前方ニ致シ乗車ノ定位ニ就キ砲車ノ前車並彈藥車ニ乘レル
砲手中外側ニ位置スル者ハ各々外方ノ手ニテ倚欄ヲ握リ各砲手ハ互ニ臂ヲ組
ム又一番及二番ハ外方ノ手ニテ倚欄ヲ、内方ノ手ニテ搖架握把ヲ握ル
第九十四 下車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
下車
砲手ハ下車ノ定位ニ就キ銃劔ヲ舊ニ復ス
放列布置及撤去
第九十五 放列布置ハ豫メ射擊用意ヲ爲サシメタル後之ヲ行フ
第九十六 前車ノ運動ハ特ニ指示ナキトキハ放列布置ノ場合ニ於テハ其際探
リアル歩度(駈歩ニテ放列ヲ布置スルトキハ速歩)撤去ノ場合ニ於テハ速歩
ヲ以テ行フ
放列布置ノ號令アルトキ行進間ニ在リテハ砲車ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止シ
彈藥車ハ現在ノ歩度(停止ヨリ放列ヲ布置スルトキハ常歩)ヲ以テ右放列ニ在
リテハ砲車ノ左側、左放列ニ在リテハ砲車ノ右側ニ到ル
馱者乗馬ヲ牽クトキハ乗馬ノ小勒繩ヲ服馬ノ轡ト共ニ左手ニ執リ之ヲ服馬ノ
左側ニ馱ス
第九十七 騎砲ノ手馬兵手馬ヲ導クニハ前項ニ準シ之ヲ兩側ニ竝ヘテ馱ス
放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)擊方 放列

分隊長ハ砲車ヲ概ネ其占ムヘキ位置ニ止ラシメ大勒韃ヲ前橋ニ掛ケ小勒韃ヲ前馬馱者ニ授ケテ下馬シ砲車ヲ其位置ニ導ク
野砲ノ砲手乗車シアルトキハ下車ス
騎砲ノ一番乃至七番ハ大勒韃ヲ前橋ニ掛ケ小勒韃ヲ同列ノ手馬兵ニ渡シ各、斜前方ニ飛ヒ下ル
後馬馱者ハ提轆革ノ提把ヲ執リ轆桿ヲ上ケ四番又ハ九番(騎砲四番又ハ七番)「宜シ」ト唱フレハ之ヲ放ツ
一番及二番ハ幅ヲ執ル四番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ三番ト共ニ架尾銀ヲ鋼鈕ヨリ脱シ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜シ」ト唱ヘ一番及二番ト共ニ砲車ヲ左(右)ニ廻ハシテ砲口ヲ右(左)方ニ向ハシメ分隊長ノ示ス位置ニ砲車ヲ置ク
一番ハ野砲ニ在リテハ下方防楯ヲ下ロシ砲尾蓋ヲ脱シテ己ノ傍ニ置キ騎砲ニ在リテハ砲尾蓋ヲ脱シテ己ノ傍ニ置キ表尺ヲ三千米ニ裝定ス
二番ハ野砲ニ在リテハ表尺蓋ヲ脱シテ己ノ傍ニ置キ表尺ヲ榴散彈三千米ニ裝定シ高低水準器ノ氣泡及坐筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導キ騎砲ニ在リテハ駐鉤及表尺蓋ヲ脱シ表尺蓋ヲ己ノ傍ニ置キ高低水準器ノ氣泡及坐筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導ク
野砲ノ三番ハ駐栓ヲ抽キ砲尾托架ヲ砲尾ヨリ脱シ大架側板ニ裝著ス

接續

四番ハ照準棍ヲ起ス
六番及七番(騎砲五番)ハ彈藥車ノ後車ノ輻ヲ執ル九番(騎砲七番)ハ鋼鈕栓ヲ抽キ八番(騎砲六番)ト共ニ車尾銀ヲ鋼鈕ヨリ脱シ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜シ」ト唱ヘ六番及七番(騎砲五番)ト共ニ彈藥車ノ後車ヲ定位ニ置キ六番ハ通常彈藥匣二箇ヲ出シ壓板ヲ開キ探出ニ便ナル如ク彈藥ヲ整フ
七番乃至九番(騎砲七番)ハ特ニ指示ナキトキハ操作終ルヤ彈藥車ノ前車ノ位置ニ到リ其後方ニ位置ス
彈藥車長ハ前車ノ離脱終ルヤ分隊長ノ前車ヲ導キ所命ノ地點ニ到ル
騎砲ノ手馬兵ハ各、其前車ノ後方ニ續キテ行進ス
分隊長ハ放列布置ノ後操作ニ妨ナキトキニ於テ砲尾蓋及表尺蓋ヲ防楯ニ著ケシム
第九十八 接續ヲ爲サシムルニハ七番乃至九番(騎砲七番)ヲ招致シタル後左ノ號令ヲ下ス
右(左) 前車掛ケ
彈藥車長ハ分隊長ノ前車ヲ放列ニ導ク
砲車(彈藥車)ノ前車ハ左(右)ヨリ概ネ架尾銀ト車尾銀トヲ連ヌル線ニ沿ヒテ進ミ其車輪ノ後端架尾銀(車尾銀)ヨリ右(左)方約三步ヲ隔テテ止リ得ル如ク後馬馱者ハ「宜シ」ト唱ヘテ停止ス彈藥車(砲車)ノ前車ハ砲車(彈藥車)ノ前車ノ右(左)側ニ出テ砲車(彈藥車)ノ前車ノ要領ニ依リ停止ス

山砲

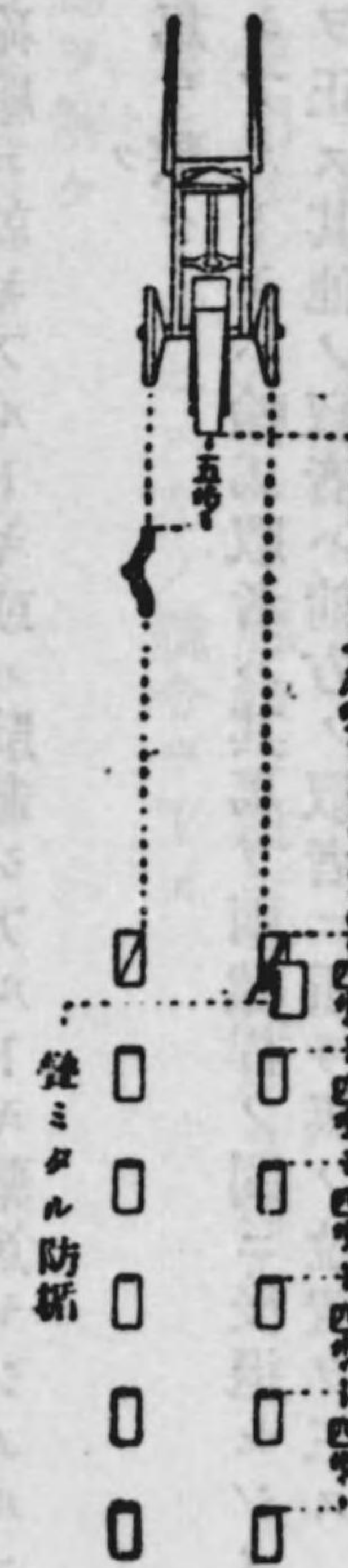
騎砲ノ後馬馭者ハ提轆革ノ提把ヲ執リ轆桿ヲ上ケ四番「宜シ」ト唱フレハ之ヲ放ツ
 一番ハ砲尾蓋ヲ裝シ(野砲下方防楯ヲ上ケ)輻ヲ執リ二番ハ表尺蓋ヲ裝シ野砲
 ニ在リテハ砲尾托架ヲ砲尾ニ鉤シ駐栓ヲ挿シ、騎砲ニ在リテハ砲尾ヲ下ケ駐
 鉤ヲ搖架ニ掛ケ然ル後輻ヲ執ル
 野砲ノ三番ハ砲尾托架ヲ大架側板ヨリ脱ス
 四番ハ照準棍ヲ伏セ三番ト共ニ砲架ニ接シテ位置ス
 六番及七番(騎砲五番)ハ輻ヲ、八番及九番(騎砲六番及七番)ハ箭材ヲ執リ彈
 藥車ノ後車ヲ左ニ廻ハシ箭材ヲ後方ニ向ケ箭材ニ接シテ位置ス
 前車來ルヤ三番及四番ハ架尾ヲ執リ一番及二番ト共ニ砲車ヲ斜後方ニ下ケ其
 前車ニ導キ四番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ一番及二番ト共ニ架尾銀ヲ鋼鈕ニ嵌メ鋼鈕栓
 ヲ挿シ「宜シ」ト唱フ八番及九番(騎砲六番及七番)ハ箭材ヲ執リ六番及七番(騎
 砲五番)ト共ニ砲車ノ要領ニ依リ彈藥車ノ後車ヲ其前車ニ接續ス
 接續終ルヤ砲手ハ下車ノ定位ニ就ク
 分隊長ハ乘馬ス
 騎砲ニ在リテハ手馬兵ハ各々其前車ノ後方ニ續キテ行進シ車輛ノ後方ニ到リ
 砲手ハ乘馬ス
 分隊長ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル

山砲

第九十九 教練ヲ行フニ先タチ砲車ニハ轆桿ヲ裝シ支桿駐栓ヲ挿シ洗桿ヲ砲

腔ニ挿シ軸駐楔ヲ「脱」字ニ反スル方ニ廻ハシテ鉤ヲ掛ケ安全栓ヲ安全ノ位置
 ニ置キ拉繩ヲ握把ニ掛ケ砲口蓋、砲尾蓋、表尺蓋及横梁被ヲ裝シ發
 射坐及照準坐ヲ内方ニ倒シ後砲架ヲ前砲架ノ上ニ載セ搖架ノ下面ヲ略々前砲
 架ノ方向ニ一致セシメ搖架轉把及高低照準機轉把ハ轉把駐革ヲ以テ縛ル而シ
 テ材料ノ配置第九圖ノ如シ

第九圖



第一百 繫駕、脱駕、駛載及卸下
 駛載及卸下ノ操作間砲車班ノ砲手ハ背囊ヲ卸シ操作終レハ之ヲ頁フ
 繫駕及駛載ニ際シ操作ニ關係アル馭者ハ操作ニ便ナル如ク鉤輪索及諸革條ノ
 準備ヲ爲シ馬ニ面シテ韁ヲ兩手ニ執リ馬頭ヲ僅ニ高メ兩脚ヲ適度ニ開キテ馬
 ヲ保持シ要スレハ砲手ノ操作ヲ補助ス

砲廠ニ就

脱駕及卸下ニ於ケル馭者ノ操作モ亦前項ニ準ス
第百一 馬ヲ砲廠ニ就カシムルニハ輪、大架、搖架、托架、砲、防楯、第一乃至第五彈藥馬ノ順序ニ各馬一步ノ距離ヲ以テ砲廠ニ導キ其先頭略、材料ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス

輪馬馭者ハ其馬ヲ轆桿ノ前方約一步ニ、其他ノ馭者ハ其馬ヲ繫駕ノ位置ニ導キテ止ル

繫駕

第百二 砲廠ニ就キアルトキ或ハ馭載シアルトキ繫駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ繫ケ

砲廠ニ就キアルトキハ輪馬馭者ハ其馬ヲ兩轆桿ノ間ニ後退セシメ繫駕終ルヤ馬ノ位置ヲ正ス其他ノ馭者ハ前方ノ馭者ニ重リ馬ノ位置ヲ正ス
繫駕ニ方リ砲手中奇數番號ノ者ハ馭馬ノ左側、偶數番號ノ者ハ馭馬ノ右側ニ於テ左ノ如ク操作ス

一 番及二番ハ轆桿ヲ停轆革ノ轆把ニ通シ
丁字鏈ヲ雙脚 銀ニ掛ク
三番ハ後砲架ノ提把ヲ後方ニシ大架馬ノ架匡ニ載セ四番ト共ニ馭裝革條ヲ以テ縛ル

五番ハ擔棍ヲ搖架馬ノ架匡ニ載セ六番ト共ニ馭裝革條ヲ以テ縛ル

脱駕

馭載

七番乃至十番ハ防楯及器具箱ヲ防楯馬ニ、彈藥箱ヲ第一乃至第五彈藥馬ニ馭載シアルトキハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ一旦卸下シ砲車ヲ結合シタル後前諸項ニ準シテ繫駕ス

分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル
二馬繫駕ヲ爲スニハ前方馬ノ轆索ヲ脱シ停轆革ノ轆把ニ通シタル後瓢形銀ヲ前方馬ノ丁字鏈ニ、轆索鉤ヲ後方馬ノ丁字鏈ノ圓形銀ニ掛ク

繫轆革條ヲ使用スルトキハ之ヲ脚鎖ニ通シテ轆桿ヲ縛ル

第百三 脱駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス



馬ヲ解ケ

第百二ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス

第百四 砲廠ニ就キアルトキ或ハ繫駕シアルトキ馭載セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ニ馭セ

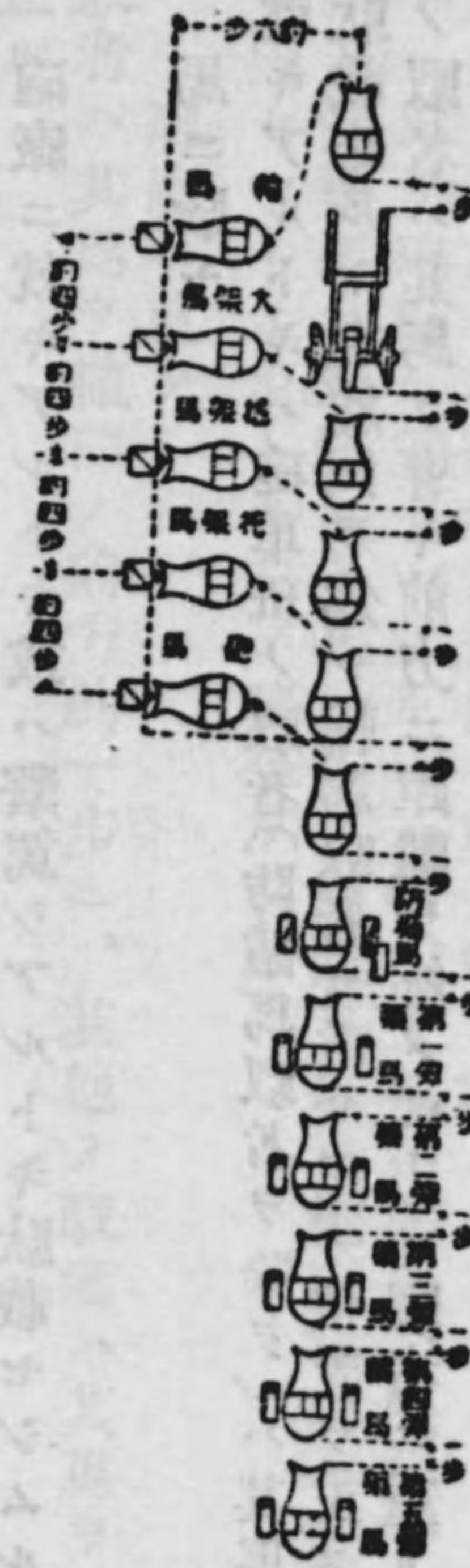
砲廠ニ就キアルトキハ砲車班ノ馭者(防楯馬馭者ヲ除ク)ハ其馬ヲ第十圖ノ如ク導キ馭載終ルヤ左旋回ヲ爲シ輪馬馭者ニ重リ馬ノ位置ヲ正ス防楯馬馭者及彈藥班ノ馭者ハ其馬ヲ導キ前方ニ距離ヲ縮メ前方ノ馭者ニ重リ馬ノ位置ヲ正ス



稱名	分	解	駄	載	
防	七番及八番ハ裝者桿ト車軸トノ連結ヲ解キ各駐栓ヲ抽キ防楯ヲ離脱シ次テ諸駐栓ヲ挿シ防楯ヲ疊ム	七番及八番ハ防楯ヲ執リ七番ハ「上ケ」ト唱ヘ之ヲ防楯馬ノ架匡ニ上端ヲ前方ニスル如ク載セ七番乃至十番ハ駄裝革條ヲ以テ縛ル			
楯					

載ス
 六番ハ脱シアル諸蓋ヲ防楯馬ノ左前方支板ニ縛著シ五番ハ鈎帶ヲ第一器具箱ニ復ス
 緊駕シアルトキハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ脱駕シ砲車ヲ分解シタル後前諸項ニ準シテ駄載ス
 分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル
 第一百五 砲車ノ分解並駄載ノ操作左ノ如シ

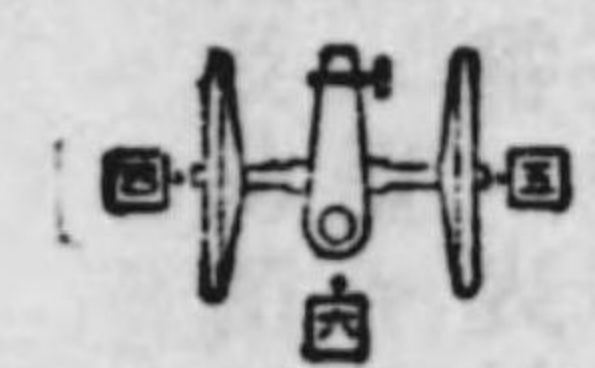

第一番及二番ハ轅桿ヲ脱シタル後一箱ハ砲尾蓋ヲ、二番ハ表尺蓋ヲ脱シ三番ハ後砲架ヲ照準坐ノ外側約二步ノ所ニ置キ砲口蓋ヲ脱シ四番ハ轉把駐革ノ縛ヲ解キ箭材ノ間ニ入り砲車ヲ右ニ廻ハシテ反對ノ方向ニ向ハシメ照準坐及發射坐ヲ起ス五番ハ鈎帶ヲ第一器具箱ヨリ出シ擔棍一ヲ砲車ノ傍ニ運フ
 三番乃至六番ハ砲身ヲ離脱シ一箱乃至三番ハ之ヲ砲馬ニ駄載ス
 四番乃至六番ハ砲身ヲ離脱シ之ヲ搖架馬ニ駄載ス
 一箱乃至三番ハ搖架ヲ離脱シ之ヲ搖架馬ニ駄載ス
 四番乃至六番ハ前砲架ト小架及車軸トノ結合ヲ解キ一箱乃至三番ハ前砲架及後砲架ヲ大架馬ニ駄載ス
 四番乃至六番ハ小架及車軸ト車輪トノ結合ヲ解キ三番乃至六番ハ小架及車輪並車輪ヲ輪馬ニ駄載ス
 七番乃至十番ハ防楯及器具箱ヲ防楯馬ニ、彈藥箱ヲ第一乃至第五彈藥馬ニ駄

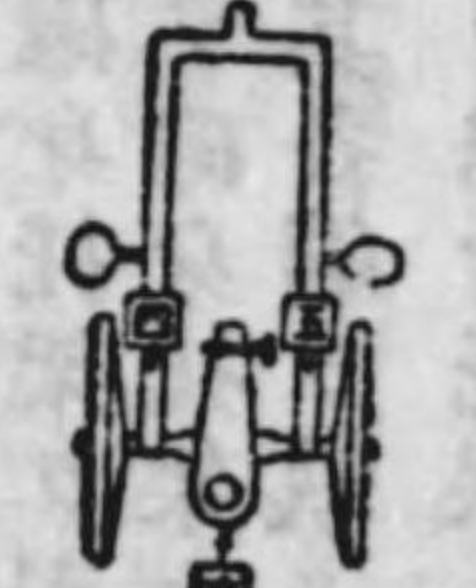
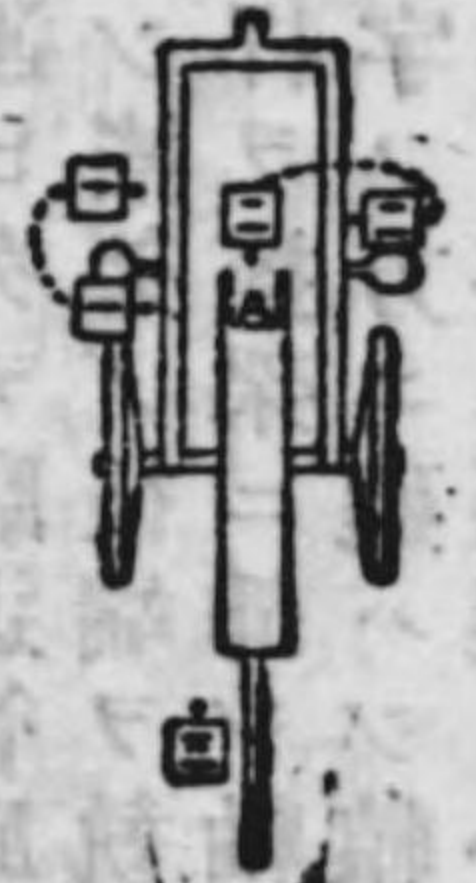

第十圖





砲	身	砲	身
<p>四番ハ閉鎖機ヲ閉テ駐退管 底螺牝螺輪ニテ駐退管底螺 牝螺ヲ脱シ之ヲ高低照準機轉</p>	 <p>四番ハ砲身ヲ水平ニシタル後 閉鎖機ヲ開ク三番ハ砲身槓桿 ヲ起シ砲身ヲ右ニ廻ハシタル 後之ヲ前ニ抽キ出シ砲身槓桿 ヲ舊ニ復シ洗桿ヲ其膨大部マ テ抽キ出シ之ヲ執ル六番ハ轆 桿ヲ執リ五番ハ鈎帶ヲ掛ケ共 ニ轆桿ヲ以テ砲身ノ後端ヲ擔 ヒ三番ト共ニ之ヲ砲身托架ヨ リ離脱ス</p>		
<p>四番乃至六番ハ砲身托架ヲ托 架馬ノ後ロニ運ヒ六番ハ「上 ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セ駐爪ニ</p>	 <p>三番、五番及六番ハ砲身ヲ砲 馬ノ傍ニ運ヒ二番ハ擔棍ヲ砲 身ニ嵌メ一番ト共ニ其各端ヲ 執リ五番ハ鈎帶ヲ、六番ハ轆 桿ヲ脱ス三番ハ「上ケ」ト唱ヘ 砲身ヲ架匡ニ載セ駐爪ニテ其 位置ヲ定メ一番及三番ハ駄裝 革條ヲ以テ縛ル</p>		

搖	架 托 身	搖	架 托 身
<p>一番ハ搖架ノ攫爪ヲ脱シ二番 及三番搖架ヲ離脱スレハ更ニ 之ヲ裝ス二番ハ擔棍ヲ砲車ノ 傍ニ運ヒ次テ駐退管底螺牝螺 ヲ裝シ搖架ノ後端ヲ執ル三番 ハ轆桿ヲ搖架ニ挿シ軸駐楔ヲ 「脱」字ノ方ニ廻ハシ轆桿ヲ執 リ二番ト共ニ搖架ヲ小架ノ上ニ置 離脱シ搖架軸ヲ小架ノ上ニ置</p>	 <p>把ニ掛ケ砲身托架ヲ引キ出シ 次テ擔棍ヲ砲身托架ニ嵌メ五 番ト共ニ其各端ヲ執リ六番ハ 衝爪ヲ上ケ砲身托架ノ前 支ヘ三砲手協力シテ之ヲ搖架 ヨリ離脱ス</p>		
<p>一番乃至三番ハ搖架ヲ搖架馬 ノ後ロニ運ヒ三番ハ「上ケ」ト 唱ヘ架匡ニ載セ駐板及挿筒ニ 依リテ其位置ヲ定メ三番ハ轆 桿ヲ脱シ之ヲ搖架ノ左側ニ致 シ一番及三番ハ駄裝革條ヲ以 テ搖架ヲ轆桿ト共ニ縛リ二架 ハ擔棍ノ一端ヲ駄馬ノ右側方</p>	 <p>テ其位置ヲ定メ五番及六番ハ 駄裝革條ヲ以テ縛リ四番ハ擔 棍ノ一端ヲ駄馬ノ右側方ヨリ 架匡ノ下ニ挿入シ他端ヲ縛具 革條ヲ以テ縛ル</p>		

車 及 架 小	架 砲 後
<p>六番ハ小架及車軸ヲ支ヘ四番及五番ハ軸轄^{チククワツ}、轂帽^{コノバツ}及車輪ヲ脱シタル後轂帽及軸轄ヲ装ス</p> 	
<p>四番ハ兩車輪ヲ支フ五番及六番ハ轂帽及小架ノ後端ヲ執リ小架ヲ反轉シ輪馬ノ後ロニ運ヒ六番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セ其室ニ致シ駄裝革條ヲ以テ縛リ四番及五番ハ車輪ヲ輪馬ノ兩側ニ運ヒ鈎輪索ヲ轂筒ノ下ニシ其兩端ヲ相對スル幅</p>	<p>ヲ反轉シ三番ハ後砲架ヲ執リ提把ヲ下ニスル如ク前砲架ノ上ニ載セ駐鋤^{チウジヨウ}駐鉤^{チウコウ}ニテ其位置ヲ定メ二番ハ前砲架及後砲架ノ箭材ヲ駄裝革條ヲ以テ縛リ又高低照準機轉把ヲ轉把駐革ヲ以テ縛ル</p> 

及 架 砲 前	架
<p>四番及五番ハ架頭^{ガトウ}ヲ支ヘ四番ハ高低照準機內螺頭駐栓^{ライトク}ヲ抽キ五番及六番ハ車軸室ノ蓋板ヲ開キ六番ハ小架及車軸ヲ車輪ト共ニ架頭ヨリ約二步離隔シ內螺頭駐栓ヲ挿シ四番及五番ハ前砲架ヲ地上ニ卸シ車軸室ノ蓋板ヲ閉ツ</p> 	<p>キ二番ハ擔棍ヲ搖架ニ嵌メ一 番ト共ニ其各端ヲ執ル</p> 
<p>二番ハ轆桿ヲ執リ發射坐ノ傍ニ一、二番ハ照準坐ノ傍ニ到リ三番ハ前砲架ノ後端ヲ執リ一、二番及二番ト共ニ前砲架ヲ反轉シ一、二番ハ轆桿ヲ高低照準機轉把ノ前方ニテ箭材ノ下ニシ其各端ヲ、三番ハ橫梁ヲ執リ前砲架ヲ大架馬ノ後ロニ運ヒ三番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セ箭材駐鎖^{チウソク}ニテ其位置ヲ定メ轆桿駐栓ヲ挿シ換ヘ一番ハ轆桿ヲ箭材ト共ニ駄裝革條ヲ以テ縛リ高低照準機內螺頭</p>	<p>ヨリ架匡ノ下ニ挿入シ他端ヲ縛具革條ヲ以テ縛ル</p> 

(箱具器) 箱 藥 彈	輪 車 並 軸
<p>七番乃至十番ハ彈藥箱(器具箱)ノ提把ヲ執リ後方ノ砲手ハ「上ケ」ト唱ヘ同時ニ之ヲ彈藥馬(防楯馬)ニ載セ駄裝革條ヲ以テ縛ル</p> 	<p>ノ下ニ通ス三番乃至六番ハ車輪ヲ上ケ鉤輪索ノ鏈ヲ懸鏈鉤ニ掛ケ四番及五番ハ駄裝革條ヲ以テ綱ヲ縛ル</p> 

卸下

第百六

卸下セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

砲車班ノ馭者(防楯馬馭者ヲ除ク)ハ右旋回ヲ爲シ卸下終ルヤ左旋回ヲ爲シ分隊ノ各馭者ハ輪馬馭者ニ重リ其馬ノ位置ヲ正ス

六番ハ諸蓋ヲ防楯馬ノ左前方支板ヨリ脱シ五番ハ鉤帶ヲ第一器具箱ヨリ出ス

三番乃至六番ハ車輪、小架及車軸ヲ輪馬ヨリ卸シ四番乃至六番ハ之ヲ結合ス

三番ハ後砲架ヲ、一番乃至三番ハ前砲架ヲ大架馬ヨリ卸シ四番乃至六番ハ前砲架ト小架及車軸トヲ結合ス

一番乃至三番ハ搖架ヲ搖架馬ヨリ卸シ之ヲ結合ス

四番乃至六番ハ砲身ヲ托架ヲ托架馬ヨリ卸シ之ヲ結合ス

一番乃至三番ハ砲身ヲ砲馬ヨリ卸シ三番乃至六番ハ之ヲ結合ス

四番ハ高低照準機轉把ヲ廻ハシテ砲身ヲ略、箭材ノ方向ニ平行セシメタル後發射坐及照準坐ヲ倒シ箭材ノ間ニ入り砲車ヲ右ニ廻ハシテ反對ノ方向ニ向ハシメ轉把駐革ヲ以テ搖架轉把及高低照準機轉把ヲ縛リ一番及二番ハ轆桿ヲ裝シ、一番ハ砲尾蓋ヲ、二番ハ表尺蓋ヲ、三番ハ砲口蓋ヲ裝ス次テ三番ハ後砲架ヲ、五番ハ擡棍ヲ定位ニ置キ鉤帶ヲ第一器具箱ニ復ス

七番乃至十番ハ器具箱及防楯ヲ防楯馬ヨリ、彈藥箱ヲ第一乃至第五彈藥馬ヨリ卸ス

防	身	砲	架托身
七番乃至十番ハ防楯ヲ縛ヲ解キ七番及八番ハ防楯ヲ執リ七番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ヨリ卸	二番ハ擔棍ヲ執リ砲馬ノ傍ニ運ヒ之ヲ砲身ニ嵌メ一番ト共ニ其各端ヲ執ル三番ハ洗桿ヲ執リ「上ケ」ト唱ヘ三砲手協力シテ砲身ヲ架匡ヨリ卸ス	六番ハ轆桿ヲ執リ五番ハ鈎帶ヲ掛ケ共ニ轆桿ヲ以テ砲身ノ後端ヲ擔ヒ一番ハ擔棍ヲ脱シ砲身ヲ前砲架ノ傍ニ運フ	架ヲ其位置ニ致シ駐退管底螺牝螺輪ニテ駐退管底螺牝螺ヲ装シ閉鎖機ヲ開ク六番ハ衝爪ヲ下ク
結合ヲ要スルトキハ七番及八番ハ防楯ヲ開キテ之ヲ装シ諸駐栓ヲ挿シ裝著桿ト車軸トヲ	三番、五番及六番ハ砲身ヲ砲身托架ニ載セ五番ハ鈎帶ヲ六番ハ轆桿ヲ脱ス三番ハ砲身ヲ起シ砲身ヲ後方ニ押シタル後之ヲ廻ハシテ砲身托架ト結合シ砲身轆桿ヲ舊ニ復シ四番ハ閉鎖機ヲ閉チ搖架ノ下面ヲ略、前砲架ノ方向ニ一致セシム	シテ砲身ヲ架匡ヨリ卸ス	

速度 分一三 直前進	砲廠去レ	箱薬彈 (箱器具)	楯
第百八 輪馬馱者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馱者ハ一步ノ距離ヲ保チ之ニ隨フ	第百八 脱駕或ハ卸下シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス	馱載ト反對ノ操作ヲ爲ス	シ其上端ヲ前方ニスル如ク防楯馬ノ右側方ニ置ク
第百九 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米、速歩百四十五米ヲ基準トス	第百九 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米、速歩百四十五米ヲ基準トス		連結ス
第百十 常(速)歩ニテ直前進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス	第百十 常(速)歩ニテ直前進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス		
分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ彈藥班長ハ分隊長ニ隨ヒ	分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ彈藥班長ハ分隊長ニ隨ヒ		
輪馬馱者ハ分隊長ニ、第一彈藥馬馱者ハ彈藥班長ニ準ヒ後方ノ馱者ハ前方ノ	輪馬馱者ハ分隊長ニ、第一彈藥馬馱者ハ彈藥班長ニ準ヒ後方ノ馱者ハ前方ノ		
馱者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度	馱者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度		

停止 ヲ伸ハシ速歩ニ移ル
第一百十一 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 分隊長及彈藥班長ハ漸次ニ停止ス
 各隊ハ漸次ニ停止ス但輪馬馭者ハ分隊長ニ、第一彈藥馬馭者ハ彈藥班長ニ準ヒテ止ル

步度變換
第一百十二 步度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 常(速)步 進メ
 漸次ニ所命ノ步度ニ移ル

步度伸縮
第一百十三 常(速)歩 進行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 步度ヲ伸ハセ
 或ハ
 徐ロニ速度ヲ縮メ
 正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 常(速)歩 進メ
 徐ロニ正規ノ速度ニ復ス

右(左)向
第一百十四 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)へ 進メ

後向
第一百十五 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 半輪に左へ 進メ
第一百十四 要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス
第一百十六 停止間各馬ヲ其場ニ於テ右(左)ニ旋回セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)旋回
 各馭者ハ馬ニ面シ其前驅ヲ已ノ右(左)手ノ方向ニ約九十度旋回ス

一般ノ要領
第一百十七 馭馬ノ運動ハ特ニ指示ナキトキハ放列布置ノ場合ニ於テハ其際探リアル步度、撤去ノ場合ニ於テハ速歩ヲ以テ行フ
 放列布置ノ號令アルトキ進行進間ニ在リテハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止シ彈藥班長ハ防楯馬及彈藥班ヲ導キ現在ノ步度(停止ヨリ放列ヲ布置スルトキハ常歩)ヲ以テ右放列ニ在リテハ砲車班ノ左側、左放列ニ在リテハ砲車班ノ右側約八歩ニ到ル
 放列布置ノ際分隊長及砲車班ノ砲手ハ先ツ背囊ヲ卸シ分隊長ノ指示スル位置ニ置ク又撤去ノ際ニハ適時之ヲ負フ
 馭者乘馬ヲ牽クニハ牽繩ノ端末ヲ右手ニ致シ左手ヲ以テ乘馬ノ小勒繩ヲ執リ

放列布置

兩馬ノ間ニ位置シテ之ヲ馭ス
第百十八 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左) 騎方 放列

分隊長ハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ヲ所望ノ位置ニ導キ脱駕若ハ卸下及結合等ニ
關シ所要ノ事項ヲ示シタル後砲車ヲ其占ムヘキ位置ニ導ク
繫駕セルトキハ第百三ニ從ヒ先ツ脱駕ス
一番及二番ハ轆桿ヲ脱シ一番ハ發射坐ヲ起シ砲尾蓋ヲ脱シ己ノ傍ニ置ク二番
ハ照準坐ヲ起シ表尺蓋ヲ脱シ己ノ傍ニ置キ轉把駐革ノ縛ヲ解キ表尺及眼鏡ヲ
六番ヨリ受取リテ之ヲ裝シ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位(俯仰分畫ヲ零位、鏡頭分畫ヲ
百位、回轉盤分畫ヲ前視零位(鏡頭ヲ前方ニセルトキノ零位))ニ、高低水準
器ノ指針ヲ百位ニ在ラシメ高低水準器ノ氣泡及坐筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略
中央ニ導キ三番ハ四番砲車ヲ廻ハシタル後砲架ヲ裝ス四番ハ箭材ノ間ニ入
リ砲車ヲ左(右)ニ廻ハシテ砲口ヲ右(左)方ニ向ハシメ前砲架ヲ支ヘ橫梁被ヲ
脱シ前砲架ノ箭材ニ縛シ三番後砲架ヲ裝スルヤ架尾ヲ地上ニ卸ス一番ハ轆桿
ヲ左肩ヨリ右脇ニ掛ケ體ヲ指標ヲ信管修正分畫ノ零位ニ一致セシム
五番及六番ハ器具箱ヲ定位ニ運ヒ五番ハ擔棍ヲ定位ニ置キ器具箱ヨリ信管廻
二箇ヲ出シ其一ヲ四番ニ渡シ他ノ一ヲ四番ニ準シテ操作ス六番ハ表尺及眼鏡
ヲ器具箱ヨリ出シテ二番ニ渡シ砲尾蓋及表尺蓋ヲ纏メテ定位ニ置キ通常二彈

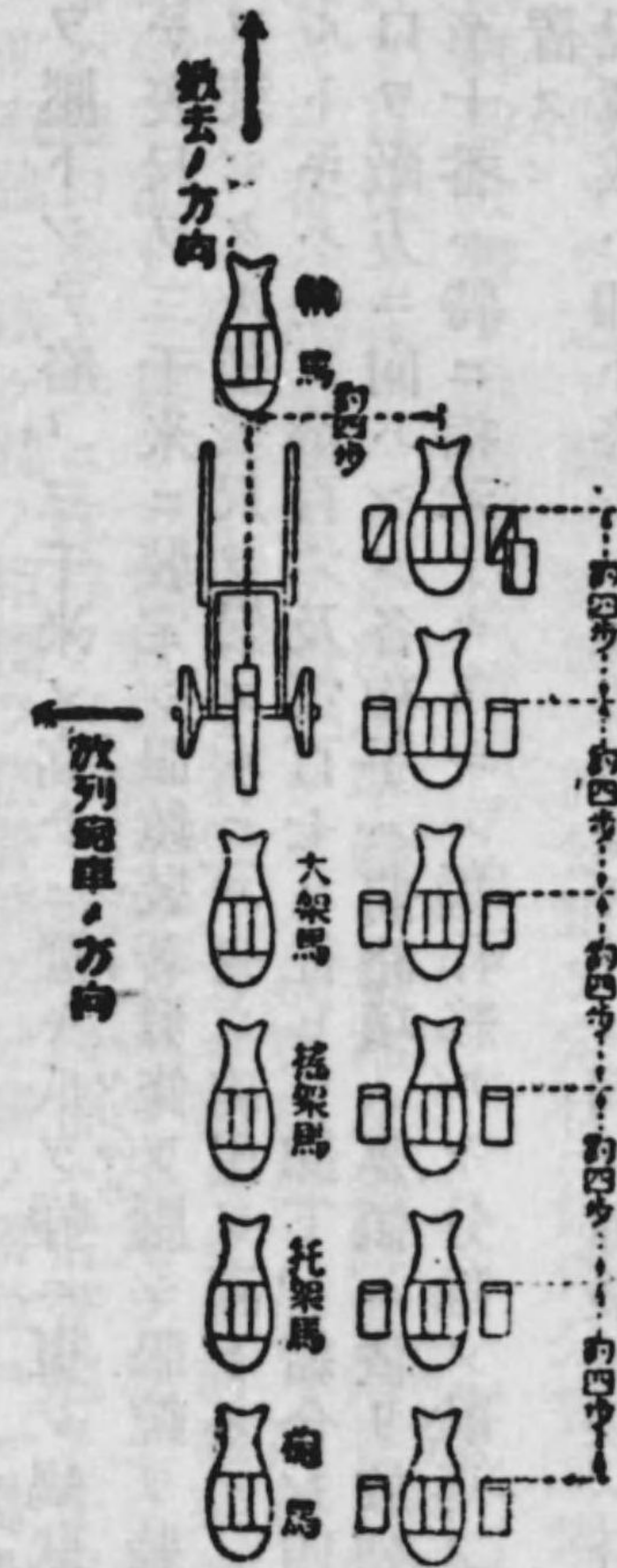
繫駕

藥箱ノ蓋板ヲ開キ探出ニ便ナル如ク彈藥ヲ整フ七番及八番ハ防楯ヲ裝シ七番
乃至十番ハ彈藥箱ヲ定位ニ運フ

表尺及眼鏡ヲ裝スルニハ解脫管ノ爪ヲ後方ニ壓シ表尺ヲ表尺坐筒ノ溝ニ挿
シ之ヲ壓下シテ略ト三千里ノ高サニ置キ爪ヲ靜ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉把ヲ廻
ハシテ表尺ヲ三千里ニ裝定シ眼鏡裝着發條ヲ壓シ眼鏡ヲ裝ス
防楯ヲ裝シタル後表尺ヲ裝スルニハ先ツ砲尾ヲ滿下ス
馭載セルトキハ先ツ第百六及第百七ニ從ヒテ卸下、結合シ四番ハ砲車ヲ廻ハ
シテ砲口ヲ敵方ニ向ハシメ各砲手ハ前諸項ノ要領ニ依リ放列ヲ布置ス
七番乃至十番ハ特ニ指示ナキトキハ操作終ルヤ分隊ノ馭馬ノ位置ニ到リ其後
方ニ位置ス
馭者ハ脱駕或ハ卸下終ルヤ彈藥班長ノ許ニ到リ彈藥班長ハ分隊ノ馭馬ヲ纏メ
テ所命ノ地點ニ到ル
第百十九 放列ニ在ルトキ繫駕セシムルニハ七番乃至十番ヲ招致シタル後左
ノ號令ヲ下ス
右(左) 馬ヲ繫ケ
一番ハ砲尾蓋ヲ裝シ發射坐ヲ倒シ轆桿ヲ前ニ運ヒ二番ハ搖架ノ下面ヲ略ト前
砲架ノ方向ニ一致セシメ轉把駐革ヲ以テ搖架轉把及高低照準機轉把ヲ縛リ眼
鏡及表尺ヲ脱シ之ヲ六番ニ渡シ表尺蓋ヲ裝シ照準坐ヲ倒ス三番ハ後砲架ヲ脱
シ洗桿ヲ砲腔ニ挿シ砲口蓋ヲ裝シ四番ハ信管廻ヲ五番ニ渡シ箭材ノ間ニ入り

駄載

圖一十第

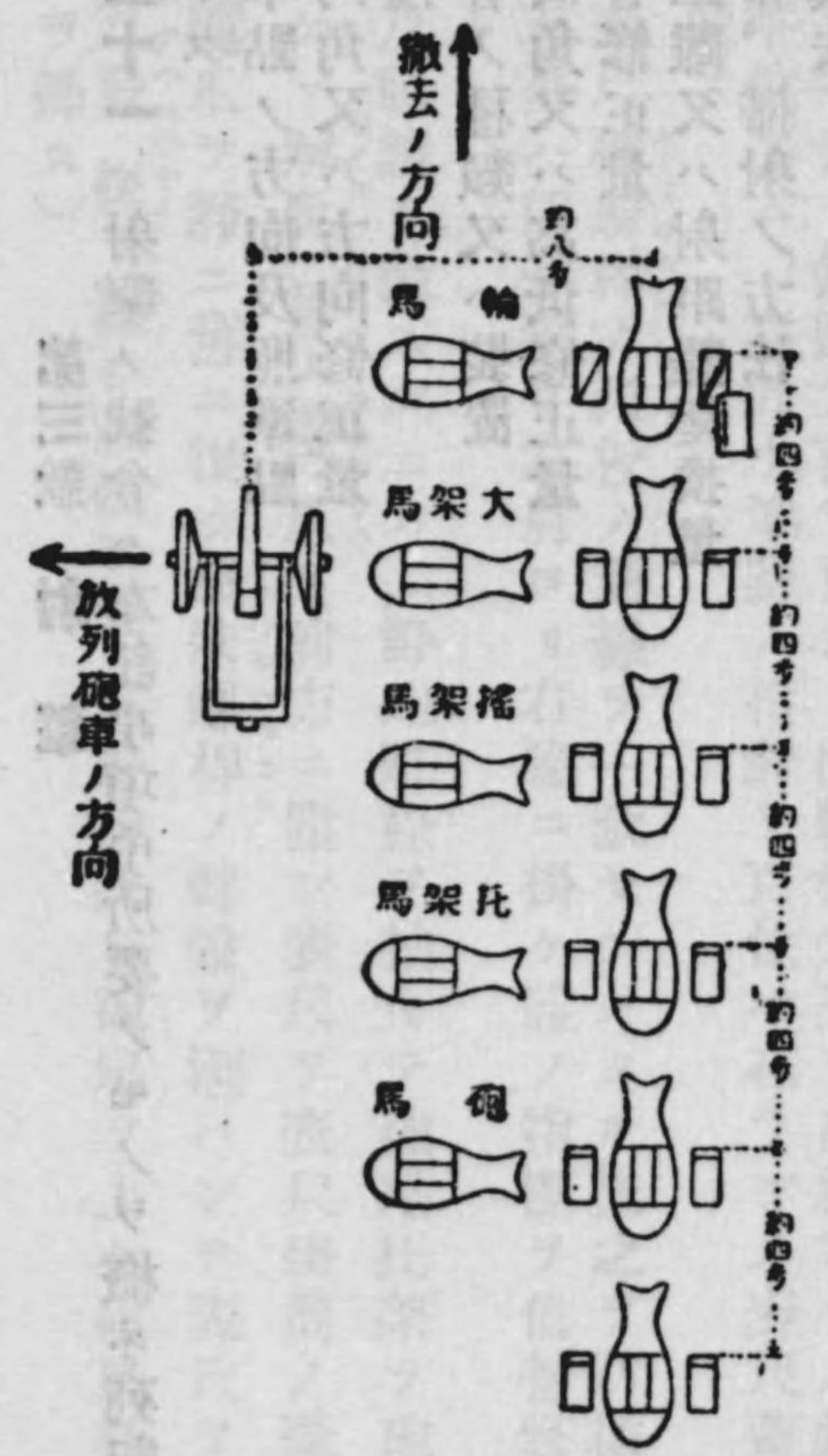


令ヲ下ス
右(左)へ馬ニ駄セ
二番ハ眼鏡及表尺ヲ脱シ之ヲ六番ニ渡シ三番ハ後砲架ヲ脱シ砲車ノ外側方約

前砲架ヲ支ヘ三番後砲架ヲ脱スルヤ横梁被ヲ装シ砲車ヲ廻ハシテ砲口ヲ左
(右)方ニ向ハシメ横梁ヲ地上ニ卸シ一番及二番ハ轆桿ヲ装ス五番ハ信管廻ヲ
器具箱ニ收メ七番ハ砲尾蓋ヲ一番ニ、表尺蓋ヲ二番ニ渡シ表尺及眼鏡ヲ器具
箱ニ收メ七番及八番ハ防楯ヲ脱ス
五番及六番ハ器具箱ヲ、七番乃至十番ハ防楯及彈藥箱ヲ砲車ノ右(左)側ニシ
テ第十一圖ノ位置(右方繫駕ノ場合)ニ運フ
彈藥班長ハ分隊ノ駄馬ヲ放列ニ導キ各駁者ハ第十一圖ノ位置ニ就キ第百二ニ
從ヒ繫駕ス

分隊ハ前進ニ
方リ正規ノ隊
形ニ移ル
第百二十放
列ニ在ルトキ
駄載セシムル
ニハ七番乃至
十番ヲ招致シ
タル後左ノ號

圖二十第



三步ノ所ニ置キ洗桿ヲ砲腔ニ挿ス四番ハ信管廻ヲ五番ニ渡シ箭材ノ間ニ入り
前砲架ヲ支ヘ三番後砲架ヲ脱スルヤ横梁被ヲ装シ砲車ヲ廻ハシテ砲口ヲ右
(左)方ニ向ハシメ横梁ヲ地上ニ卸ス五番ハ信管廻ヲ第一器具箱ニ收メ六番ハ
表尺及眼鏡ヲ器具箱ニ收メ七番及八番ハ防楯ヲ脱ス
五番乃至十番ハ第百十九ニ準シ器具箱、防楯及彈藥箱ヲ第十二圖ノ位置(右方
駄載ノ場合)ニ運フ
彈藥班長ハ分隊ノ駄馬ヲ放列ニ導キ各駁者ハ第十二圖ノ位置ニ就キ第百四及
第百五ニ從ヒ駄載ス

駄載終ルヤ砲
車班(防楯馬
ヲ除ク)ハ右
(左)旋回ヲ爲
ス
分隊ハ前進ニ
方リ正規ノ隊
形ニ移ル

號令

第三款 射擊
第二百二十一 射擊ノ號令ハ左記事項中所要ノモノヲ概ネ列記ノ順序ニ令スル

照準點ノ方向及照準點
方向角又ハ方向修正量

彈種
信管ノ種類又ハ裝置
高低角又ハ高低修正量

信管修正量
射距離又ハ射距離變換量

散布、掃射ノ方法
裝填法

發射速度
發射法

射擊スヘキ目標ハ適宜ノ時機ニ之ヲ指示ス

分隊長以下ハ新ナル號令アルトキハ直ニ之ニ依リ操作ス

砲手ハ射擊諸元ノ號令アル毎ニ之ヲ裝定又ハ修正シタル後其結果ヲ分隊長ニ報告ス而シテ此報告及操作間ニ用フル呼號ハ關係者ノ了解シ得ルヲ度トシ明確ニ發唱スルモノトス

第二百二十二 照準成ルヤニ番ハ「宜シ」ト唱フ方向照準又ハ高低照準ノミヲ爲

射擊用意

シタル場合ニ於テモ亦同シ
射擊用意及解除

第二百二十三 野、騎砲ニ在リテ射擊用意ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

射擊用意
一番ハ砲口蓋ヲ防楯ニ著ケ砲尾蓋ヲ容易ニ脱シ得ル如クス又特ニ指示アルトキハ象限儀ヲ其裏ニ收ム

二番ハ表尺蓋ヲ脱シ己ノ傍ニ置キ表尺及眼鏡ヲ裝シ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位(俯仰分畫ヲ零位、鏡頭分畫ヲ百位、回轉盤分畫ヲ前視零位(鏡頭ヲ前方ニセルトキノ零位)ニ、高低水準器ノ指針ヲ百位ニ在ラシメ表尺蓋ヲ容易ニ脱シ得ル如ク裝ス)

三番ハ表尺補助桿ノ頭板ノ刻線ヲ一致セシメタル後之ヲ防楯ニ著ケ

四番及五番ハ信管廻ヲ左肩ヨリ右脇ニ掛ケ體ノ指標ヲ信管修正分畫ノ零ニ一致セシム

表尺及眼鏡ヲ裝スルニハ(野砲駐栓ヲ抽キテ砲尾托架ヲ砲尾ヨリ脱シ砲尾ヲ下ケ)解脫管ノ握爪ヲ前方ニ壓シ表尺ヲ表尺坐筒ノ溝ニ挿シ之ヲ壓下

シテ握爪ヲ靜ニ舊ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシテ表尺ヲ滿下シ次テ眼鏡

裝著條ヲ壓シ眼鏡ヲ裝ス(野砲次テ砲尾ヲ上ケ砲尾托架ヲ砲尾ニ鈎シ

駐栓ヲ挿ス)

用意解ケ

第二百二十四

野、騎砲ニ在リテ射撃用意ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
用意ヲ解ケ

第二百二十三

概ネ反對ノ操作ヲ爲ス
射向附與

第二百二十五

射向ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
照準點右後方一本杉ノ頂上
方向四百五十

或ハ

照準點前方塔ノ頂上
照準點前方塔ノ頂上
八十右(左)ヘ

分隊長ハ照準具ノ裝定及照準ヲ監視ス又方向固有修正量ヲ自テ修正スヘキ命
令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス
二番ハ照準具ヲ裝定或ハ修正シ之ニ方向固有修正量ヲ修正シタル後四番ト共
ニ方向照準ヲ爲ス
照準點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキハ通常分隊長ハ他ニ適
當ナル地物ヲ選ビ標定點ト爲シ之ヲ二番ニ指示ス二番ハ射向ヲ換フルコトナ
ク照準具ヲ廻シテ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ標定點ニ一致セシメ標定
點及方向角ヲ分隊長ニ報告ス
標定點ハ發見及照準容易ニシテ埋滅變位ノ虞ナク其位置ハ成ルヘク遠ク且後
方ナルヲ可トス

標定點トシテ適當ナル地物ナキトキハ標桿ヲ立ツ
夜間ニ在リテハ標定點トシテ通常携帶燈(騎砲、山砲提燈)ヲ設置ス

照準具ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫子ノ把子ヲ略シ垂直ニ起シ右手ヲ以
テ鏡頭ヲ攫ミ眼鏡ノ向ヲ照準點ノ方向ニ廻ハシテ所命ノ本分畫ヲ照準室
ノ指標ニ一致セシメ把子ヲ靜ニ舊ニ復シタル後右手ヲ以テ轉輪ヲ右ニ廻ハ
シテ所命ノ補助分畫ヲ指針板ノ指標ニ一致セシム

照準具ヲ修正スルニハ現ニ照準室及指針板ノ指標ニ對スル刻線ヨリ起リ
所命ノ數ヲ右(左)ニシ補助分畫ノ刻線ヲ指標ニ一致セシム而シテ照準室
本分畫ヲ右(左)ニスルニハ本分畫ヲ指標ニ對シ右(左)ニ移シ補助分畫ヲ右
(左)ニスルニハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハス但轉輪ハ常ニ右ニ廻ハシテ止ムル如
クスルヲ要ス

照準點ト共ニ方向修正量ヲ號令セラレタルトキハ照準點ノ方向後(前)方ナ
ルニ從ヒ後(前)視零ヨリ修正ス

方向照準ヲ爲スニハ四番ハ照準棍(山砲提把又ハ大架箭材)ヲ執リ二番ノ回
轉盤ノ操作ヲ終ルヲ待テ架尾ヲ左右シ砲口ヲ略シ所望ノ方向ニ向ハシム
二番ハ高低水準器ノ氣泡及坐筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略シ中央ニ導キ然ル後
眼ヲ眼鏡ヨリ約一指幅ヲ隔テ狙ヒ手若ハ聲ニテ合圖ヲ爲シ四番ヲシテ架
尾ヲ左右セシメ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ略シ照準點ニ導キ次テ搖架
轉把ヲ廻ハシ要スレハ鏡頭ヲ俯仰シテ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ照準

表尺補助

點ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈(騎砲山砲提燈)ヲ以テ窓板若ハ照窓ヲ照ス
第百二十六 方向照準ノ爲眼鏡ヲ高メ或ハ回轉盤ヲ俯仰セシムルヲ要スルトキハ表尺補助桿ヲ用フ
表尺補助桿ヲ以テ照準ヲ爲シタルトキハ方向照準終ルヤ之ヲ脱ス
表尺補助桿ヲ裝スルニハ二番ハ先ツ表尺ノ眼鏡裝著發條ヲ壓シテ眼鏡ヲ脱シ之ヲ表尺補助桿ノ眼鏡室ニ嵌メ右手ヲ以テ表尺補助桿ノ下部ヲ握リ左手ヲ以テ眼鏡裝著發條ヲ壓シ底板ヲ表尺ノ眼鏡室ニ裝ス
表尺補助桿ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス

彈藥準備

第百二十七 彈藥ヲ準備セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
榴霰彈
六番要スルハ四番及五番ハ所命ノ彈藥ヲ砲側ニ準備ス
第百二十八 榴霰彈等ノ爲信管ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
瞬發(短延期)信管
三番ハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル
五番要スレハ四番及六番ハ所命ノ信管ヲ裝著シ通常五番ハ彈藥ヲ三番ニ渡ス
瞬發(短延期)信管ヲ裝著スルニハ彈口栓ノ麻綱ヲ引キテ之ヲ脱シ信管ヲ啄

信管準備

過ハシテ十分緊ム
信管ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス
第百二十九 榴霰彈等ノ爲信管ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
曳火(著發)信管
三番ハ著發信管ニ在リテハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル
通常五番ハ彈藥ヲ取リ曳火信管ニ在リテハ信管廻リ彈頭ニ冠シ著發信管ニ在リテハ完全ノ位置ニ在ル彈藥ヲ三番ニ渡ス
射角附與及信管測合

射角附與

第百三十 射角ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
高低九十五
四千六百

分隊長ハ照準具及信管廻リ裝定並照準ヲ監視ス又高低固有修正量ヲ自ら修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス
一番ハ安全栓ヲ發火ノ位置ニ置キ野、騎砲ニ在リテハ閉鎖機ヲ開キ(騎砲、表尺ヲ裝定シ)後方轉把ヲ廻ハシテ制轉機ヲ緊メ山砲ニ在リテハ拉繩ヲ執リ閉鎖機ヲ開ク
二番ハ高低水準器ニ高低角ヲ裝定シ之ニ高低固有修正量ヲ修正シ(野砲、山砲表尺ヲ裝定シ)タル後高低水準器ヲ以テ高低照準ヲ爲ス但騎砲ニ在リテハ六千五百米以上、山砲ニ在リテハ六千米以上ニ於テハ象限儀ニ依リ高低照準ヲ爲ス

三番ハ曳火信管ニ在リテハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル
 四番及五番ハ榴霰彈ニ在リテハ信管廻ヲ裝定シ且曳火信管ニ在リテハ通常五番ハ信管ヲ測合シテ彈藥ヲ三番ニ渡ス
 高低水準器ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ其轉輪ヲ廻ハシテ所命ノ分畫ヲ指針ニ導キ轉輪ヲ左(山砲右)ニ廻ハシテ止メ分畫ノ刻線ト指針トヲ一致セシム
 高低水準器ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ指針ニ對シ分畫ノ所命量ヲ増減ス
 野砲ノ表尺ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ解脫管ノ握爪ヲ前方ニ壓シ左手ヲ以テ表尺ノ下端ヲ要スレハ右手ヲ以テ其上部ヲ握リ之ヲ略ト所望ノ高サニ置キ握爪ヲ靜ニ奮ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシ最後ニ表尺ヲ上ケテ彈種ニ應スル所命ノ距離刻線ヲ坐筒上緣ニ一致セシム但表尺ノ移動量小ナルトキハ蝸狀螺桿ノ轉輪ノミヲ以テ之ヲ爲シハ掌ヲ以テ轉輪ヲ押シ又ハ引ク如ク操作シ微量ノモノハ轉輪ヲ把持シテ拳ノ作用ニ依ルヲ可トス
 騎砲ノ表尺ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ轉把ヲ廻ハシ表尺ヲ上下シ最後ニ表尺ヲ上ケテ所命ノ距離刻線ヲ坐筒上緣ニ一致セシム
 山砲ノ表尺ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫管ノ爪ヲ後方ニ壓シ右手ヲ以テ表尺ノ下端ヲ要スレハ左手ヲ以テ其上部ヲ握リ之ヲ略ト所望ノ高サニ置キ爪ヲ靜ニ奮ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉把ヲ廻ハシ最後ニ表尺ヲ上ケテ所命ノ距離刻線ヲ坐筒上緣ニ一致セシム但表尺ノ移動量小ナルトキハ蝸狀螺桿ノ轉

把ノミヲ以テ之ヲ爲シ右手ヲ以テ轉把ノ握把ヲ握リ表尺ヲ上下スル如ク操作シ微量ノモノハ轉把ヲ把持シテ拳ノ作用ニ依ルヲ可トス
 高低水準器ヲ以テ高低照準ヲ爲スニハ眼ヲ高低水準器ノ上方ニシ左手ヲ以テ高低照準機轉把ヲ廻ハシ要スレハ右手ヲ添ヘ氣泡管ノ刻線ニ對シ氣泡ヲ前後對稱ナル如ク靜止セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈(騎砲、山砲提燈)ヲ用ヒ高低水準器ノ下方ニ其光線ヲ反射セシムルカ若ハ直接氣泡管ノ下方ヲ照ス
 象限儀ニ依リ高低照準ヲ爲スニハ分隊長ハ象限儀ヲ裝定シ其分畫面ヲ左ニシテ之ヲ砲尾上面ニ在ル駐筒(山砲象限儀坐)ニ準シ靜ニ置キ二番ハ前項ニ準シテ操作ス高低照準終ルヤ分隊長ハ象限儀ヲ除ク
 象限儀ヲ裝定スルニハ先ツ射距離ヲ之ニ取リ次テ高低角及高低固有修正量ヲ修正スルカ或ハ直ニ之ニ射角及高低固有修正量ヲ取ル
 象限儀ニ射距離ヲ裝定スルニハ先ツ其垂直板ニ依リ所命ノ距離ニ應スル本分畫及副分畫ヲ讀ミ次テ轉輪ヲ廻ハシテ角度板上ニ本分畫ヲ、遊標上ニ副分畫ヲ取リ其兩刻線ヲ一致セシム
 射距離ヲ取リアル象限儀ニ高低角及高低固有修正量ヲ修正スルニハ先ツ象限儀分畫ヲ讀ミ之ニ高低角及高低固有修正量ヲ増減シテ得タル角度ヲ象限儀ニ取ル
 象限儀分畫ヲ讀ムニハ遊標ノ指標ヲ示ス下位最近ノ角度板分畫ニ兩分畫刻

信管修正
分畫變更

線ノ一致セル部位ノ遊標分畫ヲ加ヘ例ハ「十五度十一」ト讀ム
象限儀ニ射角及高低固有修正量ヲ裝定スルニハ射角ニ高低固有修正量ヲ増
減シテ得タル角度ヲ之ニ取ル
象限儀ニ角度ヲ裝定スルニハ先ツ遊標ノ指標ヲ半度單位ニ應スル角度板分
畫ノ刻線ニ一致セシメテ殘餘ノ角度ニ應スル遊標分畫ノ刻線ヲ上位最近
ノ角度板分畫刻線ニ一致セシム
信管廻ヲ裝定スルニハ先ツ挿板螺ヲ緩メ挿板ノ指針ヲ所命ノ距離刻線ニ一
致セシメタル後挿板螺ヲ緊ム
信管ヲ測合スルニハ右手ニ信管廻ノ握把ヲ、左手ニ彈藥ヲ執リ信管廻ノ體
ノ赤標ヲ信管小藥盤ノ信管廻指標ニ一致セシムル如ク其突筒ヲ信管廻用切
截溝ニ嵌メ右ニ廻ハシテ挿板ヲ駐針ニ合セシム
第三百三十一 信管修正分畫ヲ取ラシムルニハ例ハ左ノ號令ヲ下ス
信管三ツ高メ(下ケ)
或ハ
信管修正高ク(下ケ)五ツ 或ハ 信管修正零
四番及五番ハ信管廻ヲ修正シ通常五番ハ信管ヲ測合シテ三番ニ渡ス
信管廻挿板ノ指針ヲ所命ノ距離刻線ニ一致セシムル必要アルトキハ例ハ
「信管千二百」ノ號令ヲ下ス

裝填

信管廻ヲ修正スルニハ壓螺ヲ緩メ體ノ指標ニ對シ修正分畫ヲ所命ノ量タケ
移動シ刻線ヲ一致セシムルカ或ハ指標ニ所命ノ修正分畫刻線ヲ一致セシメ
タル後壓螺ヲ緊ム而シテ高ムル場合ニハ「↑」下クル場合ニハ「↓」ノ符號
ヲ指標ニ近ツクルモノトス

第三百三十二 所望ノ彈數ヲ裝填セシムルニハ例ハ左ノ號令ヲ下ス
三發
通常五番ハ第三百二十七乃至第三百三十一ニ從ヒ彈藥ヲ準備シ逐次之ヲ三番ニ渡
ス三番ハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取り彈藥ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱
ヘ所命ノ彈藥ニ至ルマテ逐次裝填ス
一番ハ三番彈藥ヲ裝填スルヤ閉鎖機ヲ閉チ二番ハ一番閉鎖機ヲ閉ツルヤ照準
ヲ點檢ス
散布竝掃射ニ在リテハ一距離、一方向ニ應スル彈數ヲ示ス
彈藥ヲ裝填スルニハ三番ハ要スレハ砲腔内ヲ點檢、拭淨シタル後左手ヲ以
テ彈藥ノ重心位置ヲ支ヘ右手ヲ彈藥筒ノ底部ニ添ヘ駐釘ヲ上方ニシテ砲身
軸ノ方向ニ推進シ藥莢起線部ヲ身管(騎砲、山砲砲身)後端面ニ接著セシム
一番ハ閉鎖機ノ槓桿ヲ稍、後方(騎砲、山砲前方)ニ押ス如ク輕ク握リ藥莢
起線部抽筒ニ衝突シテ槓桿カ少シク前方(騎砲、山砲後方)ニ回轉セント
スルトキ機ヲ失セス閉鎖機ヲ閉チ三番ハ一番ノ閉鎖機ヲ始ムルト共ニ右手ヲ
彈藥筒底部ヨリ離ス

發秒
中射 數指
三五 定

第三百三十三 連續裝填セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
續イテ込メ
第三百三十二ニ從ヒ操作シ三番ハ連續裝填ス但彈藥ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」
等ト唱フルコトナシ

發射

第三百三十四 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

十秒 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ「擊テ」ト號令シ爾後所命ノ秒數ヲ間シ發射ヲ號令
ス
分隊長ハ發射ニ際シ後復坐ノ景況ニ注意シ要スレハ一番ヲシテ後坐量ヲ測定
セシム

一番ハ分隊長ノ號令ニテ拉繩ヲ引キテ發射シ發射終ルヤ閉鎖機ヲ開ク（騎砲
閉鎖機ヲ開キ表尺ヲ點檢ス）又分隊長ノ命令ニ從ヒ後坐量ヲ測定ス
發射終ルヤ二番ハ照準具ヲ點檢シ照準ヲ爲シ其他ノ砲手ハ所命ノ裝填法ニ應
シ第三百三十二又ハ第三百三十三ニ從ヒ操作ス

發射ニ際シ砲車靜定セサル虞アルコトヲ認ムルトキハ分隊長ハ豫メ「外へ」ト
命シ砲手ヲシテ一時車輪外ニ出テシム又發射アリタルトキハ分隊長ハ約二秒
ヲ間シ數回「擊テ」ト號令シ尙發火セサルトキハ約十五秒ノ後閉鎖機ヲ開カシ

後坐量ヲ測定スルニハ發射ニ先タチ後坐尺示標匡ヲ（騎砲、山砲後坐尺ヲ其
室ヨリ僅ニ）前方ニ進出セシメ發射後指標（騎砲後坐尺ノ前端）ニ一致スル
分畫ヲ讀ム

各個發射
中射 三五
中射 三六

指令發射
中射 三四

第三百三十五 連續發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

連續 各個ニ擊テ

第三百三十四ニ從ヒ操作シ分隊長ハ準備成ル毎ニ直ニ發射ヲ號令ス
第三百三十六 每發所望ノ時機ニ發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

指令 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ發射ヲ號令ス爾後「次キ」ノ號令若ハ記號ニ依リ直ニ
發射ヲ號令スルカ又ハ「何秒（連續）何回次キ」ノ號令ニ依リ第三百三十四（第百
三十五）ニ從ヒ所命ノ回數ニ應スル彈數ヲ發射セシム

第三百三十七 所命ノ彈數ヲ發射中發射速度ヲ換ヘシムルニハ單ニ發射速度ノ
ミヲ號令ス

一發裝填ノ場合（散布及掃射ヲ除ク）ニハ發射速度ヲ號令スルコトナシ

諸元ノ變更

第三百三十八 回轉盤ニ依リ射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

四十右（左）へ

野、騎砲ニ在リテハ一番ハ架尾ノ移動ヲ要スルトキハ制轉機ヲ緩メ四番ノ架
尾移動終ルヤ之ヲ緊ム

射向變換
回轉盤

發射速度
變換

野、騎砲ニ在リテハ一番ハ架尾ノ移動ヲ要スルトキハ制轉機ヲ緩メ四番ノ架
尾移動終ルヤ之ヲ緊ム

搖架轉把

高低角變

二番ハ回轉盤ヲ修正シタル後方向照準ヲ爲ス此際架尾ノ移動ヲ要スルトキハ豫メ方向分畫ヲ零ニ復シ置クモノトス又既ニ射角ヲ附與シアルトキハ方向照準ヲ爲シタル後高低照準ヲ爲ス

四番ハ架尾ノ移動ヲ要スルトキハ照準棍(山砲提把)ヲ執リ二番ト共ニ方向照準ヲ爲ス

射向變換ニ方リ照準點若ハ既ニ採用セル標定點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキハ第百二十五ニ從ヒ新ニ標定點ヲ選定ス

第百三十九 搖架轉把ニ依リ射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ回

二番ハ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク搖架轉把ヲ所命ノ回數タケ廻ハシ高低照準ヲ爲ス

發射後二番ハ方向照準ヲ行フコトナシ

射向ヲ舊ニ復シ方向照準ヲ爲サシムルニハ「方向舊ヘ」ノ號令ヲ下ス

第百四十 彈種並信管ノ種類若ハ裝置ヲ換ヘシムルニハ第百二十七乃至第百二十九ニ從フ

第百四十一 高低角ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

高低百十五

或ハ

高低四増セ(減ケ)

射距離

回轉盤
高低水
準器
表尺
修正
裝定
散布

二番ハ高低水準器ヲ裝定或ハ修正シタル後高低照準ヲ爲ス

第百四十二 信管修正分畫ヲ換ヘ或ハ信管廻插板ノ指針ヲ所望ノ距離刻線ニ一致セシムルニハ第百三十一ニ從フ

第百四十三 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

四千二百

或ハ

二百増セ(減ケ)

第百三十二 準シテ操作ス

第百四十四 回轉盤、高低水準器及表尺等ヲ同時ニ裝定又ハ修正シ照準ヲ行フトキハ通常先少方向及高低ノ順序ニ諸元ヲ裝定又ハ修正シ然ル後方向照準ヲ行ヒ次テ高低照準ヲ行フ

第百四十五 近(遠)方位ヨリ逐次數距離上ニ各距離毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ射距離又ハ其増(減)量ト共ニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス但現在裝定セル射距離ヨリ發射セシムル場合ニハ射距離ノ號令ヲ省略スルコトヲ得

散 布

遠(近)ケ百 三距離

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ所命ノ射距離若ハ現在ノ射距離ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ所命ノ量ヲ増(減)シタル射距離若ハ所命ノ射距離増(減)量並彈數ヲ號令ス

掃射

直接表尺
照準

砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

第四百十六 掃射 一距離上ニ於テ逐次射向ヲ換ヘ各射向毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス

三方向 右(左)ニ回

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ現在ノ射向ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク所命ノ搖架轉把ノ旋回方向及回數並彈數ヲ號令ス

砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

第四百十七 直接ニ目標ニ對シ表尺ヲ以テ照準ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下シ次テ目標ヲ示ス

表尺照準

分隊長ハ方向固有修正量及俯仰分畫ノ規正量ヲ修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス

二番ハ眼鏡ノ諸分畫ヲ一旦定位ニ復シタル後所命ノ修正ヲ爲シ四番ト共ニ照準ヲ爲ス此際照準點ニ關シ特ニ指示ナキトキハ眼鏡内十字ノ交截點ヲ目標ノ中央下際ニ一致セシム

動目標ニ對シ表尺照準ヲ行フトキハ目標ノ運動ニ追隨シテ發射ノ直前ニ至ルマテ照準ヲ繼續ス

零距離發射

第四百十八

零距離ヲ以テ發射ノ準備ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下シ次テ目標ヲ示ス

零距離

二番ハ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位ニ復シ且表尺ヲ零距離ニ裝定シ表尺照準ヲ爲ス但方向固有修正量及俯仰分畫ノ規正量ヲ修正スルコトナシ

三番ハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル

五番ハ榴霰彈ヲ取リ信管ヲ零距離ニ測合シ通常之ヲ三番ニ渡ス榴霰彈ナキトキハ榴彈ヲ使用ス

信管ヲ零距離ニ測合スル爲信管廻ヲ用フルトキハ信管修正分畫ヲモ零ト爲スヲ要ス又廻子ヲ用フルトキハ之ヲ信管大藥盤ノ精圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシテ其圓孔ヲ駐釘ニ向ハシム

諸元保留

第四百十九

射擊諸元ヲ保留セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元書ケ

或ハ

標點方向書ケ

分隊長ハ現在ノ射擊諸元即チ照準點若ハ標定點、方向角、彈種、信管ノ種類若ハ裝置、高低角、信管修正量、射距離ヲ記載ス但標點方向ヲ書ク場合ニ於テハ照準點若ハ標定點並方向角ノミヲ記載ス

第四百十 保留セル諸元ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

射擊中止
射擊再興
射擊止メ

五十一砲兵諸元取レ
或ハ
標點方向取レ
分隊長ハ記載セル諸元ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

射擊ノ中止、再興及停止

第五百一十一 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
射方待テ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ中止ス但一番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全栓ヲ安全ノ位置ニ置ク

第五百一十二 射擊ヲ再興セシムルニハ射擊ニ關スル號令若ハ左ノ號令ヲ下ス
射方始メ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム

第五百一十三 射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
射方止メ

一番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全栓ヲ安全ノ位置ニ置キ野、騎砲ニ在リテハ制轉機ヲ緩メ山砲ニ在リテハ拉繩ヲ握把ニ掛ク

二番ハ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位ニ、高低水準器ノ指針ヲ百位ニ、方向分畫ヲ零ニ復シ表尺ヲ滿下ス

砲手及
者ノ番
稱ノ號

四番及五番ハ信管修正分畫ヲ零ニ復シ信管ヲ測合シアルトキハ之ヲ安全ノ位置ニ復ス又榴彈等ニ信管ヲ裝着シアルトキハ之ヲ脱シ彈口栓ヲ裝ス

五番及六番ハ彈藥ヲ彈藥車ノ後車(山砲彈藥箱)ニ復ス尙山砲ニ在リテハ四番乃至六番ハ彈藥箱ノ蓋板ヲ閉ツ

信管ヲ安全ノ位置ニ復スル爲信管廻ヲ用フルトキハ信管修正分畫ヲ零ニシ挿板ノ指針ヲ分畫板ノ「十」字ニ一致セシメタル後信管測合ト同一ニ操作ス又廻子ヲ用フルトキハ之ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシテ其指針ヲ駐釘右側ニ一致セシム

第二節 十五 榴

第一款 編成、隊形及分隊長(彈藥車長)以下ノ定位

第五百一十四 分隊ノ砲手ニハ一番ヨリ十番ニ至ル番號ヲ附シ馭者ニハ前、中、後馬馭者、鞍馬ニハ前、中、後馬ノ名稱ヲ附シ且馭者ノ乗ル馬ヲ服馬ト謂ヒ其手馬ヲ鞍馬ト謂フ

彈藥車ノ砲手ニハ一番ヨリ四番ニ至ル番號ヲ附シ馭者及鞍馬ノ名稱ハ前項ニ同シ

第五百一十五 分隊ノ隊形第十三、第十四圖ノ如シ

砲廠ニ就
野中三四

繫駕

第二款 運動

繫駕及脱駕

第一百五十八 馬ヲ砲廠ニ就カシムルニハ砲架車ノ轆馬ヲ先ニシ前、中、後馬ノ順序ニ各馬一步ノ距離ヲ以テ砲廠ニ導キ其先頭略、砲車ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス

砲廠ニ就ケ

前馬馭者ハ轆桿ノ方向ニ入り轆桿端ヨリ約七步ヲ隔テテ止リ中、後馬馭者ハ之ニ隨ヒテ止リ各馭者ハ其馬ヲ後退シ繫駕ノ位置ニ就カシム

分隊長及砲身車長ハ通常各、前馬ノ前方ニ在リテ行進シ次テ其左側ニ到ル

馬ヲ繫ケ

分隊長及砲身車長ハ前馬馭者ヨリ必要ナル間隔ヲ取り其下馬ヲ容易ナラシメ馭者乘馬セハ舊位ニ復ス

馭者ハ同時ニ下馬ス

後馬馭者ハ先ツ提轆革ヲ服馬鞍ノ縛囊革條(鞍囊ナキトキハ鞍囊駐轆)ニ結ヒ轆鏈ヲ擔鉤ニ掛ケ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ服馬鉤ニ掛ケ然ル後支桿ヲ吊鉤ニ掛ケ

中馬馭者ハ後馬馭者轆鏈ヲ掛ケ終レハ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ後馬ノ轆革鉤

他共

脱駕

銀ニ掛ク而シテ中馬ノ内方轆索ハ轆鏈ノ上ヲ通過セシム

前馬馭者ハ中馬馭者ト同法ニ依リ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鉤銀ニ掛ク

操作終レハ馭者ハ同時ニ乘馬シ馬ノ位置ヲ正シ輕ク轆索ヲ張ル

第一百六十 脱駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ解ケ

分隊長及砲身車長ハ第一百五十九ニ準シ動作ス

馭者ハ同時ニ下馬ス

前馬馭者ハ服馬ヨリ始メテ轆馬ヲ中馬ノ轆革鉤銀ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ轆索ヲ束ネ終リテ乘馬ス

中馬馭者ハ前馬馭者ト同法ニ依リ操作ス

後馬馭者ハ支桿ヲ吊鉤ヨリ脱シ服馬ヨリ始メテ轆馬ヲ服馬鉤ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ之ヲ束ネ擔鉤ヨリ轆鏈ヲ脱シタル後提轆革ヲ解キ終リテ乘馬ス

後馬ノミヲ脱駕スルトキハ轆索ハ袴革釣革ニ掛ケ支桿ハ吊鉤ヨリ脱スルコトナシ

第一百六十一 脱駕シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ハ砲廠ヲ去レ

砲架車ノ前馬馭者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馭者ハ一步ノ距離ヲ保チ

之ニ隨フ

砲廠去レ
野中三四

砲架車ノ前馬馭者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馭者ハ一步ノ距離ヲ保チ之ニ隨フ

分隊長及砲身車長ハ第五十八ノ要領ニ依リ行進ス
 下(乘)馬 第一百六十二 下(乘)馬セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 分隊長及砲身車長ハ下(乘)馬シ馱者ハ同時ニ下(乘)馬ス但下馬ニ際シ分隊長及砲身車長ハ前馬馱者ヨリ其下馬ヲ爲スニ必要ナル間隔ヲ取り乘馬セハ舊位ニ復ス

行進
 第一百六十三 速度ハ一分時間ニ常歩^{ナミアシ}八十六米、速歩二百十米、駈歩三百十米ヲ基準トス
 以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得而シテ速歩ヲ永ク持續スルトキハ其速度ヲ約百八十米ニ縮ムルヲ可トス

直行進
 第一百六十四 常(速)歩ニテ直行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 前(速)歩 進メ
 分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ砲身車長ハ分隊長ニ隨ヒ同時ニ前進ス
 前馬馱者ハ分隊長又ハ砲身車長ニ準ヒ中、後馬馱者ハ前方ノ馱者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル

停止
 第一百六十五 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊長 止レ
 分隊長及砲身車長ハ漸次ニ停止ス
 後馬馱者ハ漸次ニ控制シテ車輛ヲ止メ前、中馬馱者ハ後馬馱者ノ控制ト相俟テテ漸次ニ停止ス但前馬馱者ハ分隊長又ハ砲身車長ニ準ヒテ止ル

歩度變換
 第一百六十六 歩度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 常(速)歩 進メ
 漸次ニ所命ノ歩度ニ移ル

歩度伸縮
 第一百六十七 常(速)歩(駈)歩行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 歩度ヲ伸ハセ
 或ハ
 歩度ヲ縮メ

右(左)向
 徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム
 正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 常(速)歩(駈)歩 進メ
 徐ロニ正規ノ速度ニ復ス
 第一百六十八 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)向ニ進メ
 砲架車ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ砲身車ハ之ニ隨フ
 右(左)向ニ際シ前馬馱者ハ其内方馬ヲ歩度ノ基準トシ約十五歩ノ半徑ヲ以テ

後向

乗車

下車

第百六十九 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪に左へ進メ

第百六十八ノ要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス

此運動ハ駈歩ヲ以テ行フコトナシ
第百七十 制轉機ヲ使用スルニハ二番及七番ハ通常後車ノ踏板ニ上リ轉輪ヲ使用シテ之ヲ緊メ又ハ緩ム

乗車及下車

第百七十一 乗車及下車ハ停止間ニ於テ行フモノトス要スレハ常歩行進間ニ於テモ之ヲ行フコトアリ
第百七十二 乗車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

乗車

砲手ハ銃劍ヲ體ノ前方ニ致シ乗車ノ定位ニ就キ前車ニ乘レル砲手中外側ニ位置スル者ハ各々外方ノ手ニテ倚欄ヲ握リ各砲手ハ互ニ臂ヲ組ム又二番、四番、七番及九番ハ踏板ヲ踏ミ二番及四番ハ兩手ヲ以テ防楯ノ握把ヲ握リ七番及九番ハ外方ノ手ニテ握桿頭ヲ、内方ノ手ニテ砲身ノ握把ヲ握リ勉メテ身體ヲ内方ニ倚托ス
第百七十三 下車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

準備

放列布置
中
三六

砲手ハ下車ノ定位ニ就キ銃劍ヲ舊ニ復ス

放列布置及撤去

第百七十四 放列布置ハ豫メ射擊用意ヲ爲サシメタル後之ヲ行フ

第百七十五 前車ノ運動ハ特ニ指示ナキトキハ放列布置ノ場合ニ於テハ其際探リアル歩度(駈足ニテ放列ヲ布置スルトキハ速歩)撤去ノ場合ニ於テハ速歩ヲ以テ行フ

放列布置ノ號令アルトキ行進間ニ在リテハ砲架車ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止シ砲身車ハ現在ノ歩度(停止ヨリ放列ヲ布置スルトキハ常歩)ヲ以テ右放列ニ在リテハ砲架車ノ左側、左放列ニ在リテハ砲架車ノ右側ニ約五歩ノ間隔ヲ保ツ如ク前進シ砲架車ト同線上ニ到リテ停止ス

馭者乗馬ヲ牽クトキハ乗馬ノ小勒繩ヲ服馬ノ韁ト共ニ左手ニ執リ之ヲ服馬ノ左側ニ馭ス

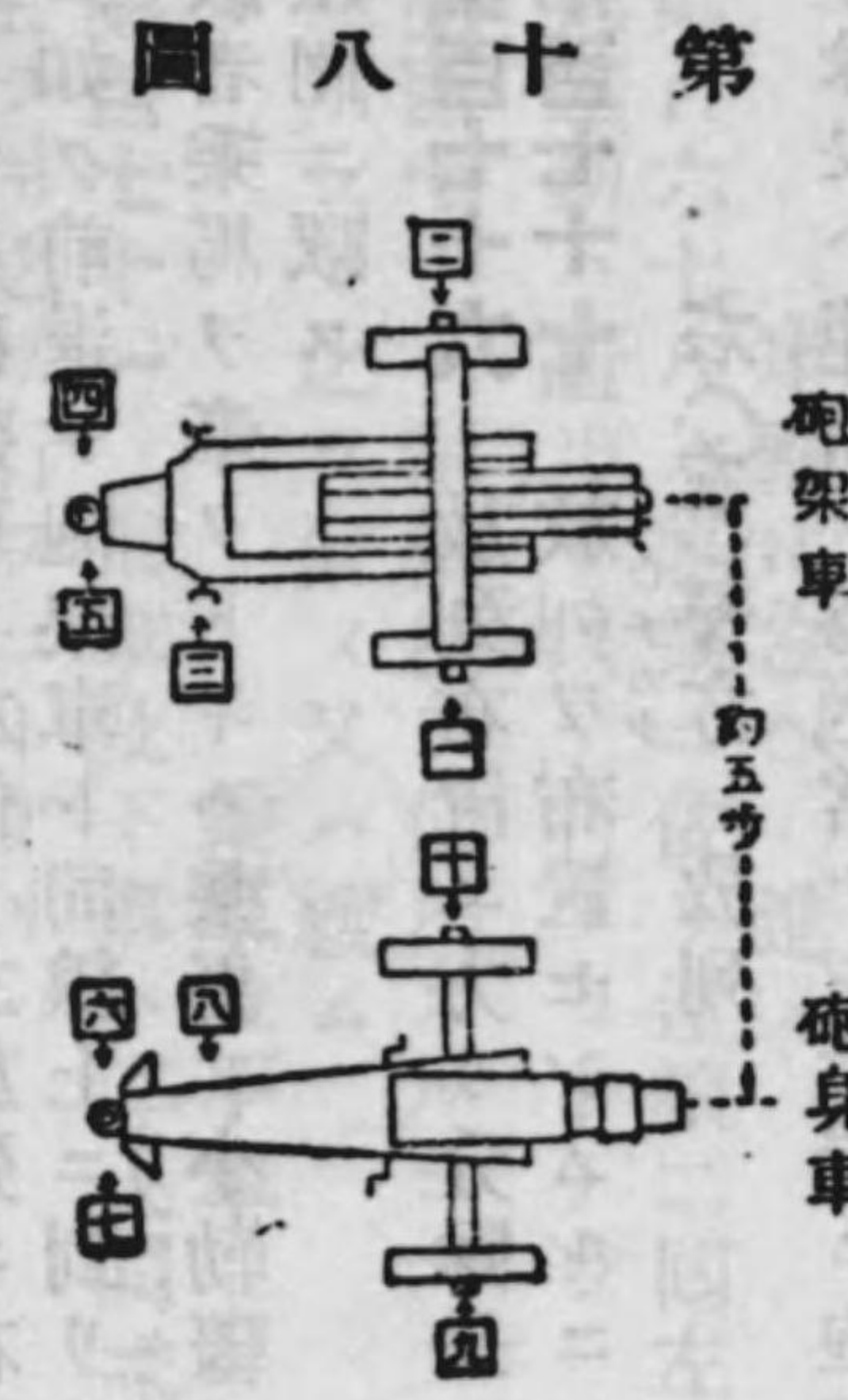
第百七十六 放列布置ニ方リ分隊長ハ適時藤褥及支楔ヲ車輪下ニ裝ス

右(左)擊方 放列

第百七十七 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊長ハ連結ノ爲適當ナル位置ニ砲架車ヲ止ラシメタル後大勒繩ヲ前橋ニ掛ケ小勒繩ヲ前馬馭者ニ授ケテ下馬ス
砲手乗車シアルトキハ下車ス

後車回轉

右放列後車回轉ニ於ケル砲手ノ位置第十八圖ノ如シ

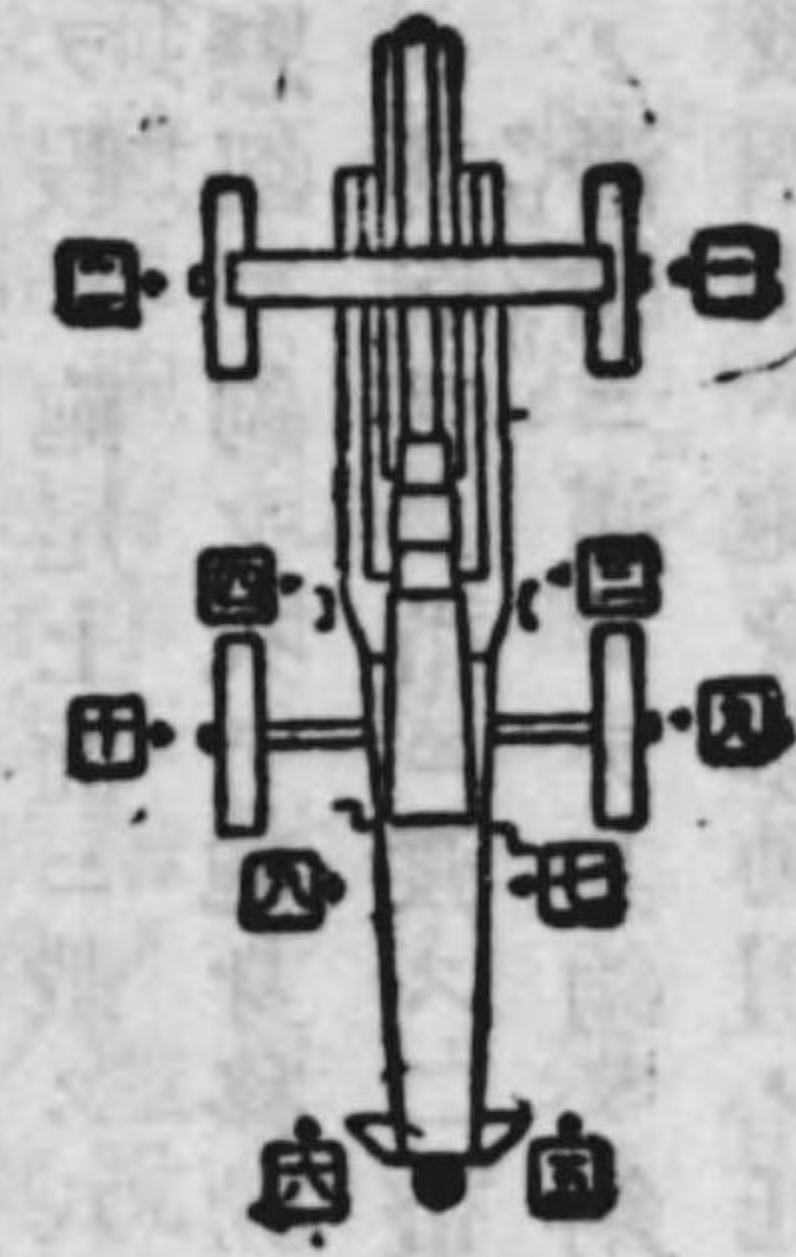


十番ハ砲身車架頭ノ蓋板ヲ開ク
後馬馭者ハ提轆革ノ提把ヲ執リ轆桿
ヲ上ケ四番又ハ六番「宜シ」ト唱フレ
ハ之ヲ放ツ
砲手ハ後車回轉ノ位置ニ就キ四番及
八番ハ鋼鈕栓ノ轉把ヲ廻ハシ各砲手
協力シテ架尾銀ヲ鋼鈕ヨリ脱シタル

後鋼鈕栓ヲ舊ニ復シ「宜シ」ト唱フ
分隊長ハ前車ヨリ所要ノ材料ヲ卸下セシム
前車ハ砲身車、砲架車ノ順序ヲ以テ縱隊トナリ砲身車長ノ指揮ヲ以テ所命
ノ地點ニ到ル
各砲手ハ協力シテ兩砲架ノ縱軸線ヲ一致セシムル如ク各車ヲ左(右)ニ廻ハ
ス
連結
連結ニ於ケル砲手ノ位置第十九圖ノ如シ

圖八十第

圖九十第



砲手ハ連結ノ位置ニ就キ通常砲身車ヲ前進
セシメ砲架車ノ架尾ヲ砲身車架頭ノ方形匣
内ニ成ルヘク深ク嵌シタル後九番及十番
ハ駐軸板ヲ外側ニ解脱シ七番ハ緊址桿ヲ離
脱シ要スレハ反復之ヲ踏ミ著ク各砲手協力
シテ十分ニ架尾ヲ嵌ム此際三番ハ適時緊緩
桿ヲ緩メ四番ト共ニ連結機ノ轉把ヲ廻ハシテ連結鉤ヲ確實ニ其孔ニ鉤シ
緊緩桿ヲ緊メ「宜シ」ト唱フ
臂力ニ依ル連結困難ナルトキハ分隊長ハ適宜砲手ノ位置ヲ變更シ砲身移動
機ヲ使用セシム之方爲四番ハ砲身移動機ノ鋼索ヲ執リ其端末ヲ砲架車左側
板上面ノ鉤ニ掛ケ八番及九番ハ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ兩車ヲ近ツカ
シム
諸覆(蓋ヲ含ム)ノ除去並拭淨、塗油
一 番ハ搖架上板覆ノ後端並高低照準機覆ヲ脱シ高低照準機覆ヲ二番ニ渡
シ二番ハ前方準梁覆、砲口蓋及方向照準機覆ヲ脱シ一 番ヨリ受取りタ
ル高低照準機覆ト共ニ假ニ之ヲ車軸上ニ置ク
五番ハ砲架匣ヨリ雜巾ヲ出シ之ヲ九番ニ渡シ接續螺牝螺ヲ左ニ廻ハシ砲身

ト砲尾托板トノ連結ヲ解キ接續螺牝螺ノ内面ヲ拭淨ス
 七番ハ八番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ之ヲ假ニ砲架上ニ置ク
 九番ハ五番ヨリ雜巾ヲ受取り之ヲ三番及四番ニ渡シタル後搖架上板覆ヲ脱
 シ之ヲ假ニ防楯ニ掛ケ接續螺、搖架上板ノ準溝及上面ヲ拭淨ス
 三番及四番ハ砲身移動用ノ托梁ヲ脱シ托梁及前方準梁ヲ拭淨ス
 六番ハ砲架匣ヨリ油罐ヲ出シ接續螺牝螺ノ内面ニ塗油シタル後之ヲ十番ニ
 渡ス
 十番ハ砲身移動用ノ托梁、搖架上板ノ準溝及上面竝接續螺ニ塗油シタル後
 油罐ヲ砲架匣ニ收ム
 拭淨、塗油ハ放列布置ニ先タチ豫メ之ヲ行フヲ可トスルコトアリ
 砲身移動準備
 六番ハ砲架匣ヨリ補助鋼索及接續螺牝螺輪ヲ出シ補助鋼索ヲ八番ニ渡シ
 螺輪ヲ假ニ砲尾上面ニ載ス八番ハ補助鋼索ヲ二番ニ渡シ其一端ヲ砲尾左側
 面ノ懸鈕ニ鈎シ次テ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ鋼索ヲ緩ム四番ハ鋼索ヲ
 伸ハシ其端ヲ二番ニ渡ス二番ハ補助鋼索ヲ八番ヨリ受取り之ヲ左方砲耳蓋
 板上ノ滑輪ニ通シテ其鈎ヲ鋼索ニ鈎ス
 三番及四番ハ砲身移動用ノ托梁ヲ後端ヨリ始メテ砲身托板及搖架ニ架ス一

番ハ搖架ノ傾斜ヲ規正シ「宜シ」ト唱フ
 五番ハ照準棍ヲ脱シ之ヲ架尾ニ裝シ六番ト協力シテ駐鋤ヲ下ロス之カ爲六
 番ハ右手ニ駐鋤ノ轉把ヲ、五番ハ左手ニ駐鋤ヲ執リ各、他手ニテ駐栓ヲ廻
 ハシテ之ヲ其孔ヨリ脱シ駐鋤ヲ下ロシ駐栓ヲ廻ハシテ其孔ニ嵌ム
 砲身ノ前進及砲身車輪ノ離脱
 七番及八番ハ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ徐ロニ砲身ヲ前進セシム一
 至四番ハ其前進ヲ助ケ砲身全ク搖架上板上ノ定位置ニ達スルヤ二番ハ砲尾
 上面ニ載セアル螺輪ヲ取り接續螺牝螺ヲ右ニ廻ハノテ連結臂ト活塞桿トヲ
 連結シ螺輪ヲ假ニ砲架上ニ置ク
 一、二番及三番ハ砲架車輪ヲ持チ三番乃至六番及八番ハ協力シテ架尾ヲ上ケ
 七番ハ緊扯桿ヲ執リ九番ハ防楯ノ前方ニ於テ砲身ノ前進ヲ助ケタル後十番
 ト共ニ砲身車輪ヲ執リ之ヲ砲架ヨリ離脱シテ左側ニ引キ出シ放列ノ定位
 ニ置ク
 分隊長ハ要スレハ砲車ノ位置ヲ正ス
 砲側ノ整備
 一番ハ要スレハ砲身ニ若干ノ射角ヲ附與シ砲身移動用ノ托梁ノ離脱ヲ容易
 ナラシメ防楯ノ右方翼板ヲ開キ圓匙及十字鉞ヲ防楯ヨリ脱シテ傍ニ置キ搖
 架上板覆ヲ取り之ヲ五番ニ渡シ五番ヨリ擴大鏡ヲ受取り之ヲ裝シ距離板

ノ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導ク
 三番及四番ハ砲身移動用ノ托架ヲ脱シテ之ヲ舊位ニ復シ槓桿ヲ離脱シテ其
 場ニ置キ四番ハ架頭ノ蓋板ヲ其駐鉤ニ鉤ス
 二番ハ八番ト協力シテ補助鋼索ヲ脱シ之ヲ卷キテ假ニ砲架上ニ置キ防楯ノ
 左方翼板ヲ開キ圓匙ヲ防楯ヨリ脱シ傍ニ置ク
 八番ハ鋼索ヲ緩メ其端末ヲ前砲架左側板上面ノ鉤ニ鉤シ補助鋼索及螺輪ヲ
 假ニ砲架上ニ置キ信管廻、裝彈手套、藥筒櫃、布片及雜巾ヲ出シテ之ヲ彈
 藥置場ニ置ク
 五番ハ砲架匣ヨリ擴大鏡ヲ出シ之ヲ一番ニ渡シ一番ヨリ搖架上板覆ヲ受取
 ル
 六番ハ五番ト共ニ搖架上板覆ヲ以テ砲身托板ヲ覆ヒ槓桿、圓匙及十字鉄ヲ
 架尾ノ傍ニ置キタル後補助鋼索、接續螺化螺輪ヲ砲架匣ニ收ム
 三番ハ裝彈板ヲ前砲架ノ砲架匣ヨリ出シテ砲身托板上ニ置キ安全機ヲ發火
 ノ位置ニ爲シ拉繩ヲ閉鎖機ノ握把ニ掛ク
 七番ハ砲口蓋、前方準梁覆、高低照準機覆、方向照準機覆ヲ二番ヨリ受取
 リ砲尾蓋ニ包ミ之ヲ彈藥置場ニ置ク
 七番及八番ハ裝彈手套ヲ、九番及十番ハ藥筒櫃ヲ携フ
 分隊長ハ適時砲手ヲシテ各部ヲ檢シ要部ニ給油シ補助防楯ヲ砲身車ノ車輪
 ニ著ケシム

接續

第百七十八 接續ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 前車掛ケ

砲身車長ハ砲身車、砲架車ノ順序ヲ以テ前車ヲ放列ノ左(右)ヨリ導ク
 前馬馱者ハ先ツ概ネ後車ノ車輪ト架尾鐵トヲ連ヌル線ニ沿ヒテ前進シ次ヲ前
 車ヲ後車ノ軸線方向ニ導キ得ル如ク進ミ後馬馱者ハ鋼鈕ヲ架尾鐵ニ對シテ止
 メ得ル如ク「宜シ」ト唱へ各馱者ハ停止ス
 砲手ハ第百七十七ト概ネ反對ノ操作ヲ爲シテ連結ヲ解キ砲身車ヲ約五步後退
 セシメタル後砲架車及砲身車ノ架尾ヲ約四十五度右(左)へ向ケ地上ニ置キ下
 車ノ定位ニ就ク
 前車來ルヤ砲手ハ後車回轉ノ位置ニ就キ協力シテ前車ヲ接續シ四番及六番ハ
 「宜シ」ト唱へ馱者ハ馬ノ位置ヲ正シ輕ク鞍索ヲ張ル
 接續終ルヤ砲手ハ下車ノ定位ニ就ク
 分隊長ハ乘馬ス

分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル

第百七十九 兩砲架連結ノ儘放列布置及撤去ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ
 之ニ繫駕スルニ通常鞍馬四駢ヲ以テシ第百七十七及第百七十八ニ準シテ操作
 ス

第百八十 彈藥車ノ運動ハ概ネ分隊ノ運動ニ準ス

第百八十一 射擊ノ號令ハ左記事項中所要ノモノヲ概ネ列記ノ順序ニ令スル

射擊號令

モノトス
照準點ノ方向及照準點
方向角又ハ方向修正量
彈種
信管ノ種類又ハ裝置、信管修正量
裝藥號
裝填法
高低角又ハ高低修正量
高低射界
射距離又ハ射距離變換量
散布ノ方法
發射速度
發射法
高低射界ニ關スル號令ナキトキハ低射界トス
射擊スヘキ目標ハ適宜ノ時機ニ之ヲ指示ス
分隊長以下ハ新ナル號令アルトキハ直ニ之ニ依リ操作ス
砲手ハ射擊諸元ノ號令アル毎ニ之ヲ裝定又ハ修正シタル後其結果ヲ分隊長ニ
報告ス而シテ此報告及操作間ニ用フル呼號ハ關係者ノ了解シ得ルヲ度トシ明
確ニ發唱スルモノトス

第百八十二 照準成ルヤ一番及二番ハ「宜シ」ト唱フ

射擊用意

第百八十三

射擊用意及解除

射擊用意ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

一番ハ砲架車ノ前車ヨリ觀準儀ヲ出シ之ヲ二番ニ渡ス
二番ハ方向照準機覆ヲ脱シ觀準儀ヲ其室ニ裝シ諸分畫ヲ定位〔諸分畫ヲ零位
但分畫銀分畫ハ前視零位(鏡頭ヲ前方ニセルトキノ零位)〕ニ、觀準儀托坐
分畫板ノ指針ヲ定位(裝藥二號ノ零位)ニシテ方向照準機覆ヲ裝ス
六番ハ七番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ後砲架匣ヨリ拉繩ヲ出シ其締鐵ヲ引鐵ノ
鐵ニ鈎シ之ヲ閉鎖機ノ握把ニ纏ヒ砲尾蓋ヲ裝ス

用意解ケ

第百八十四

用意解ケ

裝填及照準

射擊用意ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

裝填照準

第百八十五

裝填及照準ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

ハ通常分隊長ハ他ニ適當ナル地物ヲ選ビ標定點ト爲シ之ヲ二番ニ指示ス二番ハ射向ヲ換フルコトナク分畫鏡ヲ廻ハシテ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ標定點ニ一致セシメ標定點及方向角ヲ分隊長ニ報告ス

標定點ハ發見及照準容易ニシテ埋滅變位ノ虞ナク其位置ハ成ルヘク遠ク且後方ナルヲ可トス

標定點トシテ適當ナル地物ナキトキハ標桿ヲ立ツ

夜間ニ在リテハ標定點トシテ通常携帶燈ヲ設置ス

分畫鏡ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫子ノ翼ヲ略々垂直ニ起シ右手ヲ以テ觀準儀頭部ノ兩側ヲ握ミ眼鏡ノ向ヲ照準點ノ方向ニ廻ハシテ所命ノ分畫鏡分畫ヲ齒輪室上部ノ指標ニ一致セシメ翼ヲ靜ニ復シタル後右手ヲ以テ轉輪ヲ右ニ廻ハシテ所命ノ分畫筒分畫ヲ回轉螺室ノ指標ニ一致セシム

分畫鏡ヲ修正スルニハ現ニ齒輪室上部及回轉螺室ノ指標ニ對スル刻線ヨリ起リ所命ノ數ヲ右(左)ニシテ分畫筒分畫ノ刻線ヲ指標ニ一致セシム而シテ分畫鏡分畫ヲ右(左)ニスルニハ其分畫ヲ指標ニ對シ右(左)ニ移シ分畫筒分畫ヲ右(左)ニスルニハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハス但轉輪ハ常ニ右ニ廻ハシテ止ムル如クスルヲ要ス

照準點ト共ニ方向修正量ヲ號令セラレタルトキハ照準點ノ方向後(前)方ナルニ從ヒ後(前)視零ヨリ修正ス

橫表尺ヲ裝定スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシ所命ノ分畫右(左)ナルトキ

ノ號令

分隊長ノ動作

照準點及方向角ノ號令

照準點後方一本杉ノ頂上
方向三百五十或ハ五十左へ

榴彈(榴霰彈)
瞬發信管或ハ短延期信管(著發信管或ハ曳火信管、信管百伸ハセ又ハ曳火信管、信管修正千三百)

裝藥三號

三發或ハ續イテ込メ

高低十二度六

四千或ハ高射界四千

散布ニ在リテハ裝填ノ爲一距離ノ彈數ヲ號令ス

第百八十六 分隊長ハ第百八十五ノ號令ニ基キ砲手ノ操作特ニ照準具及信管廻ノ裝定又ハ修正、照準、彈藥及信管ノ準備ヲ監視ス又方向固有修正量及高低固有修正量ヲ自ら修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス

第百八十七 照準點及方向角ノ號令ニテ二番ハ分畫鏡上ニ方向角ヲ裝定或ハ修正シ橫表尺上ニ方向固有修正量ヲ裝定シ四番乃至六番要スレハ一番及三番ト共ニ方向照準ヲ爲シ裝藥號、高低射界及射距離ノ號令ニテ觀準儀托坐分畫板ヲ裝定シタル後方向照準ヲ完了ス

四番ハ架尾ノ移動終ルヤ制轉機ヲ緊ム

方向照準ヲ爲スニ方リ照準點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキ

令 彈種ノ號

ハ眼鏡托坐下端ノ指標ヲ右(左)方分畫上所命ノ分畫ニ一致セシム
 横表尺ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ修正量ニ應シ指標ヲ右(左)ニ動
 カス
 觀準儀托坐分畫板ヲ裝定スルニハ指針托架ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ所命ノ
 裝藥號ニ置キ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ所命ノ高低射界ニ應スル射
 距離ニ一致セシム
 方向照準ヲ爲スニハ五番及六番ハ照準棍或ハ楨桿ヲ執リ架尾ヲ左右シテ砲
 口ヲ略々所望ノ方向ニ向ハシム此際要スレハ一番、三番及四番ハ之ヲ助ク
 四番ハ車輪ノ外側ヨリ右手ヲ以テ橫誘導螺桿ノ轉輪ヲ、左手ヲ以テ縱誘導
 螺桿ノ轉輪ヲ握リ觀準儀後方氣泡管ノ氣泡右(左)ニ偏スルトキハ橫誘導螺
 桿ノ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシ觀準儀左方氣泡管ノ氣泡前(後)方ニ偏スルトキ
 ハ縱誘導螺桿ノ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略々中央ニ導キ
 二番ハ要スレハ俯仰裝置ノ轉輪ヲ使用シ鏡頭ヲ俯仰シ眼鏡ヨリ約一指
 幅ヲ隔テテ狙ヒ手若ハ聲ニテ合圖ヲ爲シ五番及六番ヲシテ架尾ヲ左右セシ
 メ眼鏡内十字ノ交點又ハ縱線ヲ略々照準點ニ導キ次テ方向照準機ノ轉輪
 ヲ廻ハシ要スレハ俯仰裝置ヲ使用シテ眼鏡内十字ノ交點又ハ縱線ヲ照準
 點ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ以テ窓板若ハ照窓ヲ照準
 脚ヲ保持シ七番及八番ハ所命ノ彈丸ヲ準備ス
 信管ノ號令ニテ七番及八番ハ榴彈等ニ在リテハ瞬發信管若ハ短延期信管ヲ裝

著シ榴發彈ニ在リテハ信管ノ錫帽ト共ニ安全割栓ヲ脱シ著發信管ノトキハ安
 全ノ位置ヲ檢シ曳火信管ノトキハ爾後信管修正量、裝藥號、高低射界及射距
 離ノ號令ニ應シ信管廻ノ裝定及修正ヲ行ヒ信管ヲ測合ス
 裝藥號ノ號令ニテ九番及十番ハ裝藥ヲ編合シ藥莢蓋ヲ以テ之ヲ壓定ス
 裝填法ノ號令ニテ七番若ハ八番ハ彈丸ヲ、九番若ハ十番ハ藥筒ヲ裝填ス三番
 ハ七番若ハ八番彈丸ヲ裝填スルヤ裝填板ヲ舊位ニ復シ九番若ハ十番藥筒ヲ裝
 填スルヤ閉鎖機ヲ閉ツテ而シテ彈數ヲ指定シ例ヘハ「三發」ト號令セラレタルト
 キハ七番及八番ハ彈丸ヲ、九番及十番ハ藥筒ヲ所命ノ數ニ至ルマテ逐次裝填
 ス但七番若ハ八番ハ彈丸ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱フ又一「續イテ込
 メ」ノ號令アリタルトキハ連續裝填ス
 閉鎖機ヲ開クニハ右手ノ指ヲ以テ駐爪軸ノ翼ヲ後方ニ引ク
 閉鎖機ヲ閉ツルニハ右手ヲ以テ握把ヲ握リ之ヲ下方ニ引キテ激突セシメサ
 ル如ク駐爪ヲ握把ノ駐鉤ニ鉤ス
 裝彈板ヲ裝スルニハ右手ヲ以テ前方突筈附近ヲ、左手ヲ以テ後方支脚ヲ保
 持シ砲尾ニ近ツケツツ之ヲ蹴シ表ヲ上ニシ注目シツ閉鎖機室ニ嵌裝ス
 裝彈板ヲ舊位ニ復スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス
 瞬發(短延期)信管ヲ裝著スルニハ彈口栓ノ麻綱ヲ引キテ之ヲ脱シ信管ヲ啄
 螺ノ上ニ載セ少シク右ニ廻ハシ微音ニ依リ其吻合ヲ檢シタル後信管ヲ左ニ

廻ハシテ十分緊ム
 信管ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス
 信管廻ヲ裝定スルニハ先ツ挿板ノ遊標發條ヲ壓シ挿板ノ指針ヲ所命ノ裝藥
 號ニ合ハセタル後挿板ヲ緩メ挿板ノ指針ヲ所命ノ距離刻線ニ一致セシメ
 挿板螺ヲ緊ム
 信管廻ヲ修正スルニハ壓螺ヲ緩メ體ノ指標ニ對シ修正分畫ヲ所命ノ量タケ
 移動シ刻線ヲ一致セシムルカ或ハ指標ニ所命ノ修正分畫刻線ヲ一致セシメ
 タル後壓螺ヲ緊ム而シテ縮ムル場合ニハ修正分畫數ヲ減少スル如ク又伸ハ
 ス場合ニハ之ニ反スル如ク操作ス
 信管ヲ測合スルニハ左手ニテ彈丸ヲ支ヘ右手ニ信管廻ノ握把ヲ執リ其準溝
 ヲ藥盤廻ニ嵌入シタル後右ニ廻ハシテ挿板ヲ駐釘ニ合セシム
 廻子ヲ以テ信管ヲ零距離ニ測合スルニハ之ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大
 藥盤ヲ右ニ廻ハシテ其圓孔ヲ駐釘ニ向ハシム
 彈丸ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒテ砲尾ニ運ヒ三番裝彈板ヲ裝スルヤ其上ニ載
 セ駐爪ニ鈎スルマテ彈底ヲ押シ右拳ヲ彈底ニ當テ一擧ニ力ヲ加ヘ彈丸ヲ彈
 室ニ撞キ入ル
 藥筒ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒ右手ニ藥筒擲ヲ執リ之ヲ藥筒ノ起緣部ニ鈎シ
 左手ト共ニ藥筒ヲ保持シテ砲尾ニ近ツキ三番裝彈板ヲ脱スルヤ藥筒ヲ藥室
 内ニ押シ込ム

裝藥號、
 高低角、
 射界、
 射距離、
 離ノ號令

第九十八 裝藥號、高低角、高低射界及射距離ノ號令ニテ一番ハ規正裝置
 上ニ高低角ヲ裝定シ之ニ高低固有修正量ヲ修正シタル後距離板ヲ以テ高低照
 準ヲ爲ス
 規正裝置ヲ裝定スルニハ指針ノ誘導螺桿ノ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシ最後ニ
 之ヲ右ニ廻ハシテ止メ準板ノ指標ヲ分畫板上所命ノ度數ニ一致セシム
 規正裝置ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ分畫ノ所命量ヲ増減スル如ク
 準板ノ指標ヲ動かス
 高低照準ヲ爲スニハ先ツ眼ヲ距離板ノ氣泡管ノ直上ニシ左手ヲ以テ距離板
 托架ノ轉輪ヲ握リ距離板ノ氣泡管ノ氣泡前(後)方ニ偏スルトキハ距離板托
 架ノ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシテ氣泡管ノ氣泡管ノ中央ニ導キタル後右手ヲ以テ
 指針室ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ進退シ所命ノ裝藥號ニ應スル位置ヲ占メシ
 メ次テ高低照準機ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ノ指針ノ距離板上所命ノ裝藥號
 及高低射界ニ應スル射距離ノ附近ニ導キ眼ヲ正對シテ指針ヲ正シク所命ノ
 距離刻線ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ用ヒ氣泡管ノ下方ニ其
 距離刻線ノ反射セシムルカ若ハ直接氣泡管ノ下方ヲ照ス
 距離板ノ氣泡管ノ氣泡管ノ中央ニ導クニ方リ距離板ノ移動量大ナルトキ
 ハ先ツ左手ヲ以テ解脫鏡ノ翼ヲ前方ニ壓シテ約九十度之ヲ廻ハシ次テ左手
 ヲ以テ距離板ノ上端ヲ、右手ヲ以テ其下端ヲ握リ距離板上ケ若ハ下ケ左
 手ヲ以テ解脫鏡ノ翼ヲ後方ニ引キテ徐口ニ舊位ニ復シ蝸狀螺ヲ啞合セシメ

秒數指定
發射
中三五

タル後距離板托架ノ轉輪ヲ使用ス

第三百九十 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

三十秒 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ「擊テ」ト號令シ爾後所命ノ秒數ヲ間シ發射ヲ號令

分隊長ハ發射ニ際シ後復坐ノ景況ニ注意シ要スレハ三番ヲシテ後坐量ヲ測定

セシム

三番ハ分隊長ノ號令ニテ拉繩ヲ引キテ發射シ復坐終ルヤ拉繩ヲ閉鎖機ノ握把

ニ輕ク掛ケ閉鎖機ヲ開キ裝彈板ヲ裝シタル後要スレハ腔内ヲ檢査ス又分隊長

ノ命令ニ從ヒ後坐量ヲ測定ス

一番ハ復坐終ルヤ照準具ヲ點檢シ照準ヲ爲ス但射角大ナルトキハ發射後射角

ヲ約二十度ト爲ス二番ハ三番閉鎖機ヲ開クヤ藥莢ヲ抽出シタル後照準具ヲ點

檢シ照準ヲ爲ス

七番乃至十番ハ所命ノ如ク彈丸、信管及裝藥ヲ準備シ且所命ノ裝填法ニ從ヒ

裝填ス九番若ハ十番ハ藥莢ヲ指定セラレタル位置ニ置ク

發射ニ際シ砲車靜定セサル虞アルコトヲ認ムルトキハ分隊長ハ豫メ「外ヘ」ト

命シ砲手ヲシテ一時車輪外ニ出テシム又發射アリタルトキハ分隊長ハ約二秒

ヲ間シ數回「擊テ」ト號令シ尙發火セサルトキハ約十五秒ノ後閉鎖機ヲ開カシ

ム

連續各個
發射
中三五

指令發射
中三四

發射速度
變換

擊拂

後坐量ヲ測定スルニハ發射ニ先タチ遊標ヲ前方ニ進出セシメ發射後遊標ニ

一致スル分畫ヲ讀ム

後坐量ノ限界ハ低射界射擊ニ在リテハ千三百十耗、高射界射擊ニ在リテハ

九百六十耗トス

第三百九十一 連續發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

連續 各個ニ擊テ

第三百九十二 從ヒ操作シ分隊長ハ準備成ル毎ニ直ニ發射ヲ號令ス

第三百九十二 每發所望ノ時機ニ發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

指令 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ發射ヲ號令ス爾後「次キ」ノ號令若ハ記號ニ依リ直ニ

發射ヲ號令スルカ又ハ「何秒(連續)何回次キ」ノ號令ニ依リ第三百九十(第三百九

十一)ニ從ヒ所命ノ回数ニ應スル彈數ヲ發射セシム

第三百九十三 所命ノ彈數ヲ發射中發射速度ヲ換ヘシムルニハ單ニ發射速度ノ

ミヲ號令ス

一發裝填ノ場合(散布ヲ除ク)ニハ發射速度ヲ號令スルコトナシ

第三百九十四 裝填シアル彈藥ヲ擊拂ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

急キ擊テ

第三百九十二 準シテ操作シ爾後裝填法ノ號令アルマテ彈藥ヲ裝填スルコトナシ

諸元ノ變更

射向變換

第百九十五

射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

二番ハ分畫鏡ヲ修正シタル後方向照準ヲ爲ス
架尾ノ移動ヲ要スルトキハ四番ハ制動機ヲ緩メ五番及六番ハ照準棍或ハ槓桿
ヲ執リ架尾ヲ左右ス一、三番及四番ハ要スレハ之ヲ助ク架尾ノ移動ヲ終ル
ヤ四番ハ制轉機ヲ緊メ要スレハ觀準儀後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略中
央ニ導ク

既ニ射角ヲ附與シアルトキハ一番ハ高低照準ヲ爲ス
射向變換ニ方リ照準點若ハ既ニ採用セル標定點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スル
ヲ不便トスルトキハ第百八十七ニ從ヒ新ニ標定點ヲ選定ス

第百九十六 彈種並信管ノ種類若ハ裝置ヲ換ヘシムルニハ第百八十五、第百
八十六及第百八十八ニ從フ但榴霰彈著發信管ヨリ曳火信管ニ移ル場合ニハ一
番ハ現在ノ裝藥號及射距離ヲ七番及八番ニ通報ス

第百九十七 信管修正分畫ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
信管百縮メ(伸ハセ)

或ハ 信管修正千百

裝藥號變

七番及八番ハ信管廻ヲ修正シ信管ヲ測合ス
第百九十八 裝藥號ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
裝藥四號

高低角變

更 高低角變
第百九十九 高低角ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
高低十度二ツ
或ハ

高低射界

更 高低射界
第一 高低四度増セ(減ケ)
第二 高低射界ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
高(低)射界

射距離變

更 射距離變
第一 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五千二百
或ハ 二百増セ(減ケ)

或ハ 二百増セ(減ケ)

一番ハ指針室ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ所命ノ裝藥號ニ應スル位置ニ移シ高低
照準ヲ爲シ二番ハ觀準儀托坐分畫板ヲ改裝シ方向照準ヲ爲ス
七番及八番ハ榴霰彈曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ改裝シテ信管ヲ測合シ九番
及十番ハ裝藥ヲ編合ス
既ニ藥筒ヲ裝填シアルトキハ分隊長ハ「藥筒出セ」ト號令シ藥筒ヲ出サシム此
際射角大ナルトキハ一番ハ射角ヲ約二十度ト爲ス
第百九十九 高低角ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
高低十度二ツ
或ハ

第一 規正裝置上ニ高低角ヲ裝定或ハ修正シタル後高低照準ヲ爲ス
第二 高低射界ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
高(低)射界
一番ハ距離板ヲ改裝シ高低照準ヲ爲ス二番ハ觀準儀托坐分畫板ヲ改裝シタル
後方向照準ヲ爲ス
七番及八番ハ榴霰彈曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ改裝シ信管ヲ測合ス
第二 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五千二百
或ハ 二百増セ(減ケ)

散布

一番ハ距離板ヲ改装シ高低照準ヲ爲ス二番ハ觀準儀托坐分畫板ヲ改装シタル後方向照準ヲ爲ス
七番及八番ハ榴霰彈曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ改装シ信管ヲ測合ス
觀準儀托坐分畫板ヲ修正スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシ射距離ヲ讀ミツツ指針ヲ所命ノ射距離ニ一致セシム

散布

第二百二 近(遠)方位ヨリ逐次數距離上ニ各距離毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ射距離又ハ其増(減)量ト共ニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス但現在裝定セル射距離ヨリ發射セシムル場合ニハ射距離ノ號令ヲ省略スルコトヲ得

遠(近)ノ百 三距離

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ所命ノ射距離若ハ現在ノ射距離ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ所命ノ量ヲ増(減)シタル射距離若ハ所命ノ射距離増(減)量並彈數ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

諸元ノ保留及使用

諸元保留

第二百三 射擊諸元ヲ保留セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五十一砲兵諸元書ケ

或ハ

標點方向書ケ

諸元使用

或ハ

標點方向取レ

分隊長ハ現在ノ射擊諸元即チ照準點若ハ標定點、方向角、彈種、信管ノ種類若ハ裝置、信管修正量、裝藥號、高低角、高低射界、射距離ヲ記載ス但標點方向ヲ書ケ場合ニ於テハ照準點若ハ標定點並方向角ノミヲ記載ス
第二百四 保留セル諸元ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五十一砲兵諸元取レ

射擊中止

第二百五 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

射擊再興

第二百六 射擊ヲ再興セシムルニハ射擊ニ關スル號令若ハ左ノ號令ヲ下ス

射擊止メ

第二百七 射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

射擊再興

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム

射擊止メ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ中止ス但三番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全機ヲ安全ノ位置ニ爲ス

射擊再興

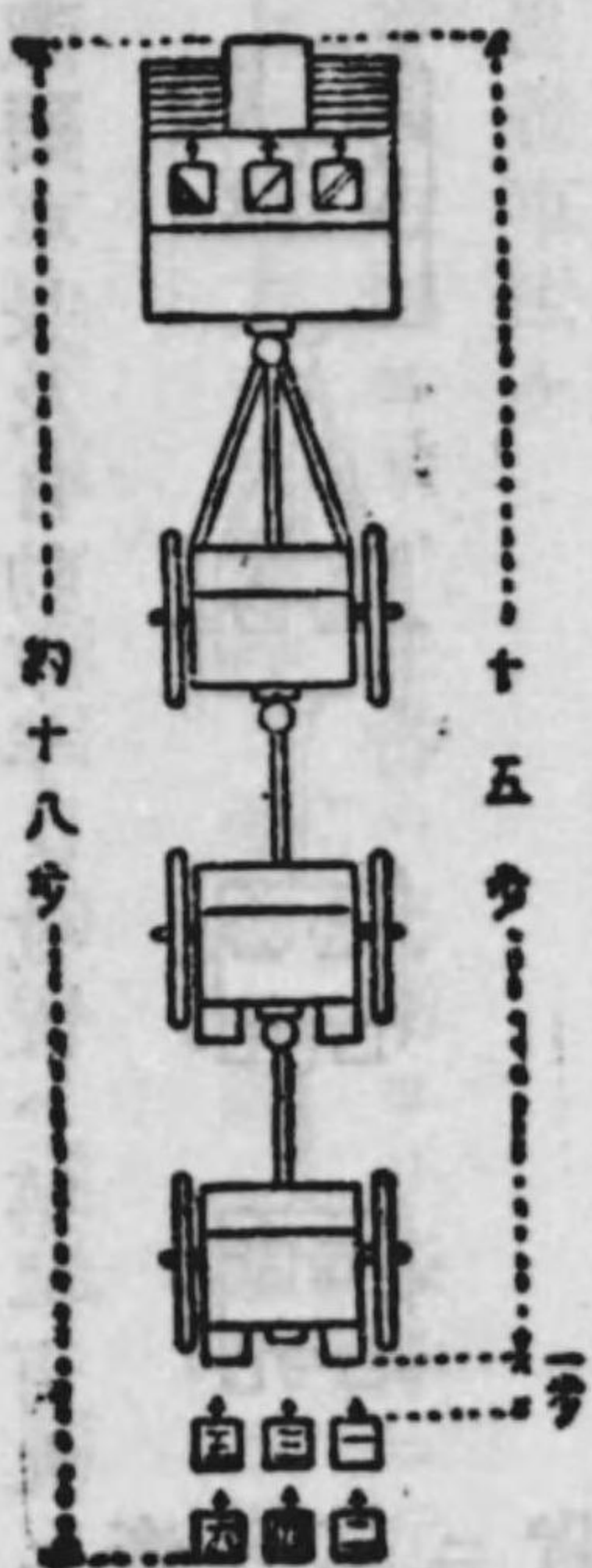
分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム

射擊止メ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム

位以彈
下藥
ノ車
定長

圖二十二第
車下



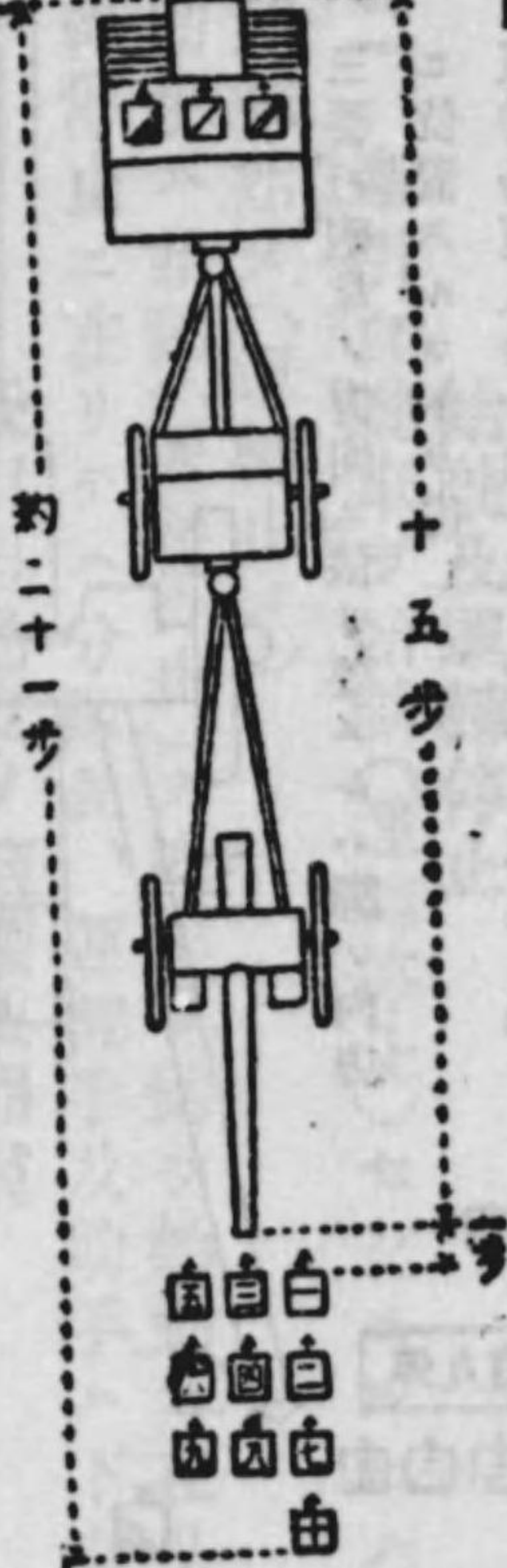
彈藥車長
約十八步

圖一十二第
車乘



乘車シ得サル砲手ハ指示セラレタル位置ニ到ル

圖十二第
車下



約二十一歩
分隊長
運轉手
助手
砲手

一步ニ位置ス

第二百十
牽引自動車
ヲ接続セル
場合ニ於ケ
ル彈藥車長
以下ノ定位
第二十二圖
ノ如シ但牽
引自動車ノ
運轉ヲ停止
シアルトキ

分隊長以
下定位

砲手番號

一番ハ射角ヲ約二十度ニ、指針ヲ裝藥四號ニ、規正裝置ヲ十度ニ復シ二番ハ砲架ヲ略、車軸ノ中央ニ復シ觀準儀ノ諸分畫竝觀準儀托坐分畫板ノ指針ヲ定位ニ復ス

三番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全機ヲ安全ノ位置ニ爲シ四番ハ觀準儀托坐ヲ舊位ニ復シ制轉機ヲ緩ム

七番及八番ハ信管修正分畫ヲ千二百ニ、挿板ノ指針ヲ裝藥二號ノ零位ニ復シ信管ニ安全割栓ヲ挿ス若信管ヲ測合シアルトキハ之ヲ安全ノ位置ニ復シ且安全割栓ヲ挿ス又榴彈等ニ信管ヲ裝著シアルトキハ之ヲ脱シ彈口栓ヲ裝ス

九番及十番ハ裝藥ノ編合ヲ換ヘアルトキハ之ヲ一號ニ復ス

信管ヲ安全ノ位置ニ復スルニハ廻子ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシテ其指標ヲ駐釘右側ニ一致セシム

第三節 十加

第一款 編成及分隊長(彈藥車長)以下ノ定位

第二百八 分隊長ノ砲手ニハ一番ヨリ十番ニ至ル番號ヲ附シ自動車手ニハ運轉手、助手ノ名稱ヲ附ス

彈藥車ノ砲手ニハ一番ヨリ六番ニ至ル番號ヲ附シ自動車手ノ名稱ハ前項ニ同シ

第二百九 牽引自動車ヲ接続セル場合ニ於ケル分隊長以下ノ定位第二十、第二十一圖ノ如シ但牽引自動車ノ運轉ヲ停止シアルトキハ分隊長ハ牽引自動車前部ノ左側ニ、運轉手ハ分隊長ノ右側ニ、助手ハ牽引自動車後部ノ左側

離脱
 上ノ操作ヲ助ケシム
 第二百十五 牽引自動車ヲ離脱セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 自動車脱セ
 第二百十四ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス
 砲廠去レ
 第二百十六 牽引自動車ヲ離脱シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)へ砲廠ヲ去レ
 牽引自動車ハ右(左)向ヲ爲シテ直進ス
 行進
 第二百十七 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米、速歩百四十五米ヲ基準トス
 以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得
 短距離ノ行進ニ在リテハ砲身ヲ射撃位置ニ在ラシムルコトヲ得
 第二百十八 常(速)歩ニテ直進行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 前(速)歩ニテ進メ
 正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル
 第二百十九 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 分隊ハ漸次ニ停止ス
 分隊 止レ

歩度變換
 第二百二十 歩度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 常(速)歩ニ進ム
 漸次ニ所命ノ歩度ニ移ル
 第二百二十一 常(速)歩行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 歩度ヲ伸ハセ
 或ハ
 歩度ヲ縮メ
 徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム
 正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 常(速)歩ニ進ム
 徐ロニ正規ノ速度ニ復ス
 第二百二十二 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)へ進メ
 運轉手ハ牽引自動車ヲシテ内方軌道ニ於テ約十歩ノ半徑ヲ以テ弧ヲ畫キ右(左)向ヲ爲シテ直進セシム
 第二百二十三 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 半輪ニ左へ進メ
 第二百二十四 要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス
 制轉機ヲ使用スルニハ下車ノ場合ハ五番、乗車ノ場合ハ四番

後向
右(左)向

歩度變換
歩度伸縮

乗車

下車

射撃位置

轉輪ヲ廻ハシテ之ヲ緊メ又ハ緩ム
 乗車及下車
 第二百二十五 乗車及下車ハ停止間ニ於テ行フモノトス要スレハ常歩行進間ニ於テモ之ヲ行フコトアリ
 第二百二十六 乗車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 乗車
 砲手ハ銃劍ヲ體ノ前方ニ致シ乗車ノ定位ニ就キ前車ニ乗レル砲手中外側ニ位置スル者ハ各々外方ノ手ニテ倚欄ヲ握リ各砲手ハ互ニ臂ヲ組ム又ニ番及四番ハ踏板ヲ踏ミ兩手ヲ以テ防楯ノ握把ヲ握リ勉メテ身體ヲ内方ニ倚トス
 第二百二十七 下車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 下車
 砲手ハ下車ノ定位ニ就キ銃劍ヲ舊ニ復ス
 射撃位置及途上位置
 第二百二十八 砲身ヲ射撃位置ニ移サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 射撃位置
 分隊長ハ下車ス
 五番ハ制轉機ヲ緊メタル後三番及四番ト協力シテ後方ノ砲身覆ヲ脱シ之ヲ前車上ニ置ク一箱ハ砲身退却具ヲ砲架匣ヨリ出シ砲身退却具托板ニ裝ス

途上位置

三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋及聯接桿、聯接牝螺ヲ脱シ聯接桿ヲ砲架匣内ニ入レ砲尾蓋及聯接牝螺ヲ砲架匣上ニ置ク
 二番ハ前方ノ砲身覆ヲ除キ之ヲ前車上ニ掛ケ搖架準梁ヲ拭淨、塗油ス
 四番ハ後方防楯板ヲ拭淨ス
 分隊長ハ砲身移動準備成ルヤ「始メ」ト唱フ
 一箱ハ退却具槓桿ヲ使用シテ砲身ヲ前進セシム二番乃至四番要スレハ五番ハ砲身ヲ押シ之ヲ補助ス砲身射撃位置ニ達スルヤ三番ハ聯接牝螺ヲ裝シ「宜シ」ト唱フ
 一箱ハ砲身退却具ヲ脱シ之ヲ砲架匣内ニ收メ蓋板ヲ裝ス三番ハ砲尾托架ヲ脱シ二番ハ之ヲ槓桿ニ裝シ一箱及二番ハ砲身覆ヲ前車ニ縛著ス三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ裝シ五番ハ制轉機ヲ緩ム
 第二百二十九 砲身ヲ途上位置ニ移サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 途上位置
 分隊長ハ下車ス
 砲手ハ第二百二十八ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス但ニ番ハ搖架後方ノ準梁ヲ拭淨、塗油シ一箱ハ退却具槓桿ヲ以テ砲身ヲ前方ニ押シ二番、四番及五番ハ砲尾ヲ支持ス三番ハ聯接牝螺ヲ脱シ砲尾ヲ支持シ一箱ハ三番聯接牝螺ヲ脱スルヤ砲身退却具ヲ脱シ「宜シ」ト唱フ二番乃至五番ハ砲身ノ急激ナル後退ヲ制シ

準備

放列布置

砲尾托架ニ連結臂ノ激突スルヲ防ク

放列布置及撤去

第二百三十 放列布置ハ豫メ射撃用意ヲ爲サシメタル後之ヲ行フ

第二百三十一 前車ノ運轉ハ特ニ指示ナキトキハ放列布置ノ場合ニ於テハ其

際採リアル歩度、撤去ノ場合ニ於テハ速歩ヲ以テ行フ

行進間放列布置ノ號令アルトキハ分隊長ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止ス

第二百三十二 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)撃方 放列

分隊長ハ下車シ砲口ヲ敵ニ對セシムル如ク分隊ヲシテ左(右)向ヲ爲サシメ其
占ムヘキ位置ノ稍、手前ニ導キテ停止セシム
砲手乗車シアルトキハ下車ス
九番及十番ハ前車ヨリ篠褥ヲ卸シ分隊長ハ之ヲ車輪位置ニ置カシメ砲車ヲ其
占ムヘキ位置ニ導ク
一番、三番、五番及七番ハ左側ヨリ、二番、四番、六番及八番ハ右側ヨリ架
尾ニ近シキ八番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ一番乃至七番ト共ニ兩脚及其提把ヲ執リ協力
シテ架尾ヲ鋼鈕ヨリ脱シ地上ニ置キ八番ハ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜シ」ト唱へ前車ハ
數歩前進シテ停止ス九番ハ十番ノ助ヲ以テ前車ヨリ所要ノ器具ヲ卸シ「宜シ」
ト唱へ前車ハ指示セラレタル位置ニ到ル

四番ハ五番ノ助ヲ以テ砲架匣ヲ脱シ彈丸置場ニ置ク

三番ハ一番ノ助ヲ以テ搖架尾托架ヲ脱シ二番ハ之ヲ駐桿ニ裝ス

七番ハ連結板駐桿ヲ引キテ吻合ヲ脱シ連結板ヲ其軸周ニ旋回シ三番、五番及

七番ハ右方ヨリ、四番、六番及八番ハ左方ヨリ各、協力シテ架尾ヲ上ケ十分ニ

兩脚ヲ開ク七番及八番ハ旋回駐桿ヲ其室ヨリ脱シテ駐鋤ヲ垂直旋回軸周ニ旋

回シ駐鋤板ヲ下ロシタル後轉駐桿ヲ裝シ架尾ヲ地上ニ置ク

架尾ノ位置定ルヤ一番及二番ハ駐定桿ヲ緊定ス

一番ハ高低照準具ヲ覆フ、二番ハ觀準儀覆フ、三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋

ヲ、八番ハ砲口蓋ヲ脱シ各、同方側ノ防楯ノ鉤ニ掛ク

一番ハ高低水準器ノ氣泡ヲ、二番ハ觀準儀後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ

略、中央ニ導ク

三番ハ制轉機ヲ緊メ安全駐爪ヲ發火ノ位置ニ爲シ拉繩ヲ鎖扉ノ樞軸ニ掛ク

四番ハ撞桿ヲ其室ヨリ脱シ之ヲ携フ

七番ハ十、鐵及圓匙ヲ脱シ分隊長ノ指示スル位置ニ置ク

八番ハ砲架匣ヨリ信管廻、布片及雜巾ヲ出シ布片ヲ九番ニ渡シ信管廻及雜巾

ヲ彈丸置場ニ置キ九番ハ布片ヲ藥筒置場ニ置ク

分隊長ハ適時砲手ヲシテ各部ヲ檢シ要部ニ給油セシム

接續

第二百三十三 接續ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前車掛ケ

砲手ハ第二百三十二ト概ネ反對ノ操作ヲ爲シ駐鋤ヲ上ケ兩脚ヲ閉チ砲尾ヲ地上ニ置ク
一番、三番、五番及七番ハ砲架ノ右側、二番、四番、六番及八番ハ砲架ノ左側ニテ砲架ニ接シテ位置ス
運轉手ハ前車ヲ放列ノ後方或ハ右後方ヨリ導キタルトキハ之ヲ後車ノ右側ヨリ、左後方ヨリ導キタルトキハ後車ノ左側ヨリ其軸線方向ニ導キ鋼鈕ヲ架尾クワン
銀ニ對セシムル如ク停止シ次テ前車ヲ後退ス
一番乃至八番ハ第二百三十二ト概ネ反對ノ操作ヲ爲シ前車ヲ接續シ終ルヤ八番ハ「宜シ」ト唱ヘ分隊長ハ要スレハ牽引自動車ノ位置ヲ正サシム
分隊長ハ乘車シ砲手ハ下車ノ定位ニ就ク
第二百三十四 彈藥車ノ運動ハ概ネ分隊ノ運動ニ準ス
第三款 射擊

射擊號令

第二百三十五 射擊ノ號令ハ左記事項中所要ノモノヲ概ネ列記ノ順序ニ令スルモノトス

照準點ノ方向及照準點
方向角又ハ方向修正量

彈種
信管ノ種類又ハ裝置

射擊用意

高低角又ハ高低修正量

信管修正量

射距離又ハ射距離變換量

散布、掃射ノ方法

裝填法

發射速度

發射法

射擊スヘキ目標ハ適宜ノ時機ニ之ヲ指示ス
分隊長以下ハ新ナル號令アルトキハ直ニ之ニ依リ操作ス
砲手ハ射擊諸元ノ號令アル毎ニ之ヲ裝定又ハ修正シタル後其結果ヲ分隊長ニ報告ス而シテ此報告及操作間ニ用フル呼號ハ關係者ノ了解シ得ルヲ度トシ明確ニ發唱スルモノトス
第二百三十六 照準成ルヤ一番及二番ハ「宜シ」ト唱フ方向照準又ハ高低照準ノミヲ爲シタル場合ニ於テモ亦同シ

射擊用意及解除

第二百三十七 射擊用意ヲ爲サシムルニハ砲車射擊位置ニ在ルトキ左ノ號令ヲ下ス

射擊用意

一番ハ砲架匣ヨリ拉繩ヲ出シ之ヲ三番ニ渡ス

二番ハ照準儀ヲ脱シ照準儀ヲ其室ニ裝シ諸分畫ヲ定位(諸分畫ヲ零位但分

用意解ケ

三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ一番ヨリ拉繩ヲ受取リ其茄子銀ヲ引鐵ノ銀ニ鉤シ之ヲ握把ト鎖扉ノ樞軸トニ纏ヒ砲尾蓋ヲ裝ス
四番ハ前車ノ蓋板ヲ開キ二號箱ヨリ觀準儀ヲ出シ之ヲ二番ニ渡シタル後二號箱ヲ前車ニ收メ蓋板ヲ閉ツ

觀準儀ヲ裝スルニハ先ツ觀準儀室ノ壓螺ヲ左ニ廻ハシ次ニ四番ヨリ觀準儀ヲ受取リ右手ヲ以テ分畫筒ノ下方儀ノ本體ヲ、左手ヲ以テ脚ノ下端ヲ握リ接眼鏡ヲ後方ニシ徐ロニ觀準儀ノ脚ヲ其室ニ挿入シ觀準儀ノ突筒ヲ室ノ上端切缺部ニ嵌メ壓螺ヲ右ニ廻ハシテ之ヲ緊定ス

第二百三十八 射擊用意ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
用意ヲ解ケ
第二百三十七ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス
射向附與

第二百三十九 射向ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
照準點右後方一本杉ノ頂上
方向四百五十
或ハ
照準點前方塔ノ頂上

分隊長ハ照準具ノ裝定及照準ヲ監視ス又方向固有修正量ヲ自ラ修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス
八十右(左)へ

二番ハ分畫鏡上ニ方向角ヲ裝定或ハ修正シ橫表尺上ニ方向固有修正量ヲ裝定シタル後方向照準ヲ爲ス
照準點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキハ通常分隊長ハ他ニ適當ナル地物ヲ選ヒ標定點ト爲シ之ヲ二番ニ指示ス二番ハ射向ヲ換フルコトナク分畫鏡ヲ廻ハシテ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ標定點ニ一致セシメ標定點及方向角ヲ分隊長ニ報告ス
標定點ハ發見及照準容易ニシテ埋滅變位ノ虞ナク其位置ハ成ルヘク遠ク且後方ナルヲ可トス
標定點トシテ適當ナル地物ナキトキハ標桿ヲ立ツ
夜間ニ在リテハ標定點トシテ通常携帶燈ヲ設置ス

分畫鏡ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫子ノ翼ヲ略ト垂直ニ起シ右手ヲ以テ觀準儀頭部ノ兩側ヲ握ミ眼鏡ノ向ヲ照準點ノ方向ニ廻ハシテ所命ノ分畫鏡分畫ヲ商輪室上部ノ指標ニ一致セシメ翼ヲ押ニ舊ニ復シタル後右手ヲ以テ轉輪ヲ右ニ廻ハシテ所命ノ分畫筒分畫ヲ回轉螺室ノ指標ニ一致セシム
分畫鏡ヲ修正スルニハ現ニ商輪室上部及回轉螺室ノ指標ニ對スル刻線ヨリ起リ所命ノ數ヲ右(左)ニシ分畫筒分畫ノ刻線ヲ指標ニ一致セシム而シテ分

畫鏡分畫ヲ右(左)ニスルニハ其分畫ヲ指標ニ對シ右(左)ニ移シ分畫筒分畫ヲ右(左)ニスルニハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハス但轉輪ハ常ニ右ニ廻ハシテ止ムル如クスルヲ要ス

照準點ト共ニ方向修正量ヲ號令セラレタルトキハ照準點ノ方向後(前)方ナルニ從ヒ後(前)視零ヨリ修正ス

橫表尺ヲ裝定スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシ所命ノ分畫右(左)ナルトキハ眼鏡托坐下端ノ指標ヲ右(左)方分畫上所命ノ分畫ニ一致セシム

橫表尺ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ修正量ニ應ジ指標ヲ右(左)ニ動かス

方向照準ヲ爲スニハ二番ハ方向照準機ノ轉輪ヲ廻ハシテ眼鏡ノ方向ヲ略ハ照準點ノ方向ニ向ハシメタル後右手ヲ以テ誘導螺桿ノ把子ヲ、左手ヲ以テ蝸狀螺ノ轉輪ヲ握リ後方氣泡管ノ氣泡右(左)方ニ偏スルトキハ誘導螺桿ノ把子ヲ右(左)ニ廻ハシ左方氣泡管ノ氣泡後(前)方ニ偏スルトキハ蝸狀螺ノ轉輪ヲ左(右)ニ廻ハシ兩氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略ト中央ニ導キ然ル後眼鏡ヲ鏡ヨリ約一指幅ヲ隔テテ狙ヒ方向照準機ノ轉輪ヲ廻ハシ要スレハ俯仰裝置ヲ使用シ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ照準點ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ以テ窓板若ハ照窓ヲ照ス

繫留氣球等ノ如キ動目標ニ對シ方向照準ヲ爲ストキハ照準成リタル後ト雖發射ノ直前ニ至ルマテ照準ヲ繼續ス

彈藥準備

第二百四十 彈藥ヲ準備セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

榴霰彈

或ハ

尖銳彈

五番乃至八番ハ所命ノ彈丸ヲ砲側ニ準備ス

九番及十番ハ尖銳彈ニ在リテハ裝藥一號ヲ、尖銳彈以外ノ彈種ニ在リテハ裝藥二號ヲ準備ス

裝藥二號ヲ準備スルニハ裝藥一號ノ藥筒ヨリ結束藥ヲ抽キ出ス

第二百四十一 榴彈等ノ爲信管ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

瞬發(短延期)信管

五番乃至八番ハ所命ノ信管ヲ裝著ス

瞬發(短延期)信管ヲ裝著スルニハ彈口栓ノ麻網ヲ引キテ之ヲ脫シ信管ヲ啾螺ノ上ニ載セ少シク右ニ廻ハシ微音ニ依リ其吻合ヲ檢シタル後信管ヲ左ニ廻ハシテ十分緊ム

信管ヲ脫スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス

信管準備

第二百四十二 榴霰彈等ノ爲信管ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

曳火(著發)信管

射角附與

曳火信管ニ在リテハ五番乃至八番ノ内二名ハ信管廻ヲ彈頭ニ冠シ著發信管ニ在リテハ安全ノ位置ニ在ル彈丸ヲ砲側ニ準備ス

第二百四十三 射角附與及信管測合
高度十度五ツ
七千四百

分隊長ハ照準具及信管廻ノ裝定並照準ヲ監視ス又高低固有修正量ヲ自ラ修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス
一番ハ規正裝置ニ高低角ヲ裝定シ之ニ高低固有修正量ヲ修正シタル後距離板ヲ以テ高低照準ヲ爲ス
三番ハ閉鎖機槓桿ノ握把ヲ握リ其駐爪ヲ駐鉤ヨリ脱スルト同時ニ後方ニ引キツツ閉鎖機ヲ右ニ開ク
五番乃至八番ノ内二名ハ榴霰彈等ニ在リテハ信管廻ヲ裝定シ且曳火信管ニ在リテハ信管ヲ測合ス
規正裝置ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ距離板壓螺ノ把子ヲ緩メ分畫筒ノ握把ヲ廻ハシテ指針板托臂ノ指針ニ所命ノ分畫ヲ一致セシメ把子ヲ緊ム
規正裝置ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ指針ニ對シ分畫ノ所命量ヲ増減ス
高低照準ヲ爲スニハ先ツ眼ヲ距離板ノ氣泡管ノ直上ニシ左手ヲ以テ水平規

信管測合

第二百四十四 信管修正分畫ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
或ハ 信管百縮メ(伸ハセ)

五番乃至八番ノ内二名ハ信管廻ヲ修正シ信管ヲ測合ス
信管廻ヲ修正スルニハ壓螺ヲ緩メ體ノ指標ニ對シ修正分畫ヲ所命ノ量ヲ移動シ刻線ヲ一致セシムルカ或ハ指標ニ所命ノ修正分畫刻線ヲ一致セシメタル後壓螺ヲ緊ム而シテ縮ムル場合ニハ修正分畫數ヲ減少スル如ク又伸ハ

正螺桿ノ轉輪ヲ握リ距離板ノ氣泡管ノ氣泡前(後)方ニ偏スルトキハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシテ氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導キ次テ高低照準機ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針托臂ノ指針ヲ距離板上所命ノ彈種ニ應スル距離刻線ニ一致セシム
夜間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ用ヒ氣泡管ノ下方ニ其光線ヲ反射セシムルカ若ハ直接氣泡管ノ下方ヲ照ス

信管廻ヲ裝定スルニハ先ツ挿板螺ヲ緩メ挿板ノ指針ヲ所命ノ距離刻線ニ一致セシメタル後挿板螺ヲ緊ム
信管ヲ測合スルニハ左手ニテ彈丸ヲ支ヘ右手ニ信管廻ノ握把ヲ執リ其準溝ヲ藥盤廻ニ嵌人シタル後右ニ廻ハシテ挿板ヲ駐釘ニ合セシム
廻子ヲ以テ信管ヲ零距離ニ測合スルニハ之ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシ其圓孔ヲ駐釘ニ向ハシム

信管修正千百

指命彈數
裝填

ス場合ニハ之ニ反スル如ク操作ス
二百四十五 所望ノ彈數ヲ裝填セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
三發

五番乃至十番ハ第二十四乃至第二十四ニ從ヒ彈藥ヲ準備シ五番乃至八
番ノ内一名ハ彈丸ヲ、九番若ハ十番ハ藥筒ヲ所命ノ數ニ至ルマテ逐次裝填シ
五番乃至八番ノ内一名ハ彈丸ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱フ
四番ハ五番乃至八番ノ内一名彈丸ヲ腔内ニ入ルルヤ撞桿ヲ以テ之ヲ彈室ニ撞
キ入レ三番ハ彈藥ノ裝填終ルヤ閉鎖機ヲ閉ツ
散布並掃射ニ在リテハ一距離、一方向ニ應スル彈數ヲ示ス

彈丸ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒテ砲尾ニ運ヒ兩手ヲ以テ螺體室ノ螺絲部ニ觸
レサル如ク彈丸ヲ腔内ニ入リ四番ハ撞桿ヲ彈底ニ當テ之ヲ砲身軸ノ方向ニ
保チ一舉ニ力ヲ加ヘ彈丸ヲ彈室ニ撞キ入ル
藥筒ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒタル後砲尾ニ近ツキ兩手ヲ以テ藥室内ニ押シ
込ム
彈藥ノ裝填間三番ハ右手ニテ閉鎖機槓桿ノ握把ヲ稍、後方ニ押ス如ク輕ク
握リ藥筒ノ裝填終ルヤ握把ヲ後方ニ引キツ閉鎖機ヲ廻ハシ螺體半ハ螺體
室内ニ入ルルヤ左手ニテ鎖屏ノ後面ヲ強ク壓シ鎖屏ノ前面砲尾面ニ接シタル
後右手ニ力ヲ加ヘテ握把ヲ前方ニ壓ス
二百四十六 連續裝填セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

連續裝填

秒數指定
發射
中三五

二百四十五ニ從ヒ操作シ四番乃至十番ハ連續裝填ス但彈丸ヲ裝填スル毎ニ
「一、二、三」等ト唱フルコトナシ
二百四十七 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
十五秒 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ「撃テ」ト號令シ爾後所命ノ秒數ヲ間シ發射ヲ號令
ス
分隊長ハ發射ニ際シ後復坐ノ景況ニ注意シ要スレハ五番乃至八番ノ内一名ヲ
シテ後坐量ヲ測定セシム
三番ハ分隊長ノ號令ニテ拉繩ヲ引キテ發射シ復坐終ルヤ拉繩ヲ輕ク鎖屏ノ樞
軸ニ掛ケ閉鎖機ヲ開キ右手ニテ之ヲ保チ左手ヲ以テ藥莢ヲ出シ之ヲ九番若ハ
十番ニ渡シ腔内及擊針孔ヲ檢ス九番若ハ十番ハ藥莢ヲ指定セラレタル位置ニ
置ク
一番及二番ハ發射終ルヤ照準具ヲ點檢シ照準ヲ爲ス但一番ハ射角十五度以上
ナルトキハ之ヲ約十五度ト爲ス
五番乃至八番ノ内一名ハ分隊長ノ命令ニ從ヒ後坐量ヲ測定ス又五番乃至十番
ハ所命ノ如ク彈丸、信管及藥筒ヲ準備シ四番乃至十番ハ所命ノ裝填法ニ應シ
二百四十五又ハ二百四十六ニ從ヒ操作ス

射向變更
分畫銀

同
轉輪ニテ

急キ撃テ
第二百四十七ニ準シテ操作シ爾後裝填法ノ號令アルマテ彈藥ヲ裝填スルコト
ナシ
諸元ノ變更

第二百五十二 分畫銀ニ依リ射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
八十右(左)へ

二番ハ分畫銀ヲ修正シタル後方向照準ヲ爲ス
架尾ノ移動ヲ要スルトキハ分隊長ハ其方向及量ヲ示ス二番ハ角度板ノ分畫ヲ
零ニ復シ一及二番ハ駐定桿ヲ、三番ハ制轉機ヲ緩メ三番及五番ハ車輪ニ、
四番、六番乃至十番ハ脚ニ就キ架尾ヲ移動ス架尾ノ移動終ルヤ一及二番ハ
駐定桿ヲ、三番ハ制轉機ヲ緊ム
既ニ射角ヲ附與シアルトキハ一及二番ハ高低照準ヲ爲ス
射向變換ニ方リ照準點若ハ既ニ採用セル標定點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スル
ヲ不便トスルトキハ第二百三十九ニ從ヒ新ニ標定點ヲ選定ス
第二百五十三 方向照準機ノ轉輪ニ依リ射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號
令ヲ下ス
右(左)ニ回

二番ハ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク方向照準機ノ轉輪ヲ所命ノ回數タケ廻ハシ
一及二番ハ高低照準ヲ爲ス
發射後二番ハ方向照準ヲ行フコトナシ

連續各個
發射
中三三

指令發射
中三四

發射速度
變換
擊拂

發射ニ際シ砲車靜定セサル虞アルコトヲ認ムルトキハ分隊長ハ豫メ「外へ」ト
命シ砲手ヲシテ一時車輪外ニ出テシム又不發アリタルトキハ分隊長ハ約二秒
ヲ間シ數回「撃テ」ト號令シ尙發火セサルトキハ約十五秒ノ後閉鎖機ヲ開カシ

後坐量ヲ測定スルニハ發射ニ先タチ遊標ヲ前方ニ進出セシメ發射後遊標ニ
一致スル分畫ヲ讀ム
後坐量ノ限界ハ長後坐千五百耗トス
第二百四十八 連續發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
連續各個ニ撃テ

第二百四十七ニ從ヒ操作シ分隊長ハ準備成ル毎ニ直ニ發射ヲ號令ス
指令發射 各個ニ撃テ
第二百四十九 每發所望ノ時機ニ發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
指令發射 各個ニ撃テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ發射ヲ號令ス爾後「次キ」ノ號令若ハ記號ニ依リ直ニ
發射ヲ號令スルカ又ハ「何秒(連續)何回次キ」ノ號令ニ依リ第二百四十七(第
二百四十八)ニ從ヒ所命ノ回數ニ應スル彈數ヲ發射セシム
第二百五十 所命ノ彈數ヲ發射中發射速度ヲ換ヘシムルニハ單ニ發射速度ノ
ミヲ號令ス

一發裝填ノ場合(散布及掃射ヲ除ク)ニハ發射速度ヲ號令スルコトナシ
第二百五十一 裝填シアル彈藥ヲ擊拂ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

一七頁
高低角變
更

射向ヲ舊ニ復シ方向照準ヲ爲サシムルニハ(方向舊)ノ號令ヲ下ス
第二百四十四 彈藥並信管ノ種類若ハ裝置ヲ換ヘシムルニハ第二百四十四乃至
第二百四十二ニ從フ
第二百四十五 高低角ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
高低十二度四
或ハ

高低四増セ(減ケ)

一番ハ規正裝置ヲ裝定或ハ修正シタル後高低照準ヲ爲ス

第二百五十六 信管修正分蓋ヲ換ヘシムルニハ第二百四十四ニ從フ

第二百五十七 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五千六百
或ハ

二百増セ(減ケ)

第二百四十三ニ準シテ操作ス

散布

第二百五十八 近(遠)方位ヨリ逐次距離上ニ各距離毎ニ所望ノ彈數ヲ發射
セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ射距離又ハ其増(減)量ト共ニ例ヘハ左
ノ號令ヲ以テス但現在裝定セル射距離ヨリ發射セシムル場合ニハ射距離ノ號
令ヲ省略スルコトヲ得

掃射

遠(近)ノ百 三距離
分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ所命ノ射距離若ハ現在ノ射距離ヨリ始メ所命ノ
彈數ヲ發射シ終ル毎ニ所命ノ量ヲ増(減)シタル射距離若ハ所命ノ射距離増
(減)量並彈數ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

第二百五十九 一距離上ニ於テ逐次射向ヲ換ヘ各射向毎ニ所望ノ彈數ヲ發射
セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス
三方向 右(左)ニ回

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ現在ノ射向ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎
ニ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク所命ノ方向照準機轉輪ノ旋回方向及回数並彈數
ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

諸元保留

諸元ノ保留及使用
第二百六十 射擊諸元ヲ保留セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五十一砲兵諸元書ケ
或ハ

標點方向書ケ

分隊長ハ現在ノ射擊諸元即チ照準點若ハ標定點、方向角、彈種、信管ノ種類
若ハ裝置、高低角、信管修正量、射距離ヲ記載ス但標點方向ヲ書ク場合ニ於

諸元使用

テハ照準點若ハ標定點並方向角ノミヲ記載ス
第二百六十一 保留セル諸元ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
五十一砲兵諸元取レ

或ハ 標點方向取レ

分隊長ハ記載セル諸元ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

射擊中止

第二百六十二 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
射擊ノ中止、再興及停止

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ中止ス但三番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全駐爪ヲ安全ノ位置ニ爲ス

射擊再興

第二百六十三 射擊ヲ再興セシムルニハ射擊ニ關スル號令若ハ左ノ號令ヲ下ス
射擊ヲ再興セシムルニハ射擊ニ關スル號令若ハ左ノ號令ヲ下ス

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始メ

射擊止メ

第二百六十四 射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

一番ハ射角ヲ約十度ニ、規正裝置ヲ十度ニ復シ二番ハ指針ヲ角度板ノ零度ニ合ハセ照準儀ノ諸分畫ヲ定位ニ復ス三番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全駐爪ヲ安全ノ位置ニ爲ス

分隊戰闘

第二百六十五 分隊戰闘教練ノ主眼トスルトコロハ基本ノ教練ニ於テ教育セシ諸制式ヲ各種ノ戰況及地形ニ適應セシメ分隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ分隊長ノ指揮ニ從ヒ舉止恰モ一體ノ如ク戰闘シ得シムルニ在リ

演練ノ方

第二百六十六 分隊戰闘教練ハ通常中隊内ノ分隊トシテ演練スルモノトス然レトモ野、騎、山砲ニ在リテハ分隊獨立セル任務ニ服スル場合ヲモ訓練スルコト必要ナリ

分隊長ヲ

第二百六十七 分隊長ハ運動間分隊運動ノ基準トナリテ分隊ヲ誘導シ馭者(十加自動車手)ノ動作及鞍馬(山砲駄馬十加車輛)ノ狀態ニ注意シ運動ヲ圓滑ニシ放列布置及撤去ノ動作ヲ整齊確實ナラシメ又射擊間射擊設備ヲ適切ニシ砲手ノ操作ヲ監視シ且火砲、材料ノ要部ニ注意シ射擊ヲ確實圓滑ナラシムルヲ要ス

置ニ爲シ制轉機ヲ緩ム
五番乃至八番ハ信管修正分畫ヲ千二百ニ復シ信管ニ安全割栓ヲ挿ス若信管ヲ測合シアルトキハ之ヲ安全ノ位置ニ復シ且安全割栓ヲ挿ス又榴彈及尖銳彈等ニ信管ヲ裝著シアルトキハ之ヲ脱シ彈口栓ヲ裝ス
九番及十番ハ裝藥ヲ一號ニ復ス
信管ヲ安全ノ位置ニ復スルニハ廻子ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシテ其指標ヲ駐釘右側ニ一致セシム

第二章 戰闘

要則
分隊長ハ運動間分隊運動ノ基準トナリテ分隊ヲ誘導シ馭者(十加自動車手)ノ動作及鞍馬(山砲駄馬十加車輛)ノ狀態ニ注意シ運動ヲ圓滑ニシ放列布置及撤去ノ動作ヲ整齊確實ナラシメ又射擊間射擊設備ヲ適切ニシ砲手ノ操作ヲ監視シ且火砲、材料ノ要部ニ注意シ射擊ヲ確實圓滑ナラシムルヲ要ス

分隊長ノ儀表

第二百六十八 分隊長ハ自ラ分隊ノ儀表トナリ精神、氣力ヲ充溢シ縱ヒ猛烈ナル敵ノ射撃ヲ被ルモ泰然トシテ動作シ常ニ部下ヲ確實ニ掌握シ全員協同一致各々其職務ヲ完全ニ遂行セシメサルヘカラス

第一節 陣地占領及撤去

一齊進入 中三三

第二百六十九 中隊一齊ニ陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ放列布置ノ號令ニ從ヒ指定セラレタル位置ニ分隊ヲ誘導スルカ或ハ速ニ砲車位置ヲ選定シ放列ヲ布置スルモノトス

各個進入 中三三

第二百七十 分隊各個ニ陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ所要ノ偵察ヲ爲シ分隊ノ誘導法要スレハ砲車位置並射撃設備ノ方法等ヲ決定シ通常放列布置ノ方法、放列布置後ニ於ケル前車(山砲馱馬)ノ行動等ニ關シ所要ノ指示ヲ部下ニ與ヘタル後陣地ニ進入スルモノトス

下馬進入

第二百七十一 野、騎砲及十五榴下馬シテ陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ前項ニ準シテ處置スルモノトス

臂力進入

第二百七十二 野、騎砲ノ前車若ハ野、騎、山砲ノ馬ヲ離脱シ臂力ヲ以テ車輛ヲ陣地ニ就カシムル場合ニハ分隊長ハ進路ヲ偵察シ的確ナル指揮ニ依リ部

下馬進入

第二百七十三 山砲ノ砲車ヲ分解シ臂力ヲ以テ之ヲ陣地ニ搬送スル場合ニハ分隊長ハ爲シ得レハ搬送ニ便ナル如ク材料ヲ排列シ個人ノ體力ヲ顧慮シテ材料ヲ砲手要スレハ馱者ニ配當シ且搬送ニ關シ所要ノ指示ヲ與ヘタル後通常先行シテ砲車ノ結合位置ヲ偵察スルモノトス而シテ搬送ノ順序ハ結合ニ便ナル如ク定メ特ニ放列布置後直ニ射撃開始ヲ必要トスル場合ニ於テハ照準具並一部ノ彈藥ヲ速ニ砲側ニ搬送スルコト緊要ナリ

臂力進入

第二百七十四 分隊中隊ノ主力ニ後レテ陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ陣地ニ近接スルヤ通常自ラ先行シテ小隊長ヨリ砲車位置、進入ノ方法、射撃ノ準備等ニ關シ所要ノ命令ヲ受クルヲ要ス

山砲ノ分解進入 中三三

第二百七十五 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

分隊遅レテ進入

第二百七十六 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

夜間進入 中三三

第二百七十七 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

夜間進入 中三三

第二百七十八 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

夜間進入 中三三

第二百七十九 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

夜間進入 中三三

第二百八十 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

夜間進入 中三三

第二百八十一 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス

下ヲシテ協同一致迅速ニ車輛ヲ所望ノ位置ニ搬送セシムルヲ要ス而シテ放列布置後直ニ射撃開始ヲ必要トスル場合ニ於テハ一部ノ彈藥ヲ速ニ砲側ニ搬送スルコト緊要ナリ
第二百七十三 山砲ノ砲車ヲ分解シ臂力ヲ以テ之ヲ陣地ニ搬送スル場合ニハ分隊長ハ爲シ得レハ搬送ニ便ナル如ク材料ヲ排列シ個人ノ體力ヲ顧慮シテ材料ヲ砲手要スレハ馱者ニ配當シ且搬送ニ關シ所要ノ指示ヲ與ヘタル後通常先行シテ砲車ノ結合位置ヲ偵察スルモノトス而シテ搬送ノ順序ハ結合ニ便ナル如ク定メ特ニ放列布置後直ニ射撃開始ヲ必要トスル場合ニ於テハ照準具並一部ノ彈藥ヲ速ニ砲側ニ搬送スルコト緊要ナリ
第二百七十四 分隊中隊ノ主力ニ後レテ陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ陣地ニ近接スルヤ通常自ラ先行シテ小隊長ヨリ砲車位置、進入ノ方法、射撃ノ準備等ニ關シ所要ノ命令ヲ受クルヲ要ス
第二百七十五 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、分隊ノ進路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス
陣地進入ニ方リ分隊長及彈藥車長(山砲彈藥班長十五榴砲身車長)ハ特ニ部下ヲ確實ニ掌握シ前後ノ連絡ヲ確保スルコト緊要ナリ又敵ヲシテ我方企圖ヲ察知セシメサル爲分隊長以下常ニ靜肅ニ動作シ且燈火ノ使用ニ注意シ要スレハ音響防止ノ處置ヲ講スルモノトス

人馬材料
ノ缺損

分三
中三六

砲車位置
ノ選定

第二百七十六 陣地進入ニ方リ人馬ノ缺損ヲ生シタルトキハ分隊長ハ速ニ其
狀況ヲ小隊長ニ報告スルト共ニ馭者(十加自動車手)ノ缺損ハ砲手ヲ以テ之ヲ
補充シ故障アル馬ハ適宜之ヲ交換又ハ除去シ或ハ彈藥車ノ前車ヲ以テ砲車ヲ
輓曳スル等其處置ヲ機宜ニ適セシメ總ヒ總テノ馬ヲ失ヒ或ハ牽引自動車破損
シタル場合ニ於テモ分隊長以下協同一致臂力ヲ以テ速ニ砲車其他ノ材料ヲ陣
地ニ就カシムルヲ要ス

第二百七十七 砲車位置ヲ概示セラレタルトキハ分隊長ハ通常放列布置ニ方
リ左ノ事項ヲ顧慮シ速ニ其附近ニ於テ火砲ノ威力ヲ發揚スルニ最モ適當ナル
位置ヲ選定スルモノトス而シテ此位置ノ選定適當ナルトキハ放列布置後實施
スヘキ諸設備ヲ著シク輕減シ得ヘシ

砲車位置ハ十分ナル抗力ヲ有シ且其抗力ハ左右等齊ナルコト
砲車位置特ニ兩車輪ノ位置ハ平坦ニシテ高低差ナク且其抗力等齊ナルコト

射擊ノ爲砂塵ヲ飛揚セサルコト
地形ノ利用ニ依リ成ルヘク掩蔽良好ニシテ且射擊設備並偽裝容易ナルコト

比隣砲車及砲口前ノ地形、地物ノ爲射擊ヲ妨害セラレサルコト
砲車位置ヲ指定セラレタルトキハ分隊長ハ放列布置ニ方リ砲車ノ眼鏡(十五
榴及ト加觀準儀)ヲ略シ指定位置ノ直上ニ導クモノトス但特ニ指示アルトキ
ハ砲車ノ眼鏡(十五榴及ト加觀準儀)ヲ指定位置ノ直上ニ導クヲ要ス

十五榴兩
砲架ノ連
結
射擊設備
中三二

第二百七十八 十五榴ノ砲架車及砲身車連結位置ノ適否ハ放列布置ノ難易及
運速ニ影響スルコト大ナリ故ニ分隊長ハ迅速適切ニ地形ヲ判斷シ兩砲架ノ連
結並爾後ノ搬送ニ便ナル如ク連結位置ヲ選定スルコト緊要ナリ

第二百七十九 放列ヲ布置スルヤ分隊長ハ指示セラレタル射界ニ對スル射擊
ノ實施ヲ容易ニシ且精度良好ナル射擊ヲ繼續シ得ル如ク速ニ射擊設備ヲ行フ
ヲ要ス而シテ放列布置後直ニ射擊ヲ開始スル場合ニ於テハ射擊ノ間斷ヲ利用
シテ逐次射擊設備ヲ完成スルモノトス時トシテ放列布置ニ先タチ此設備ヲ實
施セシメラルコトアリ

分隊長以下ノ實施スヘキ射擊設備ノ主要ナルモノ左ノ如シ
駐劔溝ヲ掘開シ野ノ騎、山砲ニ在リテハ爲シ得レハ束柴、束藁等ニ依リ、
十五榴及ト加ニ在リテハ束籐、束竹等ニ依リ火砲ノ後坐衝力ヲ緩和シ且爲
シ得レハ植杭ニ依リ土地ノ抗力ヲ増大シ以テ砲車ノ安定ヲ良好ニシ射向變
換ヲ容易ナラシム

車輪下ハ要スレハ之ヲ削リ且地面ヲ十分搗固シ爲シ得レハ糾草等ヲ敷キ尙
十五榴ニ在リテハ藤褥及支楔ヲ、十加ニ在リテハ藤褥ヲ車輪下ニ裝シ架尾
位置ノ設備ト相俟テテ砲車ノ安定ヲ良好ニシ射向變換ヲ容易ナラシム

射界ヲ清掃シ又照準ヲ妨クヘキ地物ヲ除去ス
砲口前ニ撒水シ或ハ編條等ヲ以テ所要ノ地域ヲ覆ヒ發射ノ爲生起スル砂塵
ノ飛揚並風靡力ニ依ル形跡ヲ防止ス

第二百八十 分隊長以下常ニ巧ニ地形ヲ利用シ以テ人馬及其行動並材料等ヲ
掩蔽

掩蔽スルコト緊要ナリ
偽裝網ヲ設置スルニ方リテハ成ルヘク之ヲ低クシ各部ニ稜角ヲ生セシムルコトナク且其縁邊ハ緩傾斜ヲ以テ地面ニ接著セシムルヲ可トス

第二節 射擊
二百八十一 放列撤去ニ方リ分隊長(山砲ヲ除ク)ハ地形ニ應シ車輛ヲ接續ニ便ナル位置ニ移シ前車來ルヲ要スレハ彈藥車長(十五榴砲身車長十加運轉手)ニ前車ノ誘導ニ關シ指示ヲ與ヘ迅速圓滑ニ接續ヲ完了スルヲ要ス又山砲ノ分隊長ハ地形ニ應シ砲車其他ノ材料ヲ繫駕又ハ駄載ニ便ナル位置ニ移シ駄馬來ルヲ要スレハ彈藥班長ニ駄馬ノ誘導ニ關シ指示ヲ與ヘ迅速圓滑ニ繫駕又ハ駄載ヲ完了スルヲ要ス
砲側ニ彈藥ヲ集積シアル場合ニ於テハ野、騎、山砲ノ分隊長ハ其彈藥ヲ以テ分隊ノ彈藥ヲ補充シ且過剩ノ彈藥アルトキハ其種類及數量ヲ小隊長ニ報告スルモノトス
十五榴及十加ノ分隊長ハ砲側ニ在ル彈藥ノ種類及數量ヲ小隊長ニ報告スルモノトス

射擊指揮

分隊長ノ

二百八十二 分隊長ハ通常小隊長ノ指揮下ニ在リテ射擊ノ指揮ニ任スルモノトス然レトモ射擊操作ハ通常中隊長又ハ放列ニ在ル高級先任ノ砲車小隊長ノ號令ニ依リ直ニ開始スヘキモノナルヲ以テ常ニ此等指揮官ノ號令及記號ニ注意シアルヲ要ス
二百八十三 分隊長ハ操作上ノ要點及砲手ノ誤リ易キ點ニ注意シ勉メテ操

注意

危害豫防

火砲及各種機關ノ愛護

砲側彈藥ノ取扱

高低角測定

作間ニ過誤ヲ發見シテ之ヲ未然ニ防キ要スレハ實施ノ結果ヲ點檢シ以テ常ニ正確ナル射擊ヲ實施スルコトニ勉メサルヘカラス
放列布置後直ニ射擊ヲ開始スルカ或ハ大ナル射擊速度ヲ以テ射擊スル等狀況急ヲ要スル場合、射擊諸元ノ大ナル變更アリタル場合、號令複雜ナルカ或ハ其徹底不十分ナル場合、中隊長及小隊長トノ視目ニ依リ連絡困難ナル場合等ニ於テハ動モスレハ操作不正確トナリ或ハ過誤ヲ生シ易キヲ以テ注意ヲ倍蕪スルヲ要ス
二百八十四 分隊長ハ不慮ノ危害ヲ防止スル爲テ部下ヲ確實ニ掌握シ且絶エ下部下分隊並比隣分隊ノ狀態ニ注意スルヲ要ス發射ノ前後ニ於テ特ニ然リトス
二百八十五 分隊長ハ常ニ火砲特ニ照準具、閉鎖機及駐退機ノ機能ヲ完全ニシ以テ射擊ノ實施ヲ圓滑ニシ且其精確ヲ良好ナラシムルコトニ勉メサルヘカラス之カ爲射擊間各部ノ機能ニ注意シ又爲シ得レハ砲身ノ放熱ヲ圖リ且射擊ノ中止間等ヲ利用シテ各部ノ點檢、手入、注油等ヲ實施セシムルヲ要ス
二百八十六 砲側ニ在ル彈藥取扱ノ良否ハ射擊ノ精確ニ影響ヲ及スコト大ナルヲ以テ分隊長以下常ニ所要ノ點檢、手入ヲ行ヒ且爲シ得ル限り之ニ覆ヲ施シ日光ノ直射及砂塵ノ附著並濕氣ヲ避クルコト緊要ナリ發煙彈等ニ在リテハ特ニ然リトス
二百八十七 野、騎、山砲及十加ノ某地點ニ對スル高低角ハ左ノ要領ニ依リ通常分隊長之ヲ測定スルモノトス

高低表尺ノ測定

野、騎、山砲 眼鏡ノ諸分畫ヲ定位ニシ俯仰分畫ニ其規正量ヲ取り次テ所命ノ地點ニ對シ表尺照準ヲ行ヒタル後高低水準器ノ轉輪ヲ廻ハシ其氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ指針ノ指ス分畫ヲ讀ミ要スレハ之ニ高低水準器ノ規正量ヲ修正ス

十加 觀準儀ノ後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キタル後分畫鏡ヲ廻ハシ俯仰裝置ノ轉輪ヲ使用シテ測定セントスル地點ニ眼鏡内十字ノ交截點ヲ導キ此際得タル俯仰分畫ニ其規正量ヲ修正ス

第二百八十八 野、騎、山砲及十加ノ某方向ニ對スル最低表尺ハ左ノ要領ニ依リ分隊長之ヲ測定スルモノトス

野、騎、山砲 表尺ヲ滿下シ測定スヘキ方向ノ遮蔽物ノ頂上ニ對シ表尺照準ヲ行ヒ高低水準器ニ所命ノ高低角ヲ裝定シ表尺ヲ抽出シテ高低水準器ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ坐筒上縁ニ一致スル距離ヲ讀ミ之ニ遮蔽物ニ至ル距離ヲ增加ス

遮蔽物ニ至ル距離短小ナルトキハ眼鏡内十字ノ交截點ニ代フルニ砲腔最下母線ヲ以テスルヲ可トス

十加 第二百八十七ニ從ヒ測定スヘキ方向ノ遮蔽物ノ頂上ニ對シ高低角ヲ測定シ之ニ所命ノ高低角ヲ加減シタルモノヲ距離板上ニ於テ射距離ニ換算(特ニ指示ナキトキハ裝藥ニ號ニ應スルモノ)シ此距離ニ遮蔽物ニ至ル距離ヲ增加ス

遮蔽物ニ至ル距離短小ナルトキハ規正裝置上ニ所命ノ高低角ヲ裝定シ距離板ノ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キタル後砲腔最下母線ヲ遮蔽物ノ頂上ニ導キ此際得タル射距離ニ遮蔽物ニ至ル距離ヲ增加ス

騎、山砲最高表尺

十五櫓ノ遮蔽角測定

射向附與

反規法ニ依ル射向

離板ノ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キタル後砲腔最下母線ヲ遮蔽物ノ頂上ニ導キ此際得タル射距離ニ遮蔽物ニ至ル距離ヲ增加ス

第二百八十九 騎、山砲ノ最高表尺ヲ測定スルニハ分隊長ハ架尾ヲ射撃スヘキ高サニ在ラシメ搖架ヲ移動シ得ル範圍ニ砲尾ヲ下ケ高低水準器ニ所命ノ高低角ヲ裝定シ表尺ヲ抽出シテ高低水準器ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ坐筒上縁ニ一致スル距離ヲ讀ミ若象限儀ヲ用フルトキハ砲尾上面ニ在ル駐筒(山砲象限儀坐)ニ準シテ之ヲ置キ氣泡管ノ轉輪ヲ廻ハシテ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ角度ヲ讀ム

第二百九十 十五櫓ノ某方向ニ對スル遮蔽角ヲ測定スルニハ分隊長ハ先ツ觀準儀ノ後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ次テ分畫鏡ヲ廻ハシ且俯仰裝置ノ轉輪ヲ使用シ眼鏡内十字ノ交截點ヲ測定スヘキ方向ノ遮蔽物ノ頂上ニ導キ俯仰分畫ヲ讀ミ若遮蔽角大ナルトキハ規正裝置ヲ十度トシ砲腔最下母線ヲ遮蔽物ノ頂上ニ導キ此際得タル距離板上ノ角度ヲ讀ム

第二百九十一 射向附與ニ方リ分隊長ハ照準點ヲ確認シ砲手ヲシテ照準點並同轉盤(十五櫓及十加分畫鏡)ノ裝定又ハ修正ヲ誤ラシメサルコトニ注意シ又標定點ヲ選定スル場合ニハ之カ選定ヲ適切ナラシムルヲ要ス

標定點ハ天候又ハ爆煙等ノ爲照準ヲ妨害セラルルコトアルヲ顧慮シ要スレハ豫備ノ標定點ヲ準備スルモノトス

第二百九十二 反規法ニ依ル射向附與ニ於テハ分隊長ハ同轉盤ヲ略、水平(十五櫓及十加觀準儀ヲ略、垂直)ニシ且標桿ヲ使用スル場合ニハ同轉盤(十

射擊諸元
ト準備

射向變換

偽裝網下
ノ操作

夜間射擊

附與、
移動スルニ方リ砲車ノ眼鏡(十五榴及十加觀準儀)位置ヲ偏移セシメサルヲ要ス

五榴及十加觀準儀)上ニ垂直ニ植立セシムルコト緊要ナリ又反規ノ爲架尾ヲ移動スルニ方リ砲車ノ眼鏡(十五榴及十加觀準儀)位置ヲ偏移セシメサルヲ要ス
砲車基準ノ反規法ニ在リテハ前項ノ外爲シ得レハ砲車ノ方向ヲ豫メ基準ノ砲車ノ方向ニ平行セシムルヲ可トス
第二百九十三 射向變換ニ方リ架尾ノ移動ヲ要スルトキハ爲シ得ル限リ砲車ノ眼鏡(十五榴及十加觀準儀)位置ノ偏移ヲ防キ以テ射擊精度ヲ良好ナラシメサルヘカラス之カ爲分隊長ハ射擊設備ノ狀態及方向修正量ヲ顧慮シ之ニ適應スル如ク各砲手ヲシテ協同動作セシムルヲ要ス
二箇以上ノ標定點ヲ使用シタルトキハ方向照準ニ方リ彼此混同セサルコトニ注意スルヲ要ス
第二百九十四 中隊長ヨリ豫メ射擊諸元及射擊ノ方法等ヲ指示セラレタル場合ニハ分隊長ハ所要ニ應ジ之ヲ其分隊ノ操作ニ適スル如ク記載スルモノトス而シテ其射擊ノ準備ヲ命セラルルヤ速ニ之ヲ完了シ且成ルヘク射擊ノ方法ヲ部下ニ了解セシメ發射ノ時機ヲ待ツヲ要ス
第二百九十五 偽裝網下ニ在リテハ小隊長及比隣分隊等トノ連絡困難ニシテ號令、命令ノ徹底不十分トナリ又適時標定點ヲ變更スルコト困難ナリ故ニ分隊長ハ偽裝ノ狀態ヲ顧慮シ要スレハ偽裝網ノ一部ヲ開放シ得ル如クスル等連絡及照準ヲ容易ナラシムルノ處置ヲ講セサルヘカラス
夜間射擊ニ方リテハ分隊長ハ特ニ部下ヲ確實ニ掌握シ常ニ靜

人員材料
ノ缺損

中四六

勇猛、沈
著、自信、

蕭ニ動作セシメ且燈火ノ使用ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ
燈火ノ使用ニ方リテハ分隊長ハ偽裝並附近ノ地形ヲ顧慮シ外部ニ火光ヲ漏洩セシムルコトナク而モ照準具及信管廻ノ裝定又ハ修正並照準等ノ操作ニ便ナラシムルヲ要ス
第二百九十七 分隊長ハ射擊間人員、材料ノ缺損又ハ故障ヲ生シタルトキハ速ニ其狀況ヲ小隊長ニ報告スルト共ニ機宜ニ適スル處置ニ依リ射擊ヲ繼續スルコト緊要ナリ
砲手ノ缺損ニ際シテハ分隊長ハ射擊ノ狀態、砲手ノ任務等ヲ顧慮シ操作ニ便ナル如ク適宜砲手ニ任務ヲ命ス而シテ特ニ重要ナル任務ニ服スル砲手ニハ爲シ得ル限リ他ノ任務ヲ兼ネシムルコトナク要スレハ分隊長自ラ砲手ノ操作ヲ兼スルモノトス
分隊長缺クルトキハ小隊長ノ命スル砲手ハ分隊長トナリ其分隊ヲ指揮スルモノトス
材料ノ故障又ハ缺損ニ對シテハ分隊長ハ應急ノ處置ヲ講シ爲シ得レハ豫備品ト交換スルヲ可トス而シテ駐退機ノ機能ニ異狀ヲ認ムルトキハ直ニ射擊ヲ中止シテ之ヲ點檢シ又不發アルトキハ爆管要スレハ擊發機ヲ點檢スルモノトス
分隊長ハ常ニ砲側ニ在ル彈藥ニ注意シ適時之ニ關シ小隊長ニ報告スルヲ要ス
第三節 戰團間兵卒一般ノ心得
第二百九十八 戰團ハ行軍及劇動ノ後開始スルヲ常トシ且晝夜ニ互ルコト多シ故ニ兵卒ハ勇猛沈著能ク自信ト耐忍トヲ以テ有ユル困苦缺乏ニ堪ヘ戰團

耐忍ノ最後ノ奮闘
 敵兵陣地ニ侵入シタルトキ
 指揮官ヲ失ヒタルトキ
 負傷シタルトキ
 對瓦斯攻撃
 所屬部隊ヲ離ルルコト

ノ慘烈ナル感情ニ克チ以テ戰闘ノ要求ヲ充足シ得サルヘカラス
 第二百九十九 兵卒ハ敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キトキト雖自己ノ責任ヲ自覺シ從容自若トシテ事ニ當リ最後ノ一人ニ至ルマテ戰闘ヲ繼續スルヲ要ス
 第三百 敵兵我カ陣地ニ侵入シ射撃ヲ繼續シ得サルニ至レハ兵卒ハ有ニル手ヲ盡シテ格闘シ敵ヲ擊退スルヲ要ス縱ヒ狀況不利ナル場合ニ於テモ陣地ニ止リ火砲ト運命ヲ俱ニスヘキモノトス
 第三百一 指揮官ノ死傷多キハ實ニ戰場ニ於ケル常態ナリ故ニ兵卒ハ縱ヒ指揮官ヲ失フニ至ルモ志氣ヲ阻喪スルカ如キコトナク益々勇戰奮闘スルヲ要ス此際戰勝ノ榮譽ヲ獲得シ得ルト否トハ一ニ懸リテ殘存セル者ノ雙肩ニ在ルコトヲ銘肝スヘシ
 第三百二 兵卒ハ戰闘中負傷スルモ百方手段ヲ盡シテ戰闘ヲ繼續スヘシ而シテ遂ニ戰闘ニ堪ヘサルニ至レハ小隊長以上ノ指揮官ノ命ニ依リ徐ロニ後退スヘキモノトス
 第三百三 瓦斯攻撃ヲ受ケルカ或ハ之カ警報ヲ聞ケカ若ハ撒毒シアルヲ豫察シタルトキハ直ニ比隣相傳ヘ別命ヲ待タス各自迅速確實ニ防毒面ヲ裝著スヘシ
 防毒面ノ離脱ハ小隊長以上ノ指揮官ノ命令ニ依ルヲ本則トス
 第三百四 兵卒ハ許可ナク其所屬部隊ヲ離ルルコトヲ得ス若シ任務ヲ帶ヒス或ハ尙戰闘ニ堪ヘ得ヘキ輕傷ニシテ恣ニ所屬部隊ヲ去リ又ハ戰闘中命令ヲ受ケスシテ負傷者ヲ介護若ハ運搬シ其他任務ヲ受ケテ一時所屬部隊ヲ離ルル場合

所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキ
 中隊
 大四四
 練四七
 中隊教練
 演練方式
 編成

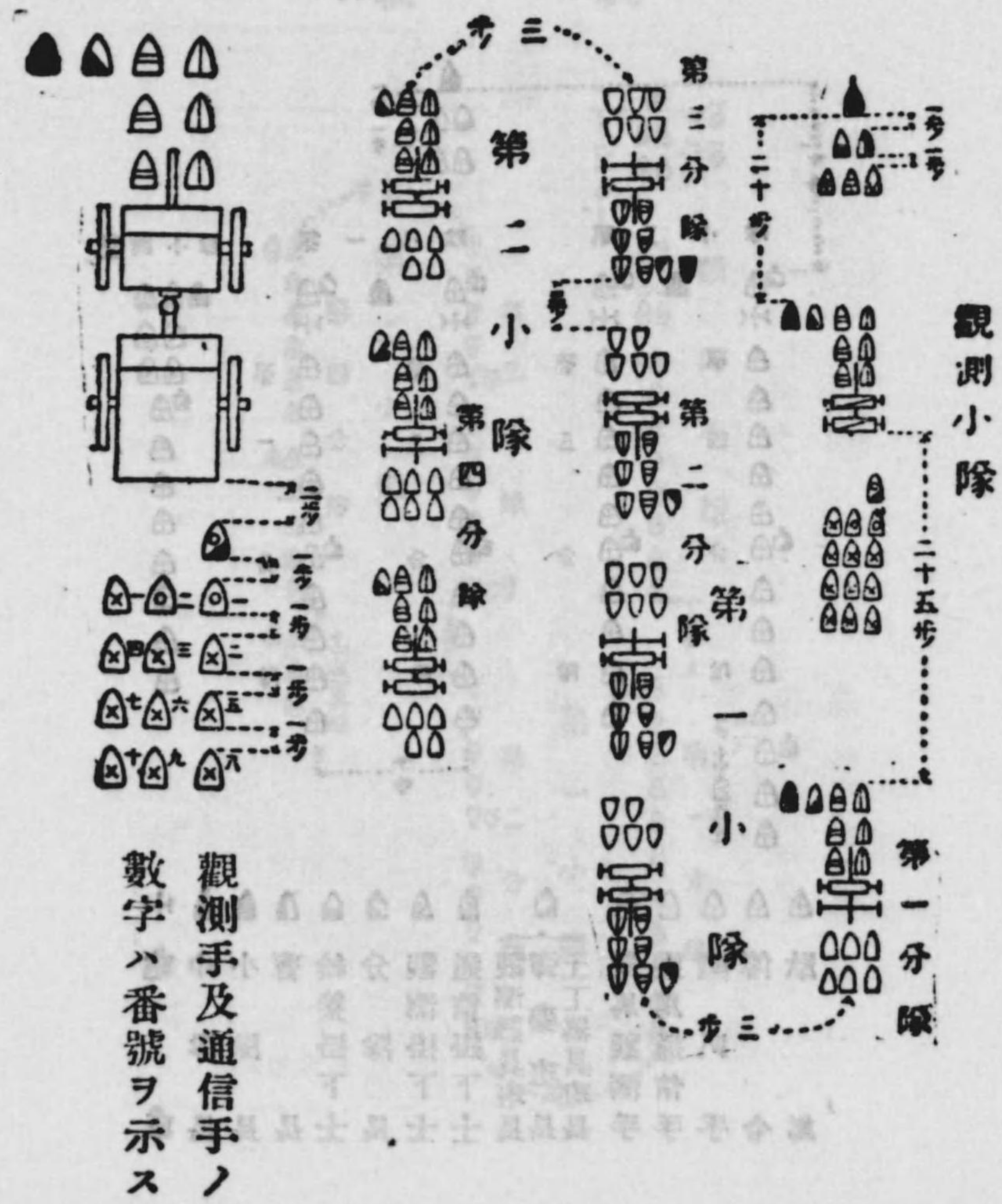
ニ於テモ其任務遂行後速ニ復歸セサルカ如キハ卑怯ノ行爲ニシテ軍人ノ本分ヲ傷ケルモノトス
 兵卒若所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキハ直ニ近傍ニ於テ戰闘スル部隊ニ合シ其將校ニ届告シ其命ニ從フヘシ而シテ戰闘終レハ直ニ其所屬部隊ニ復歸スルヲ要ス

第二篇 中隊教練
 通則

第三百五 中隊ハ戰闘單位ニシテ中隊長ヲ核心トセル志氣結合ノ基礎ナリ乃チ中隊長ハ中隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ衆心一致能ク攻撃精神ヲ發揚シ中隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ其意圖ノ如ク戰闘ヲ實行シ得ル如ク練成スルヲ主眼トス此趣旨ニ基キ善ク訓練セラレタル中隊ハ豫メ修得セサルコトト雖能ク制式及法則ノ適當ナル應用ニ依リ目的ヲ達シ得ルモノトス
 第三百六 中隊教練(騎砲ヲ除ク)ハ通常大隊内ノ中隊トシテ演練スルモノトス然レトモ中隊獨立シテ戰闘スル場合及野山砲ニ在リテハ小隊以下ニ分割シテ戰闘スル場合ヲモ訓練スルヲ要ス
 騎砲中隊教練ハ主トシテ獨立セル中隊トシテ演練スヘキモ小隊以下ニ分割シテ戰闘スル場合及大隊内ノ中隊トシテ戰闘スル場合ヲモ訓練スルコト緊要ナリ

第一章 編成及隊形
 第三百七 中隊ハ觀測小隊、戰砲隊及中隊段列ニ區分ス
 戰砲隊ハ之ヲ左ノ如ク區分ス但放列ニ在リテハ小隊ハ通常右(左)小隊ト呼ビ

圖一十三第 圖 十 三 第
隊小測觀砲騎 隊縱砲騎



圖九十二第 圖八十二第
隊橫砲騎 隊小測觀砲野
車乘

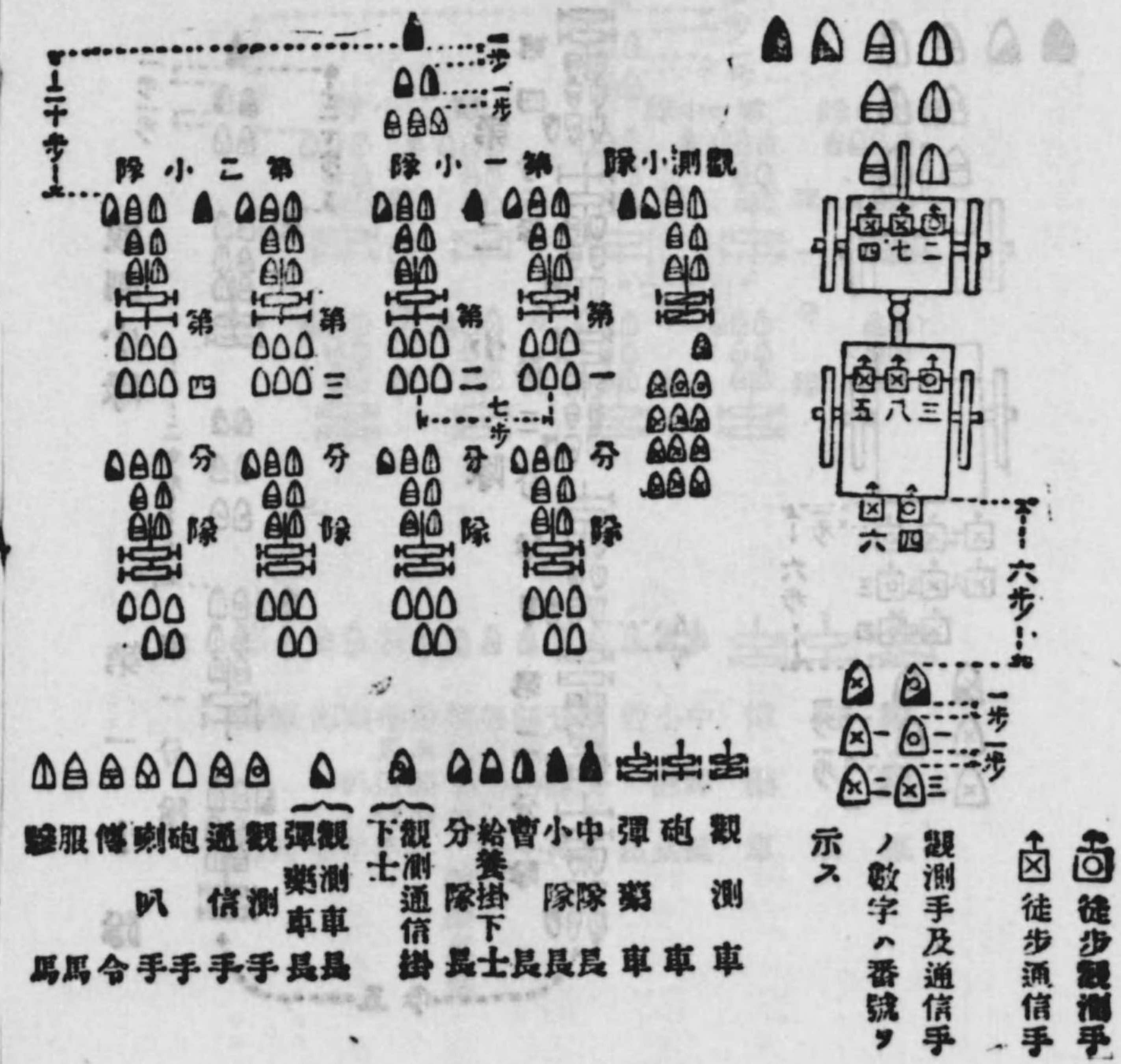


圖 五 十 三 第
隊 橫 櫓 五 十

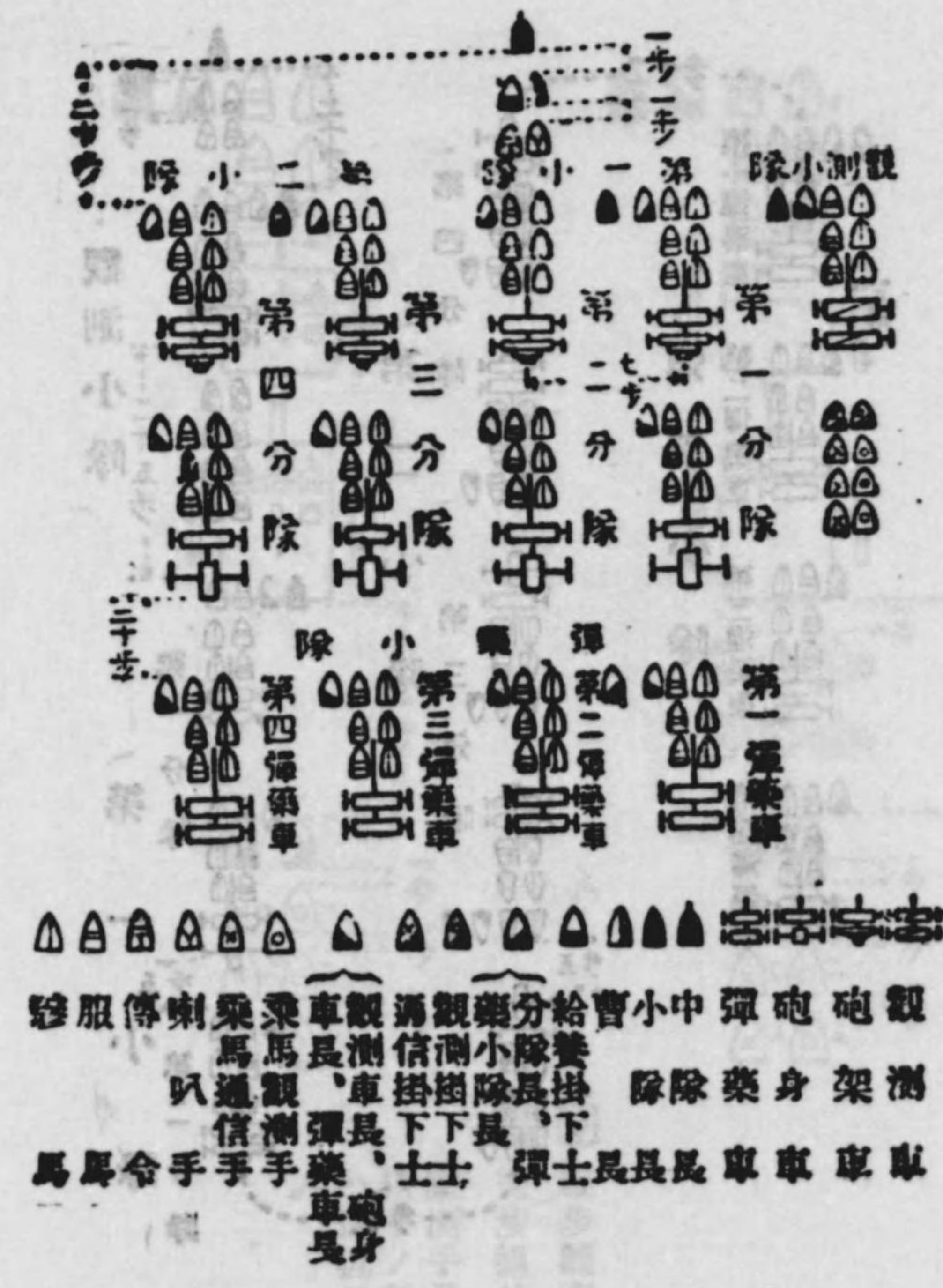
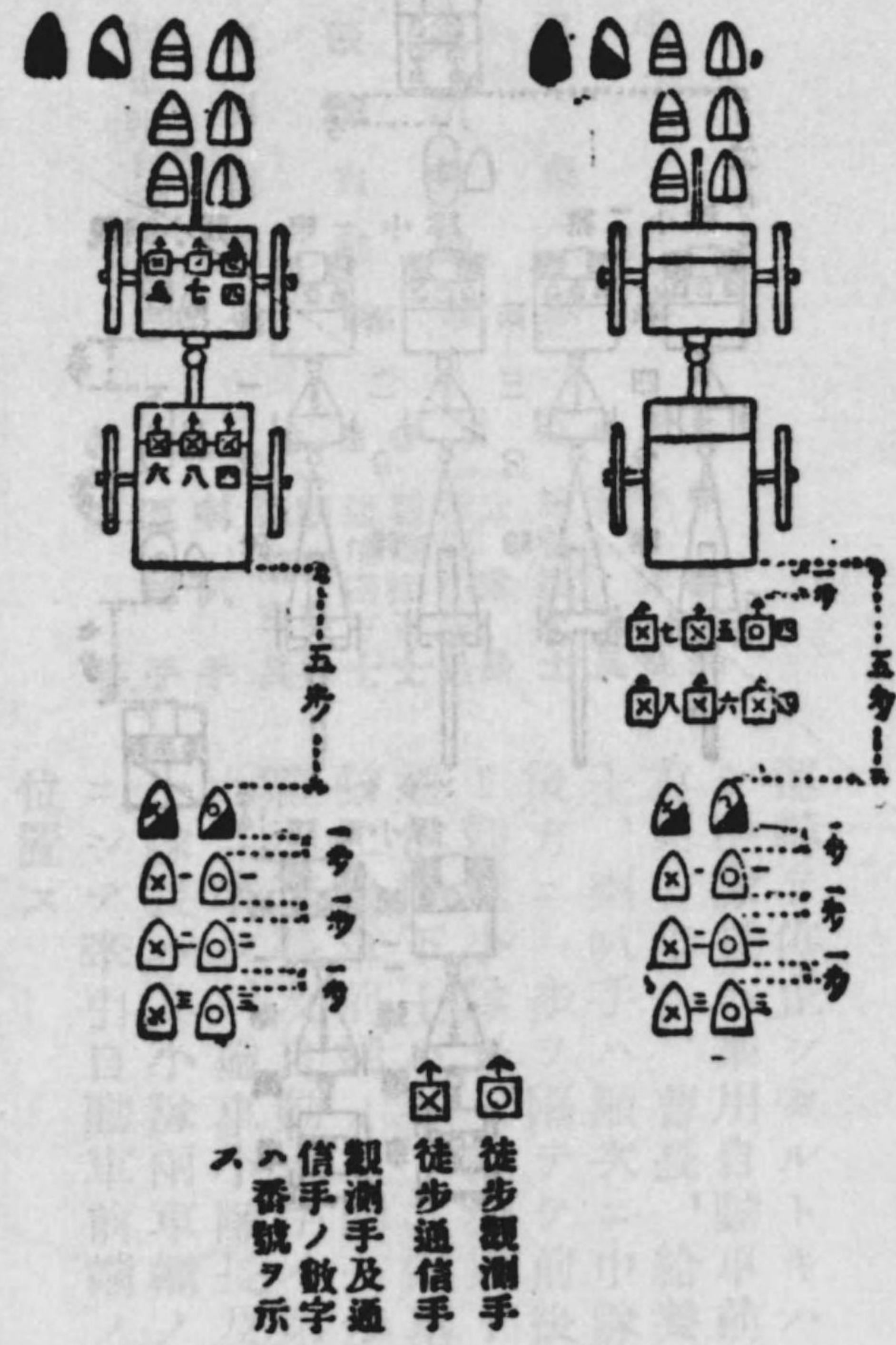


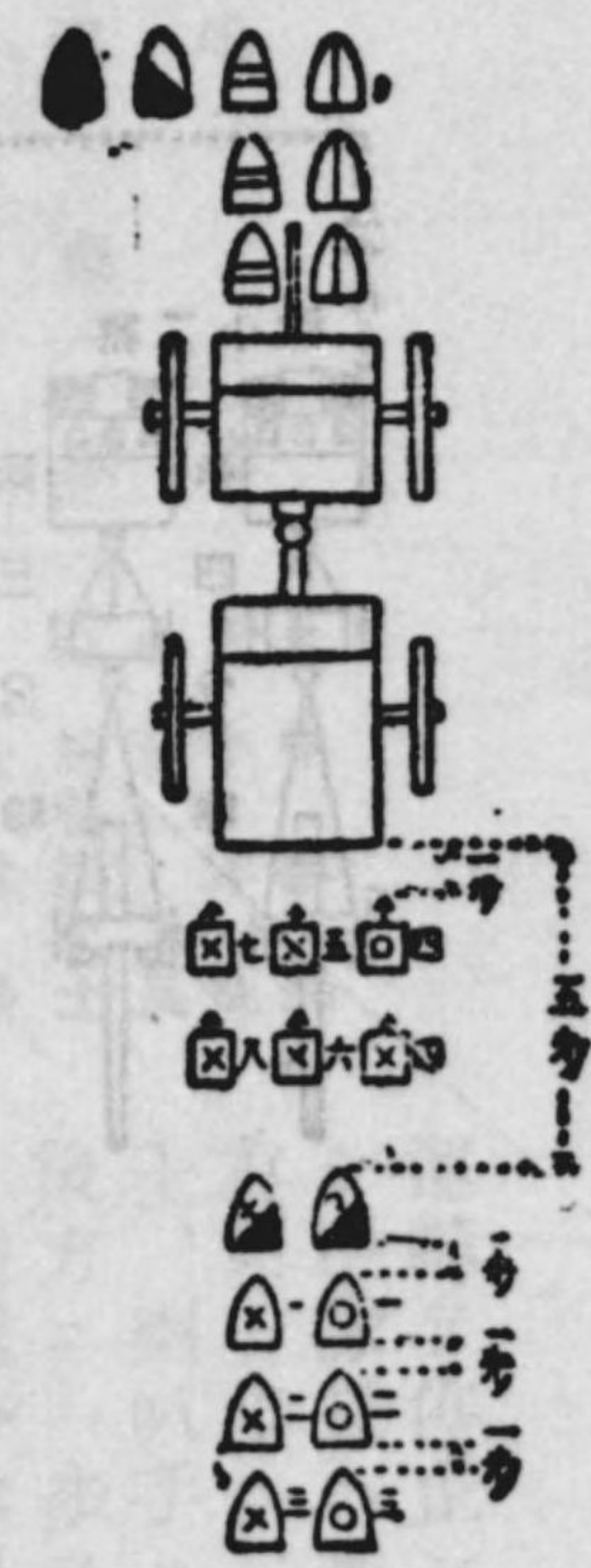
圖 四 十 三 第
隊 小 測 觀 砲 山



圖八十三第
隊小測觀榴五十
車乘

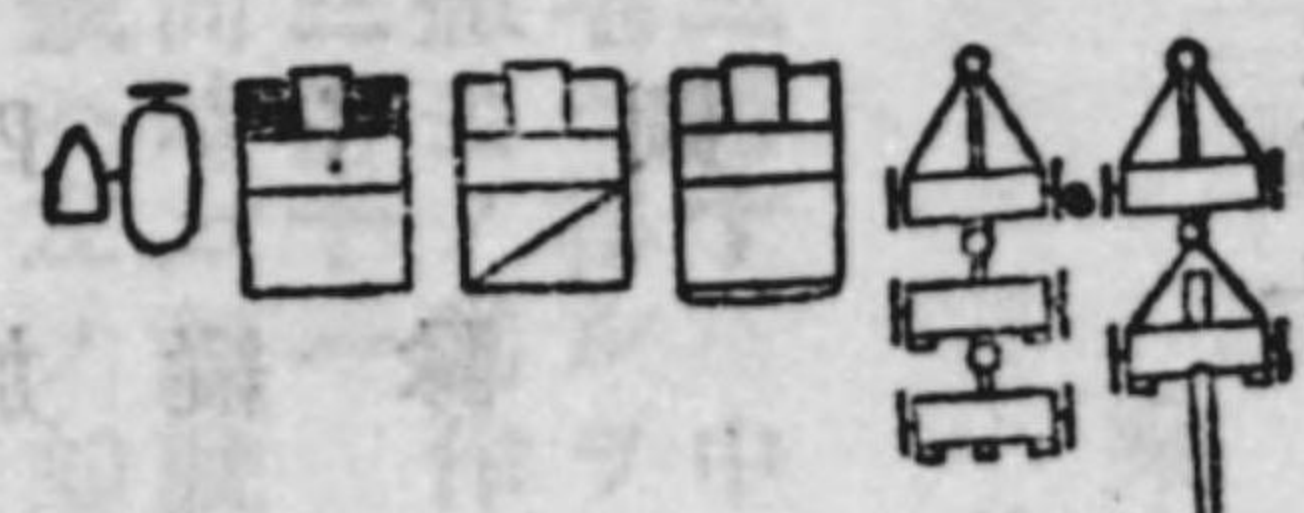


圖七十三第
隊小測觀榴五十
車下



圖六十三第
隊縱榴五十



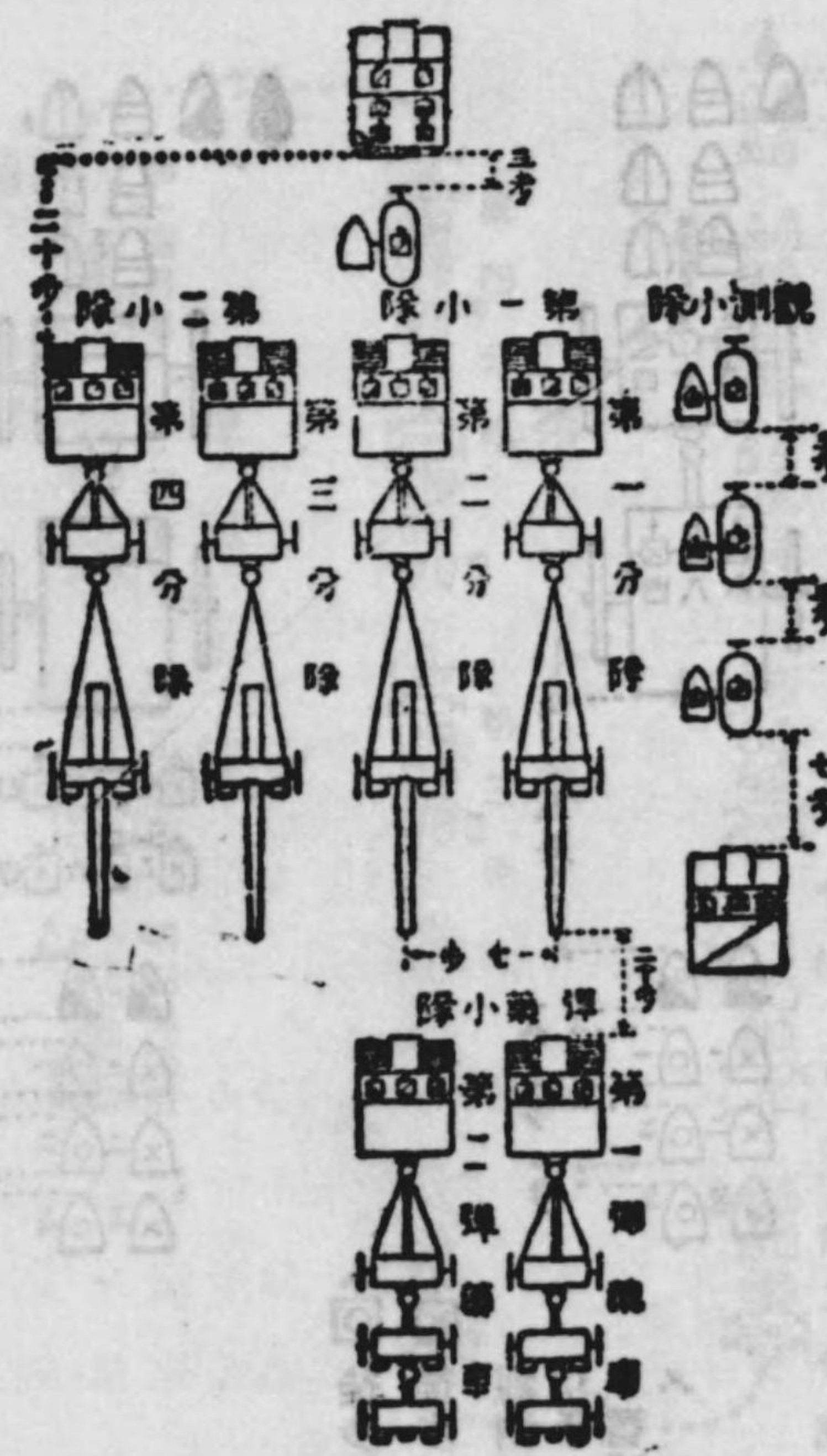


砲藥車
彈藥車
乘用自動車
觀測自動車
牽引自動車
側車附自動二輪車

中隊長
小隊長
曹長
給養掛下士
分隊長
彈藥掛下士
觀測掛下士
通信掛下士
觀測車長
彈藥車長
喇叭手
助運手

運轉ヲ停止シタルトキハ下車
シ中隊長ハ乗用自動車前
右側一步ニ、曹長、給養掛下
士、喇叭手ハ順次ニ中隊長ノ
後方ニ一步ヲ隔テテ前後ニ重
リ觀測小隊長、觀測掛下士、
通信掛下士ハ各、其側車附自
動二輪車前ノ左側一步ニ、
觀測車長及自動車手ハ第二
九ニ準シ、砲車小隊長及彈藥
小隊長ハ其小隊兩車輛ノ中央
ニシテ牽引自動車前ノ線ニ
位置ス

第三圖 九十 三 第 八 圖
隊 橫 加 十



號號運
令動
並ノ
記爲

要旨

第三百十 中隊ハ中隊長ノ指揮ニ從ヒ整齊確實ニ運動ヲ行ヒ尙長時間ノ劇動
ニ堪ヘ得ルヲ要ス之カ爲テ齊一ナル歩度ノ持續、不齊地ノ通過並放列布置
及撤去ノ動作ニ習熟セサルヘカラス
第三百十一 野、騎、山砲及十五榴ノ運動ハ通常號令ヲ以テ之ヲ行ヒ要スレ
ハ同時ニ記號ヲ爲シ或ハ單ニ記號ノミヲ以テ行フコトアリ
記號ハ左ノ如ク行ヒ停止及放列布置ヲ除クノ外此記號ヲ以テ豫令トシ舊ニ復
スルヲ以テ動令トス而シテ抜刀シアルトキハ右臂ヲ刀ト共ニ動カスモノトス
直行進及歩度ノ増加 右臂ヲ垂直ニ舉ケ行進方向ヘ水平ニ出シ之ヲ數回連
續ス
歩度ノ減却 右臂ヲ垂直ニ舉ケ之ヲ數回上下ニ屈伸ス
方向變換 右臂ヲ水平ニ動翼ニ伸ハシ前方ニ半圓形ヲ畫ク

圖二十四第
隊小測觀加十
車乘

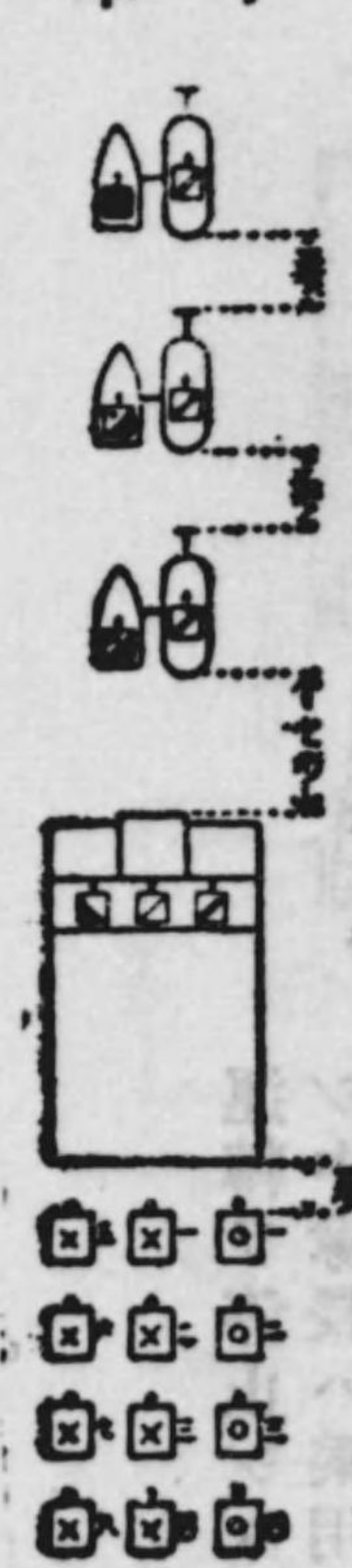


○ 觀測手 (數字ハ書)
□ 通信手 (號ヲ示ス)

第二章 運動

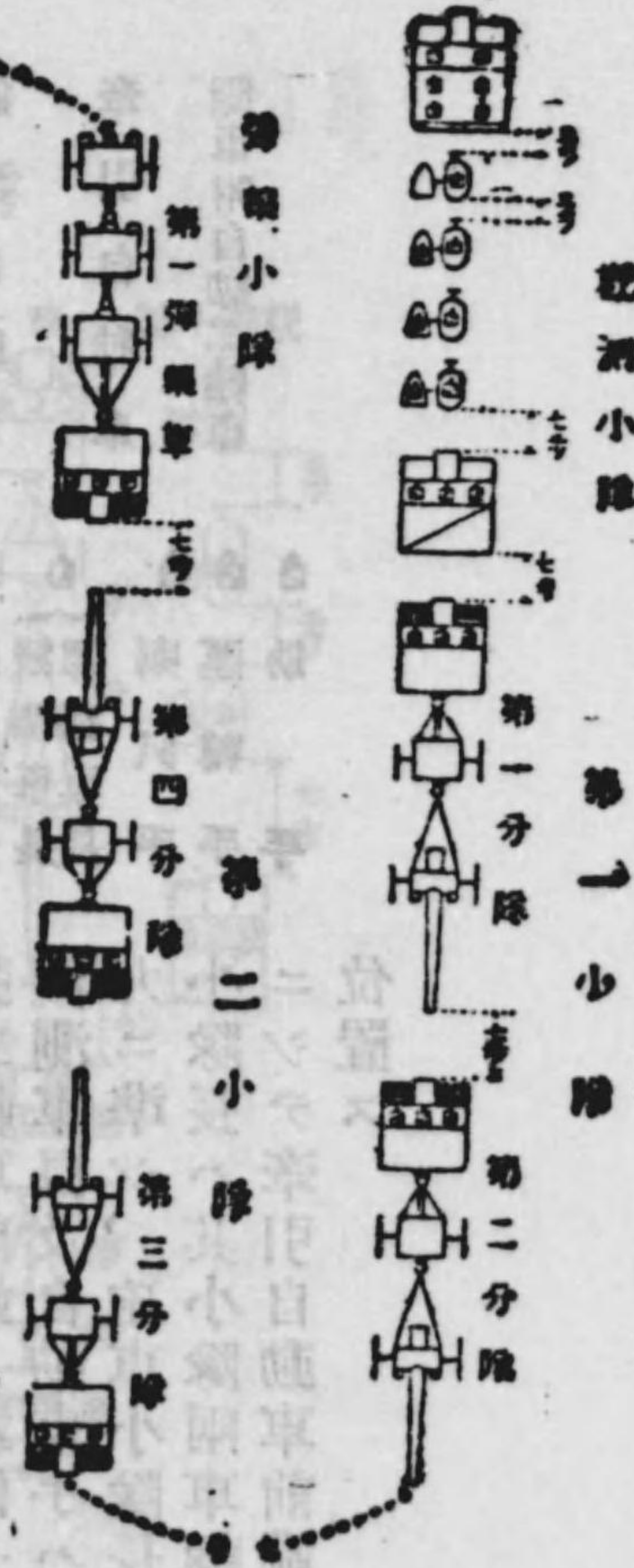
乗車シ得サル觀測手、通信手ノ位置ハ中隊長適宜之ヲ指示ス

圖一十四第
隊小測觀加十
車下



本圖ハ集合隊形ヲ示ス行進間ニ在リテハ通
常戰砲隊各車輛間ノ距離ヲ約二十歩、其他
ノ車輛間ノ距離ヲ約三十歩トス又牽引自動
車ト其他ノ車輛トヲ區分シテ行動セシムル
コトヲ得

圖十四第
隊縱加十



十加ノ運

後向 右臂ヲ高く擧ケ頭上ニテ之ヲ數回後方ニ動カス
 間隔ノ開閉 右臂ヲ水平ニ前方又ハ開閉スヘキ方向ヘ伸ハシ之ヲ數回廻ハ
 前方分解(横隊ヨリ前方ヘ縦隊) 右臂ヲ水平ニ分解スヘキ翼ノ方向ヘ伸ハ
 シ之ヲ數回前後ニ動カス
 側方分解(横隊ヨリ側方ヘ縦隊) 右臂ヲ水平ニ分解スヘキ翼ノ方向ヘ伸ハ
 シ之ヲ數回屈伸ス
 前方及側方排開 前方及側方分解ト同一ノ記號ヲ爲ス
 停止 右臂ヲ垂直ニ擧ケ之ヲ豫令トシ次テ之ヲ下ケ手先ヲ地ニ向クルヲ以
 テ動カトス
 放列布置 右臂ヲ水平ニ敵方ヘ向ケ「放列」ノ動令ト同時ニ停止ノ記號ヲ爲
 ス
 小隊長ハ其小隊ノ爲必要ナル記號ヲ爲シ又要スレハ小隊ノ爲スヘキ動作ヲ指
 示スルコトヲ得
 第三百十二 十加ノ運動ハ通常號令ト之ニ應スル記號トヲ併用シ若ハ單ニ記
 號ノミヲ以テ行フ
 記號ハ通常手又ハ白旗ヲ以テ行ヒ夜間ニ在リテハ綠色燈ヲ以テ手又ハ白旗ニ
 換フルコトアリ
 記號ハ左ニ示スモノノ外第三百十一ニ同シ
 直行進 初メヨリ速歩ニテ行進セシムルニハ右臂ヲ垂直ニ擧ケ左右ニ水平

運動號令

砲廠進入

退去

同十加

分二三
分二六

マテ數回振りタル後再ヒ垂直ニ擧ケ行進方向ヘ水平マテ數回振ル
 始動 右臂ヲ水平ニ前方ニ伸ハシ數回圓形ヲ畫ク
 小隊長ハ其ノ小隊ノ爲必要ナル記號ヲ爲ス
 故障ノ爲停止スル車輛ハ赤旗ヲ高く擧ケ之ヲ左右ニ振ルモノトス夜間ニ在リ
 テハ旗ニ換フルニ赤色燈ヲ以テス又始動完了ノ報告ヲ爲スニハ白旗ヲ垂直ニ
 擧ク
 第三百十三 觀測小隊、砲車小隊、彈藥小隊、前車(山砲馱馬)及中隊段列ノ
 運動ハ本章ノ規定ヲ適用ス但觀測小隊、砲車小隊及彈藥小隊ノ運動ヲ行フト
 キハ號令中「中隊」ノ語ヲ「小隊」ニ又中隊段列ニ在リテハ號令中「中隊」ノ語ヲ
 「段列」ニ換フ
 砲廠進入及退去
 第三百十四 野、騎、山砲及十五榴ノ馬ヲ砲廠ニ進入セシムルニハ各馬ノ距
 離ヲ一步トシ車輛(山砲材料)ノ順序(反對順序)ニ導キ其先頭左(右)翼車輛
 (山砲材料)ノ傍ニ達セントスルトキ號令スルモノトス
 砲廠ヨリ退去スルニ方リ先頭ニアラサル車輛(山砲觀測器具班及分隊)ノ先頭
 ノモノハ先行馬ヨリ一步ノ距離ヲ保ツ如ク行進ヲ起スモノトス
 第三百十五 十加ノ牽引自動車ヲ砲廠ニ進入セシムルニハ各牽引自動車ノ距
 離ヲ七步トシ車輛ノ順序(反對順序)ニ導キ其先頭左(右)翼車輛ノ傍ニ達セン
 トスルトキ號令スルモノトス
 砲廠ヨリ退去スルニ方リ先頭ニアラサル牽引自動車ハ先行車輛ヨリ七步ノ距

整頓ノ完
横隊ノ整

離ヲ保ツ如ク行進ヲ起スモノトス

第三百十六 横隊ニ於ケル整頓完全ナルトキハ野、騎砲及十五榴ニ在リテハ
小隊長、觀測車長、分隊長及前馬馱者、山砲ニ在リテハ最前線ノ各馬頭、十
加ニ在リテハ各自自動車ノ前端ハ整頓線上ニ在リテ間隔ヲ保チ各車輛(山砲觀
測小隊及各分隊)ハ整頓線ト直角ニ位置スルモノトス

整頓ヲ爲スニ方リ特ニ指示ナキトキハ第一小隊長ヲ基準トス
第三百十七 横隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス但十加ニ在リテハ號令
ニ先タチ小隊長、觀測車長、分隊長及彈藥車長ヲ下車セシムルモノトス
小隊長前へ

止レ

「小隊長前へ」ノ號令ニテ小隊長(十五榴及十加彈藥小隊長ヲ除ク)ハ速ニ前進
シ「止レ」ノ號令ニテ停止シ基準タル小隊長ニ整頓ス要スレハ中隊長ハ其位置
ヲ正ス
野、騎砲及十五榴ニ在リテハ「準へ」ノ號令ニテ各車輛ハ前進ヲ起シ觀測車長
ハ其小隊長ノ側ニ到リ又分隊長ハ其小隊長ヨリ間隔ヲ取り整頓線ニ就キ前馬
馱者ハ整頓線ヲ越ユルコトナク觀測車長又ハ分隊長ノ側ニ到リテ停止ス
十五榴ノ彈藥小隊ノ各車輛ハ速度ヲ縮メテ前進シ小隊長及彈藥車長ハ前方車
輛ニ重ル如ク其車輛ヲ導キ砲車隊ノ車輛止ラントスルヤ速ニ横隊ノ位置ニ就

嚮導

キ小隊長ハ要スレハ彈藥車長ノ位置ヲ正ス前馬馱者ハ砲車隊ニ於ケルト同要
領ニ依リ整頓ス
山砲ニ在リテハ「準へ」ノ號令ニテ觀測小隊及各分隊ハ前進ヲ起シ通信掛下士
ハ觀測小隊長ノ側ニ到リ又分隊長ハ其小隊長ヨリ間隔ヲ取り整頓線ニ就キ輪
馬馱者ハ分隊長ノ側ニ到リテ停止ス
十加ニ在リテハ「準へ」ノ號令ニテ各車輛ハ前進ヲ起シ觀測車長及分隊長ハ其
車輛ヲ誘導シ分隊長ハ其小隊長ヨリ間隔ヲ取り車輛ヲ整頓線ニ就カシム彈藥
小隊ノ各車輛ハ速度ヲ縮メテ前進シ小隊長及彈藥車長ハ前方車輛ニ重ル如ク
其車輛ヲ導キ横隊ノ位置ニ就カシム小隊長、觀測車長、分隊長及彈藥車長ハ
中隊長ノ命令ニ依リ乗車ス

行進

第三百十八 横隊行進ニ在リテハ第一小隊長(十加右翼分隊)ヲ、縱隊行進ニ
在リテハ先頭小隊長(十加車輛)ヲ嚮導トス
中隊長ハ號令ヲ下スニ先タチ通常行進目標或ハ行進方向ヲ嚮導ニ示ス
中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ハ正規ノ速度ヲ以テ示サレタル目標或ハ方向ニ
向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス
行進間横隊ニ在リテハ嚮導ヲ以テ整頓ノ基準トシ又野、騎、山砲及十五榴ノ縱
隊ニ在リテハ先頭車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)ハ嚮導ニ準ヒ其他ノ車輛(山
砲分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ先行車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)ニ重リテ定
距離ヲ保チ十加ノ縱隊ニ在リテハ嚮導以外ノ車輛ハ先行車輛ニ重リテ定距離

停止

ヲ保ツ
行進間整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ距離間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ之ヲ恢
復ス
縱隊行進間後向ヲ爲セハ砲車小隊長(十五榴砲車小隊長及彈藥小隊長、十加ヲ
除ク)ハ新方向ニ於ケル定位ニ就ク
第三百十九 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
中隊ハ停止ス

要旨

所要間隔

間隔ノ開閉、方向變換及隊形變換
第三百二十 間隔ノ開閉、橫隊ノ方向變換及隊形變換ハ駈歩(山砲速歩)行進
間之ヲ行フコトナシ
間隔ノ開閉、方向變換及隊形變換ヲ停止間ヨリ行フニハ常歩行進間ト同一ニ
動作ス
橫隊ニ於テテ方向變換ヲ行ヒ或ハ縱隊ヨリ橫隊ニ移ル場合同時ニ所望ノ間隔ヲ
取ラシムルニハ號令ニ冠スルニ「間隔何歩」ヲ以テス
第三百二十一 所望ノ間隔ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
間隔河歩
嚮導ハ直進ス觀測小隊及各分隊ハ速度ヲ伸ハシ嚮導ノ方ヨリ所命ノ間隔ヲ取
ル如ク行進シ嚮導ト同線上ニ達セントスルトキ速度ヲ舊ニ復ス
十五榴及十加ノ彈藥小隊ノ各車輛ハ砲車隊ノ車輛ニ準シテ間隔ヲ取ル

方向變換

橫隊ヨリ
前方分解

橫隊ヨリ
側方分解

第三百二十二 方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)ニ方向ヲ換ヘ進メ
橫隊ニ在リテハ軸翼車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ
其他ノ車輛(山砲分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜速度ヲ伸ハシ又ハ速度ヲ換
ヘ捷路ヲ經テ逐次ニ橫隊線ニ就ク但十加ノ速歩間ニ在リテハ軸翼車輛ハ速度
ヲ縮メテ右(左)向ヲ爲シ其他ノ車輛ハ適宜速度ヲ伸ハシ十五榴及十加ノ彈藥
小隊ハ砲車隊ト同所ニ到リ之ト同要領ニ依リ方向ヲ換ヘ砲車隊ニ續行ス
前項ノ運動間基準ハ軸翼車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)トス
縱隊ニ在リテハ先頭車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ
其他ノ車輛(山砲分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ先頭車輛(山砲觀測小隊又ハ分
隊)ト同所ニ到リ逐次ニ方向ヲ換フ
少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標若ハ新方向ヲ示ス
第三百二十三 橫隊ヨリ前方分解ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)前へ縱隊 進メ
豫令ニテ砲車小隊長(十五榴砲車小隊長及彈藥小隊長、十加ヲ除ク)ハ右(左)
分隊長(十五榴分隊長又ハ彈藥車長)ノ側ニ到ル動令ニテ右(左)翼車輛(山砲
觀測小隊又ハ分隊)ハ直進シ其他ノ車輛(山砲分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適
宜縱隊線ニ入ル
第三百二十四 橫隊ヨリ側方分解ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)へ縱隊 進メ

前縦隊ヨリ
前方排開

側縦隊ヨリ
側方排開

要旨

第三百二十三ノ要領ニ依リ動作ス但右(左)翼車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊ハ右(左)向ヲ爲シテ直進ス

第三百二十五 縱隊ヨリ前方排開ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)へ前面核隊 進メ

先頭車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)ハ直進シ其他ノ車輛(山砲分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜右(左)前方ニ進ミ逐次ニ橫隊線ニ就ク

十五榴及十加ノ彈藥小隊ハ適宜前進シ砲車隊ト同要領ニ依リ橫隊ノ位置ニ就ク

第三百二十六 縱隊ヨリ側方排開ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)核隊 進メ

先頭車輛(山砲觀測小隊又ハ分隊)ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ車輛(山砲分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜橫隊線ニ就ク

十五榴及十加ノ彈藥小隊ト同所ニ到リ之ト同要領ニ依リ橫隊ヲ作り砲車隊ニ追及ス

放列布置及撤去

第三百二十七 放列布置ニ方リ中隊長ハ自己及隨從者ノ乘馬(十加車輛)、觀測車(山砲觀測器具班、十加觀測小隊ノ車輛)ノ位置ヲ示シ又下士(前車(山砲馬)ノ指揮官)ヲシテ放列ニ留メサル車輛ヲ中隊段列若ハ所望ノ位置ニ導カシム此際野、騎砲ニ在リテハ要スレハ彈藥車前車ノ彈藥ヲ卸下シ所望ノ地點ニ集積セシム

放列布置
分一老
分二三

段列其他

第三百二十八 放列布置ニ方リ野、騎、山砲及十五榴ノ砲車小隊長ハ其馬ヲ己ニ近キ中馬(山砲輪馬)馭者ニ渡ス

各分隊ハ其占ムヘキ位置ニ到リ放列ヲ布置ス此際先頭ニアラサル分隊ハ現在ノ歩度ヲ變換スルトコトナシ又山砲ノ土工器具班長ハ所命ノ器具ヲ卸下ス

野、騎砲ノ彈藥車長、十五榴ノ砲身車長ハ前車及馬ヲ、山砲ノ彈藥班長及土工器具班長ハ馬ヲ導キ前車(山砲馬)ノ指揮官ノ示ス位置ニ到リ其指揮ヲ受ク但野、騎、山砲ノ先頭彈藥車長(山砲彈藥班長)ハ放列ニ留メサル砲手ヲ導キ別命ナケレハ前車(山砲馬)ノ位置ニ到ル

十加ノ分隊ノ運轉手ハ前車ヲ導キ前車ノ指揮官ノ示ス位置ニ到リ其指揮ヲ受ク

前車(山砲馬)ノ指揮官ハ車馬ヲ誘導シテ中隊段列長ノ指揮ニ屬セシム

第三百二十九 放列布置ニ方リ野、騎、山砲ノ中隊長ハ中隊段列ヨリ來ル彈藥車(山砲彈藥班)ノ位置ヲ武器掛下士ニ示シ武器掛下士ハ之ヲ所命ノ位置ニ就カシメ其馬ヲ中隊段列ノ位置ニ到ラシム

十五榴及十加ノ彈藥小隊ハ通常放列陣地ニ卸下スルモノトス之カ爲彈藥小隊長ハ所命ノ位置若ハ放列ノ後方適宜ノ位置ニ彈藥車ヲ導キ彈藥及補助防楯(十加彈藥)ヲ卸下シ要スレハ整備ニ任スル若干ノ人員ヲ殘置シ其他ノモノヲ指揮シテ中隊段列ノ位置ニ到リ段列長ノ指揮ヲ受ク若彈藥ヲ卸下セサルトキハ彈藥小隊長ハ彈藥車ヲ所命ノ位置ニ配置シ自ラ若干ノ人員ト共ニ放列ニ留リ彈藥ノ出納ニ任シ其他ノモノヲ中隊段列ノ位置ニ到ラシム

放列撤去

第三百三十 野、騎、山砲ノ中隊長ハ放列撤去ニ先タチ放列陣地ニ留メサリシ砲手ヲ招致シ前車(山砲馱馬)ノ指揮官ヲシテ車馬ヲ放列陣地ニ誘導セシメ又適時武器掛下士要スレハ中隊段列長ニ彈藥ニ關シ命令スルモノトス

第三章 陣地偵察

第三百三十一 中隊長ハ陣地偵察ノ爲先行スルニ方リ通常觀測小隊ノ一部其他所要ノ人員ヲ伴フモノトス

先行 大砲宅 第三百三十二 觀測小隊長ハ中隊長ニ隨行スルニ方リ野、騎、山砲及十五榴ニ在リテハ通常挺進班(觀測掛下士及通信掛下士(騎砲觀測通信掛下士)所要ノ觀測手並通信手)ヲ、十加ニ在リテハ觀測掛下士及通信掛下士要スレハ觀測小隊ノ大部ヲ伴フモノトス

中隊長ノ指 第三百三十三 中隊長ハ陣地偵察ノ爲中隊ヲ離ルルニ方リ中隊長ノ指揮官ヲ定メ之ニ中隊ノ前進路、到着地點及行進速度等ヲ命令スルモノトス

陣地偵察 第三百三十四 陣地偵察ニ方リ中隊長ハ任務ニ基キ狀況特ニ地形ヲ考慮シ陣地ニ具備スヘキ諸性能ノ何レニ重キヲ置クヘキヤヲ定ムルヲ要ス而シテ狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ概ネ戰闘ノ要求ヲ充タシ得ル觀測所及射界ヲ以テ満足セサルヘカラサルコトアリ

陣地偵察

第三百三十五 陣地偵察ハ中隊長自ラ其大部ヲ實施シ部下ヲシテ其一部ヲ補助セシムルヲ通常トシ狀況急ヲ要スル場合ニ於テモ觀測所及放列陣地ノ偵察ハ勉メテ中隊長自ラ之ヲ行フヘキモノトス

偵察事項

中隊ノ陣地偵察ニ於テ偵察スヘキ主要ナル事項左ノ如シ
觀測所要スレハ補助觀測所
放列陣地
進入路

中隊段列ノ位置
射擊諸元ノ決定、敵情搜索、射彈觀測及連絡ノ施設並陣地設備等ニ關シテハ前項ノ事項ニ關聯シテ所要ノ偵察ヲ行フモノトス

觀測所

第三百三十六 觀測所ハ射彈觀測ニ適シ戰況ノ觀察ニ便ニシテ且成ルヘク放列陣地ニ近ク互ニ通視シ得相互ノ連絡容易ナル場所ニ選定スルヲ要ス而シテ狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ觀測所ト放列陣地トハ互ニ近接シアルコト特ニ緊要ナリ

戰況ノ推移ニ應シ一箇ノ觀測所ニ於テ目的ヲ達シ得サル場合ヲ顧慮シ要スレハ豫メ他ニ之ヲ選定シテ中隊長適時移動シ得ルノ準備ヲ爲シ又所要ニ應シ觀測ヲ補助セシムル爲別ニ補助觀測所ヲ設クルモノトス特ニ戰車射擊ニ任スヘキ場合ニ於テハ敵ノ目潰ノ爲ノ射擊ニ對シテモ能ク任務ヲ遂行シ得ル如ク準備スルコト緊要ナリ

原九〇七

原九〇八

觀測所及補助觀測所ノ位置決定スルヤ此等ニ於ケル人員及器材ノ配置、通信

中隊長以下ノ馬車ノ位置

所ノ位置並各方面トノ連絡法等ヲ定ムルヲ要ス
觀測所内部ノ配置ハ敵ノ搜索ヲ困難ナラシメ且敵火ノ效力ヲ減殺スル爲地形ヲ利用シテ適宜之ヲ分散セシムルモノトス而シテ射撃指揮用ノ通信所ハ直接中隊長ト連絡シ得ル位置ニ選定スルコト緊要ナリ
第三百三十七 中隊長及隨從者ノ乘馬(十加車輛)並觀測小隊ノ車馬ノ位置ハ敵眼、敵火ニ掩蔽シ且爾後ニ於ケル車馬ノ使用ニ便ナルコトヲ顧慮シ觀測所ノ近傍ニ選定スルモノトス
第三百三十八 放列陣地ハ戰況ノ推移ニ應シ能ク任務ヲ達成シ得ル如ク之ヲ選定スルモノトス之カ爲顧慮スヘキ要件左ノ如シ
任務ニ適應スル射界ヲ有スルコト
地幅十分ナルコト
指揮及連絡容易ナルコト
進入及進出容易ナルコト
敵眼、敵火ニ掩蔽シアルコト
射向附與容易ナルコト
陣地設備ニ便ナルコト
彈藥補充ニ便ナルコト
瓦斯ノ滯留セサルコト
前地ヲ至近ノ距離マテ射撃スルヲ要スルカ或ハ戰車射撃ニ任スヘキ場合ニ於テハ要スルハ放列陣地附近ニ於テ迅速ニ進入シ得ル豫備陣地ヲ豫メ偵察シ且

各砲列ノ位置

標點

定標點ノ選

所要ノ準備ヲ爲シ置クモノトス
第三百三十九 放列陣地ニ於ケル各砲車ハ敵ノ搜索特ニ空中搜索ヲ困難ナラシメ且敵火ノ效力ヲ減殺スル爲勉メテ地形ヲ利用シ不規則ニ配置スルヲ要ス然レトモ之カ爲相互ニ射撃ヲ妨害シ或ハ過度ニ分散シテ射撃指揮ヲ困難ナラシムルカ如キコトアルヘカラス而シテ中隊ノ正面ハ己ムラ得サルモ百米ヲ超エサルヲ可トス
戰車射撃ノ爲友軍歩兵ノ前線附近ニ位置スヘキ場合ニ於テハ戰車ノ前進地域ニ對シ距離ニ於テ十分ナル威力ヲ發揚シ且射撃開始ノ直前ニ至ルマテ全ク敵眼、敵火ニ掩蔽シ得ル如ク小隊又ハ分隊毎ニ分置スルヲ通常トス
放列陣地ニ於ケル通信所ハ高級先任ノ砲車小隊長トノ連絡確實ニシテ且車馬ノ出入ニ際シ通信ヲ妨害セラレサル位置ニ選定スルモノトス
第三百四十 觀測所及補助觀測所並放列陣地ノ偵察ト同時ニ狀況ニ適應スル如ク射撃諸元決定ノ要領ヲ定ムルヲ要ス之カ爲通常中隊ノ首線ノ方向ニ近ク一標點ヲ選定シ之ニ對スル基準砲車ノ射向附與法並射向東ノ成形法ヲ定メ又適時他ノ標點ヲ選定シテ之ニ對スル射撃諸元ノ決定法ヲ定ムルモノトス尙大隊ノ測地成果ヲ使用スル場合ニハ觀測所、補助觀測所及基準砲車ノ位置並照準點方位角ノ測定法等ヲ定ムルモノトス
第三百四十一 標點ハ射向操縦ニ便ナル如クハ砲車ノ射向ヲ保留シ又ハ豫メ之ニ對シ決定セル射撃諸元ヲ基準トシテ爾後射撃スヘキ目標ニ對スル射撃諸元ノ決定ヲ容易ナラシムル爲選定スルモノトス之カ爲標點ハ發見容易ニシテ

埋藏變位ノ虞ナク且目標又ハ其現出ヲ豫想スル地點ノ附近ニ選定スルヲ可トス
 標點ノ數ハ戰況、地形、中隊ノ任務、觀測所ト放列陣地トノ離隔ノ度等ニ依
 リ異ナルモ過度ニ多キトキハ過誤ヲ生シ易キヲ以テ目標ニ對スル射擊諸元決
 定ノ精度ヲ顧慮シテ決定スルヲ要ス此際要スレハ符號又ハ番號ヲ附スルモノ
 トス
 第三百四十二 照準點ノ適否ハ照準ノ難易及射擊ノ精度ニ影響スルコト大ナ
 ルヲ以テ勉メテ左ノ要件ヲ具備セル地物ヲ選定スルヲ要ス
 各砲車ヨリ通視シ得ルコト
 明瞭ニシテ附近ニ類似セルモノナク發見及照準容易ナルコト
 放列陣地ヨリ成ルヘク遠隔シアルコト
 埋藏變位ノ虞ナキコト
 各砲車同一點ヲ照準シ得ル如ク成ルヘク一點ナルコト
 防楯ニ依リ照準ヲ妨ケス且成ルヘク後方ナルコト
 照準線ノ俯仰角ハ成ルヘク上下各、百密位(十五櫓及十加百七十密位)以內
 ナルコト
 第三百四十三 野、騎、山砲ノ中隊段列ヨリ放列陣地ニ派遣スヘキ彈藥車(山
 砲彈藥班)ノ位置竝十五櫓及十加ノ彈藥小隊ノ彈藥卸下地又ハ彈藥車ノ位置
 ハ勉メテ敵眼、敵火ニ掩蔽シ且彈藥ヲ砲側ニ搬送スルニ便ナル場所ニ之ヲ選
 定スルモノトス

彈藥集積所ヲ設クル場合ニ於テハ前項ニ準シ選定スルヲ要スルモ特ニ濕氣ニ
 對スル防護確實ナルコトヲ顧慮スヘキモノトス又彈藥集積所ハ地形、集積ス
 ヘキ彈藥ノ種類及數量等ヲ顧慮シテ適宜之ヲ分置シ以テ敵火ニ依ル彈藥爆發
 ノ危害ヲ制限スルコトヲ肝要ナリ
 第三百四十四 進入路ハ機ヲ失セス陣地ヲ占領シ得ルコトヲ主トシ且成ルヘ
 ク掩蔽良好ニシテ行動容易ナルモノヲ選定スルヲ要ス而シテ進入路ハ通常爾
 後ノ彈藥補充路トシテ使用セラルルコトヲ顧慮スルヲ要ス
 進入路ノ偵察ト共ニ進入ノ方法及時機竝前車(山砲馱馬)ノ撤退法等ヲ決定ス
 ルモノトス
 第三百四十五 中隊段列ノ位置ハ成ルヘク敵眼、敵火ニ掩蔽シ放列陣地及大
 隊段列トノ交通容易ニシテ車馬ノ出入竝自衛ニ便ナル場所ニ選定スルヲ要
 ス
 中隊段列ト放列陣地トノ距離ハ狀況特ニ地形ニ依リ異ナルモ成ルヘク近接セ
 シムルヲ可トス然レトモ豫メ彈藥ヲ放列陣地ニ集積シ中隊段列ヲ放列陣地ヨ
 リ遠隔セシムルヲ有利トスルコトアリ
 放列陣地ニ留メサル戰砲隊ノ車馬ハ中隊段列ト同所ニ位置セシムルヲ通常ト
 ス然レトモ狀況特ニ地形ニ依リ之ヲ分置スルヲ可トスルコトアリ

第四章 陣地占領

第三百四十六 要則
 中隊長ハ陣地偵察ヲ終ルヤ觀測小隊長ニ所要ノ命令ヲ與ヘ又

陣地占領
動作
陣地占領
終了報告
警戒
瓦斯防護

觀測小隊
命令

大隊長
諸報告

中隊段列長ニ段列ノ位置其他彈藥補充等ニ關スル事項ヲ命令シ適時中隊ヲ陣地ニ進入セシムルモトス
第三百四十七 陣地占領ニ關スル動作特ニ射撃ノ諸準備ノ程度ハ狀況ニ依リ差異アルモ機ヲ失セス射撃ヲ開始シ得ルコトヲ主眼トセサルヘカラス又狀況ノ變化ニ對應センカ爲中隊長ハ陣地進入後速ニ方向準備(中隊ノ射向ヲ所望ノ方向ニ向クルコト)ヲ完了スルコト緊要ナリ
第三百四十八 陣地占領ヲ終ルヤ中隊長ハ直ニ之ヲ大隊長ニ報告スルヲ要ス
第三百四十九 中隊長ハ自衛ノ爲要スレハ斥候ヲ派遣シ或ハ歩哨ヲ配置シテ警戒セシメ其他所要ノ處置ヲ講スルモトス
瓦斯防護ノ必要アルトキハ幹部ハ機ヲ失セス之ニ應スル處置ヲ爲スコト肝要ナリ

第一節 射撃諸元ノ決定、敵情搜索、射撃觀測及連絡ノ施設
第三百五十 中隊長ハ觀測小隊長ニ觀測所、補助觀測所及砲車ノ位置、基點、標點及照準點、射撃諸元決定ノ方法及其完了ノ時機、敵情搜索及射撃觀測ノ爲特ニ必要ナル事項、連絡箇所、連絡法、通信網構成ノ順序及完成時機等ニ關シ所要ノ事項ヲ命令シ作業ニ著手セシムルモトス
第三百五十一 中隊長ハ中隊ノ射界及觀測所ノ視界ニ就キ成ルヘク速ニ其概要ヲ大隊長ニ報告シ爾後其詳細ヲ報告スルモトス
中隊長ハ通信設備完成セハ通信網ノ概要及殘餘ノ人員、器材等ヲ大隊長ニ報告シ又觀測所、補助觀測所及砲車ノ位置等ヲ測定シタルトキハ所要ノ諸元ヲ

觀測小隊
長ノ施設

觀測小隊
長ノ命令

報告スルモノトス

第三百五十二 觀測小隊長ハ中隊長ノ命令ニ基キ適時觀測掛下士及通信掛下士(騎砲觀測通信掛下士)並觀測車長(山砲觀測器具班長)以下ニ命令ヲ與ヘ觀測車(山砲觀測器具班十加觀測自動車)ヲ招致スルト共ニ射撃諸元ノ決定、敵情搜索並射撃觀測及連絡ノ施設ヲ實施スルモトス

挺進班ノミヲ以テ先少所要ノ施設ヲ行フ場合ニ於テハ觀測小隊長ハ其人員、器材ヲ以テ當初ノ戰闘實行ニ支障ナキ如ク所要ノ作業ヲ實施シ觀測車(山砲觀測器具班)ノ到着ヲ待チテ逐次ニ之ヲ完成スルモトス

觀測小隊長ハ作業進捗ノ狀況ヲ時々中隊長ニ報告スルモトス
第三百五十三 觀測小隊長ハ作業實施ノ爲觀測掛下士及通信掛下士(騎砲觀測通信掛下士)以下ニ左記事項中所要ノ事項ヲ命令スルモトス

觀測所、補助觀測所及基準砲車其他ノ砲車ノ位置
基點、標點若ハ目標
照準點、射向附與法並射向束ノ成形法
射距離及高低角ノ測定法
通信所ノ位置、通信ノ種類、電話線路
作業ノ順序及完成時機
氣溫、氣壓、地上風ノ測定等

大隊長ノ測地成果ヲ使用スル場合ニハ前項ノ外陣地基準點及方向基線其他必要ナル地點若ハ目標ノ諸元、觀測所、補助觀測所及砲車ノ位置並照準點方位角

中隊ノ射

ノ測定法等ヲ命令スルヲ要ス
第三百五十四 射撃諸元ノ決定ニ方リテハ機ヲ失セズ確實ニ中隊ノ射向ヲ掌
握スルコト特ニ緊要ナリ而シテ基準砲車ノ射向附與法竝射向東ノ成形法ハ狀
況特ニ地形、使用シ得ヘキ時間、中隊ノ配置等ヲ考慮シ之ヲ決定スルモノト
ス

偵察

第三百五十五 射撃諸元決定ノ爲ニハ通常右翼砲車ヲ基準トス
第三百五十六 觀測小隊長ハ下士以下ヲ補助トシ敵情搜索ニ任スルモノト
ス
下士以下ヲシテ敵情ヲ搜索セシムルニハ之ニ搜索區域、搜索ノ目的及方法、
基點、標點要スレハ測角基點等ヲ明示スルモノトス而シテ間斷アル觀察若
ハ廣正面ニ對スル漫然タル觀察ハ價值少キヲ以テ搜索區域ハ適當ニ之ヲ制限
スルヲ要ス

敵情偵察

第三百五十七 敵情搜索ニ方リテハ目標ノ位置及狀態、目標附近ノ地形、目
標ト主要ナル地物トノ關係等ヲ詳ニスルヲ要ス之カ爲地圖竝他ノ搜索ニ任ス
ル者ノ觀察爲シ得レハ空中搜索ノ結果等ヲ利用スルヲ可トス
我カ射撃ノ景況モ亦目標ノ位置及狀態竝目標附近ノ地形ヲ判定スルノ資料ト
ナリ又目標附近ノ地形特ニ道路ノ關係竝交通ノ狀態ハ往々遮蔽セル目標位置
判定ノ基礎トナルヲ以テ此等ヲ利用スルノ著意緊要ナリ
遮蔽セル目標位置ヲ探求シ能ハサル場合ニ於テハ目標ノ存在ヲ推定スル地域
ノ範圍ヲ成ルヘク縮小シ得ル如ク目標ノ存在シアラサル地域ヲ確ムルコト必
ズ

觀測小隊長ノ設備

第三百五十八 觀測小隊長ハ射撃觀測ノ爲採用スヘキ觀測法ニ應シ所要ノ設
備ヲ爲シ且射撃圖要スレハ寫景圖ヲ調製シ中隊長ノ射撃指揮ニ便ナラシムル
ヲ要ス而シテ射撃圖ハ爲シ得レハ大隊射撃圖ト時々照合スルヲ可トス

連絡施設

第三百五十九 連絡施設ハ主トシテ觀測所ト補助觀測所、大隊觀測所、放列
陣地トノ間ニ之ヲ行フモノトス此際適宜電話、視號、遞傳等ヲ併用シ常ニ連
絡ノ確實ヲ期セサルヘカラス

爾後ノ諸施設

第三百六十 觀測小隊長ハ爾後ニ於ケル諸施設ノ變更及陣地變換等ヲ顧慮シ
適時人員、器材ノ集結及配置ノ變更等ヲ行ヒ以テ戰況ノ推移ニ應スル準備ヲ
整フルコト緊要ナリ而シテ敵情搜索、射撃觀測及連絡ノ施設ノ撤收ハ中隊長
ノ命令ニ依リ實施スルモノトス之カ爲觀測小隊長ハ撤收スヘキ箇所及區域竝
著手ノ時機、爾後ノ集地等ヲ明示シ速ニ部下ヲ集結スルコト緊要ナリ夜間
ノ撤收ニ於テ特ニ然リトス

陣地進入ノ指揮

第三百六十一 中隊長ハ自ラ中隊ヲ指揮シテ陣地ニ進入スルモノトス然レト
モ狀況ニ依リ其指揮ヲ小隊長ニ委スルコトアリ
中隊ノ陣地進入ヲ指揮スル小隊長ハ所要ニ應シ先行シテ放列陣地ノ一般ヲ觀
察スルモノトス

一齊進入

第三百六十二 中隊ヲ一齊ニ陣地ニ進入セシムル場合ニ於テハ中隊長若ハ中
隊ヲ指揮スル小隊長ノ號令ヲ以テ放列ヲ布置スルモノトス

分三六

陣地進入ノ指揮
原九元

各個進入
分三七〇

分隊ヲ各個ニ陣地ニ進入セシムル場合ニ於テハ中隊ヲ放列陣地ノ直後マテ誘導シ通常小隊長(觀測小隊長ヲ除ク)及分隊長等ヲ放列陣地ニ招致シ之ニ砲車位置、進入路、彈藥ノ卸下地或ハ集積所其他所要ノ事項ヲ示シ偵察ヲ行ハシメタル後分隊長ノ號令ヲ以テ放列ヲ布置セシムルモノトス

砲車位置ハ之ヲ概示スルカ若ハ指定スルモノトス而シテ特ニ砲車ノ眼鏡(十五榴及十加觀準儀)ヲ指定位置ノ直上ニ導カシムルトキハ中隊長ハ砲車小隊長以下ニ之ヲ明示スルヲ要ス

第三百六十三 陣地進入ニ方リ中隊長ハ適時砲車小隊長ニ中隊ノ任務、配置、各砲車ノ位置、首線ノ方向及射撃ヲ準備スヘキ範圍並方向準備及陣地設備ノ要領等ヲ明示スルヲ要ス

第三百六十四 陣地進入ハ成ルヘク敵眼ニ遮蔽シテ行フコト緊要ナリ之カ爲メテ地形ヲ利用シ爲シ得レハ遮蔽物ヲ設クルヲ可トス又要スレハ下馬シテ陣地ニ進入セシメ或ハ臂力ヲ以テ車輛ヲ搬送セシムルコトアリ

敵ノ空中搜索ヲ困難ナラシムル爲ニハ勉メテ林縁、並木等ヲ利用スルヲ可トス又敵ノ飛行機上空ニ活動スル場合ニ於テハ狀況之ヲ許セハ一時停止スルヲ有利トスルコトアリ

第三百六十五 歩度ノ選擇ハ狀況ニ依ルモ通常常歩若ハ速歩ヲ用フルモノトス

敵眼ニ暴露シ若ハ敵ノ烈シク射撃スル地域ヲ速ニ前進シ或ハ狀況急ヲ要スルトキハ迅速ナル歩度ヲ適用スルモノトス特ニ後者ノ場合ニ於ケル陣地進入ノ

進入隊形
第三百六十六 隊形ノ選擇ハ狀況特ニ地形ニ關ス縱隊ハ地形ニ適合シ易ク且運動及遮蔽ニ便ナルヲ以テ陣地進入ニ有利ナルコト多シ

敵火ノ下ニ在リテ行動スル場合ニハ側面ヲ敵方ニ現シ又ハ同一方向ニ永ク運動スルコトハ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トス敵ノ烈シク射撃スル地域ヲ通過スル際シ狀況之ヲ許セハ車馬ノ距離ヲ増大スルヲ有利トス又一地域ヲ迅速ニ通過スル爲横隊ヲ用フルヲ可トスルコトアリ

第三百六十七 山砲ニ在リテハ進入路狹隘ナルカ或ハ峻峻ナルトキハ砲車ヲ分解シ臂力ヲ以テ之ヲ陣地ニ搬送セシムルヲ可トスルコトアリ又繋駕シテ進入スル場合ニハ必要ナラサル馬ヲ適宜後方ニ留メ且放列布置後直ニ射撃開始ヲ必要トスル場合ニハ砲車ニ防楯、表尺及眼鏡ヲ裝シ砲手ニ信管廻ヲ携行セシムルヲ可トス

第三百六十八 陣地進入ニ方リテハ縦ヒ人馬、材料ノ損傷アルモノ之ニ顧慮スルコトナク勉メテ速ニ陣地ニ就クヲ要ス砲車若運動ニ堪ヘサルニ至レハ小隊長ハ之ヲ陣地ニ導ク爲必要ノ處置ヲ爲シ他ノ分隊ト共ニ陣地ニ到ルモノトス

第三百六十九 控置セラレタル中隊ハ上級指揮官ノ命令ニ基キ機ヲ失セス戰闘ニ加入スルヲ要ス之カ爲中隊長ハ該指揮官ト密ニ連絡シ且所要ノ準備ヲ行ヒ爲シ得レハ豫メ小隊長及分隊長等ヲ豫定陣地ニ招致シ所要ノ命令ヲ與ヘ置クヲ可トス

第三百七十 夜間ノ陣地進入ノ爲ニハ中隊長ハ爲シ得ル限り晝間豫メ所要ノ

損傷
分三七六

控置セラレタル中隊

夜間進入
第三百七十

分三七五
大三六
原九二五

偵察ヲ行ヒ進入ノ方法ヲ詳細ニ決定スルト共ニ進入路、主要ナル射向、砲車
位置、中隊段列ノ位置、彈藥集積所又ハ野、騎、山砲ニ在リテハ中隊段列ヨ
リ來ル彈藥車(山砲彈藥班)ノ位置、十五榴及十加ニ在リテハ彈藥卸下地等ヲ
標示シ又勉メテ射撃ノ諸準備ヲ完了シ且現地ニ就キ小隊長及分隊長等ニ所要
ノ事項ヲ指示スルヲ要ス
夜間ハ動モスレハ方向ヲ誤リ又ハ故障ヲ生シ或ハ連絡ヲ失ヒ易ク特ニ晝間豫
メ諸準備ヲ爲ス能ハサル場合ニハ放列正面ノ決定並射向ノ附與ハ困難ナルヲ
通常トス故ニ中隊長ハ成ルヘク平易ナル進入路ヲ選定シ要スレハ之ヲ補修シ
且磁針、地圖、天體、地物等荷モ方向決定ノ資ト爲スヘキモノハ悉ク之ヲ利
用シ尙關係部隊トノ連絡ニ勉メ或ハ案内者ヲ設クル等適切ナル處置ヲ講スル
コト緊要ナリ
夜間ノ陣地進入ニ方リテハ人馬、車輛等ノ音響ニ依リ往々敵ニ我カ企圖ヲ察
知セラルルコトアルヲ以テ勉メテ音響ヲ防止スル手段ヲ講スルヲ要ス又燈火
ヲ用フルトキハ敵ニ認識セラレサル如ク特ニ注意スヘシ
第三百七十一 中隊陣地ニ進入スルヤ狀況ニ適應スル如ク速ニ射撃設備ヲ爲
シ次テ其他ノ設備ニ及スモノトシテ此等設備ノ爲射撃ヲ忽セニスヘカラ
ス狀況ニ依リ豫メ陣地設備ヲ實施シタル後陣地ニ進入スルコトアリ

第五章 射撃

第三百七十二 要則
中隊ハ中隊長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ確實ナル連繫及嚴肅ナル射

要旨

進入後ノ
施設
分三七九

射撃軍紀
中隊長ノ
實務

射撃軍紀ニ依リ恰モ一機關ノ運轉スル如ク整齊圓滑ニ動作シ以テ火砲ノ最大威
力ヲ發揚シ得ルヲ要ス
射撃軍紀トハ如何ナル場合ヲ問ハス射撃間號令、命令ヲ確實ニ實行シ射撃ニ
關スル諸法則ヲ嚴守スルヲ謂フ

第三百七十三 中隊長ハ射撃效力及射撃ニ關スル諸法則ヲ熟知シ射撃觀測ニ
熟達シ他兵種特ニ歩兵ノ戰闘法ニ通曉シ如何ナル場合ニ於テモ確實ニ中隊長ヲ
掌握シ常ニ確乎タル自信ヲ以テ射撃ヲ實施シ完全ニ戰闘ノ要求ヲ充足シ得ル
ヲ要ス

第三百七十四 狀況ニ應シ迅速確實ニ射撃ノ諸準備ヲ整フルハ射撃成功ノ第
一步ナリ故ニ中隊長ハ其方法ニ精通シ且之ニ熟練シアルヲ要ス

第三百七十五 確實ナル射撃觀測ト射撃效果ノ觀察トハ射撃指揮上極メテ肝
要ナル事項トス故ニ中隊長ハ各種ノ手段ヲ盡シ射撃ノ景況及目標ノ狀態ヲ觀
察シ且目標附近ニ於ケル諸徵候ニ注意スルヲ要ス

第三百七十六 狀況ニ適合シ確實迅速ニ效力射撃準備ヲ終ルハ射撃ノ目的ヲ達
成スル爲極メテ肝要ナリ故ニ如何ナル場合ニ於テモ修正ノ爲準備スヘキ現象
ハ十分ニ之ヲ利用シ且射撃ノ諸法則ヲ適當ニ應用スルヲ要ス而シテ修正ヲ遲
疑シ或ハ修正量過小ナルハ多クノ場合ニ於テ效力射撃準備ヲ遲緩セシメ機ヲ失
スルモノトス

第三百七十七 第一節 射撃操作
射撃ニ關スル中隊長ノ動作ハ特ニ規定スルモノノ外中隊長ノ號

射撃動作

迅速確實
諸準備
射撃觀測
射撃效果
果ノ觀察
效力射撃
備

發射 秒數指定 中三五

各個射 分三三 分三二 分三一 分三〇 分二九 分二八 分二七 分二六 分二五 分二四 分二三 分二二 分二一 分二〇 分一九 分一八 分一七 分一六 分一五 分一四 分一三 分一二 分一一 分一〇 分九 分八 分七 分六 分五 分四 分三 分二 分一

指命發射 分三六 分三五 分三四 分三三 分三二 分三一 分三〇 分二九 分二八 分二七 分二六 分二五 分二四 分二三 分二二 分二一 分二〇 分一九 分一八 分一七 分一六 分一五 分一四 分一三 分一二 分一一 分一〇 分九 分八 分七 分六 分五 分四 分三 分二 分一

發射 中三五 五秒

發射スヘキ順次ニ在ル分隊所命ノ如ク發射シ得サルトキハ分隊長ハ之ヲ小隊長ニ報告シ次ノ發射順次ノ分隊長ニ通報ス通報ヲ受ケタル分隊長ハ直ニ發射ス小隊長ハ發射シ得サリシ分隊ノ番號ヲ中隊長ニ報告ス順次ニ發射シ得サリシ分隊ノ發射ニ關シテハ其小隊長之ヲ命令シ發射スルヤ直ニ中隊長ニ報告ス

第三百八十三 各個射ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

各個ニ擊テ

各分隊ハ所命ノ發射速度ヲ以テ發射ス

第三百八十四 指命ニ發射セシムルニハ發射法ノ號令ニ左ノ號令ヲ冠シ且「次キ」ノ號令若ハ記號ヲ以テ二發目以後ノ發射ノ時機ヲ示ス

指命

翼次射ニ在リテハ各分隊ハ發射順次ニ從ヒ示サレタル時機ニ發射ス

各個射ニ在リテハ各分隊ハ示サレタル時機ニ發射ス

指命ニ發射中彈數ヲ限リ續イテ發射セシムルニハ「何秒(連續)何回次キ」ノ號令ヲ下ス翼次射ニ在リテハ發射順次相當ノ分隊ヨリ中隊ヲ通シテ順次ニ又各個射ニ在リテハ各分隊毎ニ所命ノ發射速度ヲ以テ所命ノ回数ニ等シキ彈數ヲ發射ス

第三百八十五 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ發射法ノ號令ニ例ヘハ左

ノ開始

號令ノ復

砲車ノ固

有修正量

裝填及發

射速度ノ

區分

發射法ト

裝填法ト

下命

翼次發射

令ニテ直ニ之ヲ始ム而シテ某小隊或ハ其分隊ニ限リ操作セシムルニハ號令ニ冠スルニ例ヘハ「右(左)小隊」或ハ「第三」等ヲ以テス

第三百七十八 射擊ニ關スル中隊長ノ號令ハ砲車小隊長之ヲ復唱ス此復唱ハ中隊長ニ近キ小隊長ヨリ逐次ニ之ヲ行フ但某小隊或ハ某分隊ニ關スル號令ハ通常其小隊長ノミ復唱ス

第三百七十九 中隊長ハ分隊長ヲシテ砲車ノ固有修正量ヲ修正セシムルトキハ適時之ヲ命令スルモノトス

第三百八十 裝填法ヲ彈數指定及連續ニ、發射速度ヲ秒數指定、連續及指命ニ、發射法ヲ翼次射及各個射ニ分ツ

第三百八十一 發射法ヲ命令スルニハ發射速度ヲ冠シ又裝填法ヲ命令スル毎ニ發射法ヲ命令スルモノトス而シテ一旦發射速度ヲ號令セハ爾後之ヲ變更スルカ或ハ發射法ヲ變更スルマテ其號令ヲ省略スルコトヲ得

第三百八十二 翼次射ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ヨリ擊テ

連續裝填ニ在リテハ右(左)翼分隊ハ直ニ發射シ其他ノ分隊ハ所命ノ發射速度ヲ以テ順次ニ發射シ左(右)翼分隊ニ至リ爾後以上ノ動作ヲ反復ス

彈數指定ノ裝填ニ在リテハ各分隊ハ所命ノ彈數ヲ發射シ終ルマテ前項ヲ適用ス

左(右)翼分隊ノ發射終ルヤ其小隊長ハ要スレハ「擊終リ」ト唱ヘ右(左)小隊長ニ通報ス

分三
分二
分一
連續射擊

一部射擊

離級梯射距

翼次射ニ在リテハ各分隊ハ所命ノ順次ニ從ヒ所命ノ秒數ヲ間シ發射ス
各分隊ニ在リテハ各分隊ハ每發所命ノ秒數ヲ間シ發射ス
第三百八十六 連續ニ發射セシムルニハ發射法ノ號令ニ左ノ號令ヲ冠ス
連續
翼次射ニ在リテハ各分隊ハ所命ノ順次ニ從ヒ續イテ發射ス
各分隊ニ在リテハ各分隊ハ發射準備成ル毎ニ發射ス
第三百八十七 中隊ノ一部ニテ射擊セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下シ且發射法ヲ命スルモノトス
第一發射

或ハ

右(左)小隊發射

所命ノ分隊或ハ小隊ハ所命ノ發射法ニ從ヒ發射シ其他ノ分隊或ハ小隊ハ裝填及發射ヲ行フコトナク諸元ノ裝定及修正其他所命ノ準備ヲ爲スモノトス
中隊ノ一部ニテ射擊シアルトモ中隊ヲ以テスルニハ「中隊」ノ號令ヲ下シ且新ニ裝填法及發射法ヲ號令スルモノトス
第三百八十八 各分隊ヲシテ一翼分隊ヨリ逐次ニ等差アル級梯ト射距離ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
右ヨリ百増セ(減ケ)

或ハ

左ヨリ百増セ(減ケ)

射向閉

中隊長ノ位置ト指揮ノ大目ニ射擊目標ノ換ノ獨斷變

基準タル分隊ハ射距離ヲ變換スルコトナク其他ノ分隊ハ放列ニ於ケル其分隊ノ番號ト基準タル分隊ノ射距離ニ増減シタルモノヲ取ル之カ爲基準ニアラサル分隊ノ分隊長ハ其分隊ノ取ルヘキ射距離又ハ其増(減)量ヲ令ス
第三百八十九 各分隊ノ射向ヲ某分隊ノ射向ニ關シ逐次ニ等差アル方向角ヲ以テ閉閉セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
第二基準 十開ケ
或ハ

或ハ

第三基準 十閉メ

基準タル分隊ハ射向ヲ變換スルコトナク其他ノ分隊ハ其位置基準タル分隊ノ右(左)ナルニ從ヒ放列ニ於ケル其分隊ノ番號ト基準タル分隊ノ番號トノ差ヲ所命ノ閉閉量ニ乘シタル量ヲケ右(左)ヘ或ハ左(右)ヘ修正ス之カ爲分隊長ハ其分隊ノ取ルヘキ修正量ヲ命ス
第二節 射擊指揮

射擊指揮

第三百九十 中隊長ハ戰間通常觀測所ニ位置シ射擊任務ニ基キ射擊ヲ實行ス狀況ニ依リ射擊指揮ヲ一時小隊長ニ委スルコトアリ
第三百九十一 中隊長ハ危急ノ場合若ハ大隊ノ射擊任務ノ範圍内ニ在ル目標ニ對シ速ニ經過スヘキ好機ニ乘セントスル場合ニ於テ大隊長ノ命令ヲ待ツノ違ナキトキハ自ラ目標ヲ變換スルコトヲ得然ルトキハ直ニ之ヲ大隊長ニ報告スルモノトス

試射點

ハ中隊長ノ命令ニ從ヒ放列全般ノ指揮ニ任スルモノトス此際該小隊長ハ中隊長トノ連絡及放列全般ノ指揮ニ便ナル所ニ位置スルヲ可トス

野、騎、山砲ニ在リテ中隊長ハ射擊任務ニ基キ射擊目標、射擊ノ目的、試射點、射擊ノ方法、射彈觀測ノ方法、射擊地域、彈藥ノ種類及數量等ニ關シ所要ノ事項ヲ決定シ射擊ヲ實施スルモノトス

第三百九十九 効力射準備ノ爲ニハ射擊ノ結果ニ依ル法ヲ用フルヲ通常トスルモ狀況ニ依リ計算法ニ依ルコトアリ

第四百 射擊ノ結果ニ依リ効力射準備ヲ行フニハ中隊長ハ通常大隊長ノ命令ニ基キ効力射ノ目的ニ適應スル如ク試射ノ程度、彈藥ノ種類及數量、使用砲數並射彈觀測ノ方法等ヲ定メ所望ノ射擊諸元ヲ確實迅速ニ求メ得ル如ク射擊ヲ實施シ且其結果ヲ利用シ其他ノ目標又ハ地點ニ對スル効力射ノ基準諸元ヲ求ムルモノトス

中隊長ハ効力射準備ノ爲ノ射擊ヲ行ハサルトキニ在リテモ中隊長ハ爲シ得レハ他部隊ノ射擊結果ヲ利用シ射擊ヲ準備スヘキ目標又ハ地點ニ對スル基礎諸元ニ所要ノ修正ヲ施スモノトス

第四百一 直接目標ニ對シ試射スル場合ノ試射點ハ目標ノ景況、其附近ノ地形並風向及火砲ノ精度等ヲ考慮シ射彈觀測最モ容易ナル部分ニ之ヲ選定スルヲ有利トス而シテ射彈觀測ニ大ナル難易ナキトキハ爾後行ハントスル効力射ヲ容易ナラシムル如ク定ムルヲ要ス

試射ト報告

第三百九十二 中隊長ハ試射ヲ終ルヤ直ニ其結果ヲ又適時射擊ノ效果並射擊ニ依リ知り得タル目標ノ狀態等ヲ隊長大ニ報告スルモノトス

第三百九十三 中隊長ハ小隊長ヲシテ常ニ狀況ヲ明ニシ中隊長ノ任務ヲ了解セシムルコトニ勉ムルヲ要ス之カ爲成ルヘク射擊ノ準備間彼我ノ狀況、基點、標點、中隊長ノ射擊任務等ニ關シ所要ノ事項ヲ示シ尙射擊間ト雖適時之ヲ補足スルモノトス

第三百九十四 野、騎、山砲ニ在リテハ中隊長ハ任務及地形ニ應シ最低表尺(騎砲、山砲最低表尺又ハ最高表尺)ヲ測定セシムルモノトス而シテ最低表尺測定ノ爲ニハ測定セントスル方向並高低角ヲ分隊長ニ示スヲ要ス

十加ニ在リテハ前項ニ準シ最低表尺ヲ測定スルモノトス

十五榴ニ在リテハ砲車小隊長ハ要スレハ分隊長ニ測定セントスル方向ヲ示シ遮蔽角ヲ測定セシメ之ヲ中隊長ニ報告スルモノトス

第三百九十五 中隊長ハ射擊ノ實施ヲ容易ニスル爲爲シ得レハ附屬下士等ヲシテ必要ノ事項ヲ記錄セシムルヲ可トス

第三百九十六 觀測小隊長ハ敵情及地形ノ搜索、射擊諸元ノ決定、射彈觀測及連絡等ニ關シ中隊長ヲ輔佐ス

第三百九十七 砲車小隊長ハ射擊間中隊長トノ連絡ヲ顧慮シ小隊長ノ指揮ニ便ナル所ニ位置シ部下ノ操作ヲ監視シ中隊長ノ意圖ヲ確實ニ實施セシムルヲ以テ主要ナル任務トス

中隊長若其位置ヨリ直接ニ放列ヲ指揮シ得サルトキハ高級先任ノ砲車小隊長

目深正射効高裝十五量彈キレ城リ大	標大面力彈藥低藥五種種ヲ射隊	及深及射力彈藥低藥五種種ヲ射隊	縦深及射力彈藥低藥五種種ヲ射隊
------------------	----------------	-----------------	-----------------

接目標ニ對シ精密ニ試射シ爾後射彈ヲ觀測シ得ル場合ニ適用スキヘモノトス
 射擊地域ヲ定ムルニハ射擊ノ目的、目標ノ種類及狀態、效力射準備ノ程度並
 射彈觀測ノ難易等ヲ考慮シ目標若ハ其存在ヲ判定シタル地域ノ幅員ニ所要ノ
 正面及縦長ヲ増加スルモノトス
 第四百六 大隊長ヨリ射擊地域ヲ示サレタル場合ニ於テハ中隊長ハ效力射ノ
 方法ヲ詳細ニ定メ要スレハ所要ノ事項ヲ豫メ小隊長以下ニ示シ彈藥其他ノ準
 備ヲ整ヘシメ射擊開始ノ命令ヲ受クルヤ直ニ效力射ヲ實施スルモノトス
 第四百七 一射擊ニ使用スヘキ彈藥ノ種類及數量ヲ決定スルニハ射擊ノ目
 的、目標ノ種類及狀態、地形、射距離等ヲ考慮スルヲ要ス而シテ彈藥ハ如何
 ナル場合ニ於テモ之ヲ節用スルコト緊要ナリ
 第四百八 十五榴ノ裝藥號及高低射界ハ射擊ノ目的、目標ノ種類及狀態ニ鑑
 ミ存速、命中角、命中精度、射擊速度、效力界及遮蔽角並火砲ノ愛惜等ヲ顧
 慮シ且射擊間多少射距離ヲ増減スルモ裝藥ノ變更ヲ要セサル如ク之ヲ選定ス
 ルヲ要ス
 第四百九 效力射ハ狀況ノ許ス限リ射彈ノ觀測ヲ行ヒ實施スヘキモノトス而
 シテ射彈ヲ觀測セシテ射擊セサルヘカラサル場合ニ於テハ特ニ氣象ノ變化
 ニ依ル平均點ノ移動ヲ顧慮スルコト緊要ナリ
 第四百十 正面及縦深大ナル目標ニ對シテハ火力ヲ其要點ニ指向スルカ適宜
 區劃ヲ定メ一區劃毎ニ射擊シ或ハ同時ニ火力ヲ全地域ニ指向スルモノトス而
 シテ其何レニ依ルヘキヤ又何レノ區劃ヨリ射擊スヘキヤハ主トシテ狀況特ニ

一射効準計數射効準	距離擊力備ル算射備効	數射備効數射備効	數射備効數射備効
-----------	------------	----------	----------

轉移射ノ爲ノ試射點ハ前項並標點選定ノ要領ニ準シ選定スルノ外目標トノ關
 係位置ヲ成ルヘク精密ニ測定シ得ル點ニ之ヲ定ムルヲ要ス
 第四百二 効力射準備ノ爲ノ射擊ニ於ケル發射法ハ射彈觀測ノ容易ナルコト
 ヲ主眼トシテ決定シ其發射速度ハ射彈ヲ觀測シ且必要ノ修正ヲ爲シ得ル餘裕
 アルヲ以テ標準トスヘキモノトス
 效力射準備ノ爲ノ射擊ニ用フヘキ砲數ハ狀況ニ依リ異ナルモ射彈ノ觀測及修
 正ノ便否等ヲ考慮シテ決定スヘキモノニシテ射擊間ニ於テモ實施ノ現況ニ鑑
 ミ適宜砲數ヲ増減スルヲ要ス
 第四百三 計算法ニ依リ效力射準備ヲ行フニハ測地成果ヲ使用シテ求メタル
 基礎諸元ニ彈道ニ及ス各種偏差ノ修正ヲ施シ效力射ノ基準諸元ヲ求ムルモノ
 トス
 第四百四 效力射ニ於ケル發射速度並發射法ハ射擊ノ目的、目標ノ狀態及使
 用シ得ヘキ彈藥數ニ適應セシメサルヘカラス而シテ長時間射擊ヲ繼續スルト
 キハ火砲ノ衰損ヲ顧慮シ發射速度ヲ適宜減スルヲ可トス
 效力射ハ中隊ノ一部ヲシテ射擊ヲ中止シ火砲ノ冷却若ハ拭淨等ヲ行ハシムルヲ可
 トスルコトアリ
 第四百五 大隊長ヨリ射擊目標ヲ指示セラレルカ又ハ自ラ射擊目標ヲ選定シ
 テ射擊ヲ實施スル場合ニ於テハ中隊長ハ射擊地域ヲ定メ其大小ニ應シ數距離
 若ハ一距離上ニ效力射ヲ行フモノトス而シテ一距離上ニ行フ效力射ハ通常直